

UFO研究は人間研究

UFO

GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・超能力・宇宙哲学

コンタクティー

contactee

UFO目撃で驚嘆、大変化した私

仙台市上空にUFO長時間出現

富士山周辺でテレパシーに答えるUFO群

ミラクルワードとイメージ法で奇跡を起こす

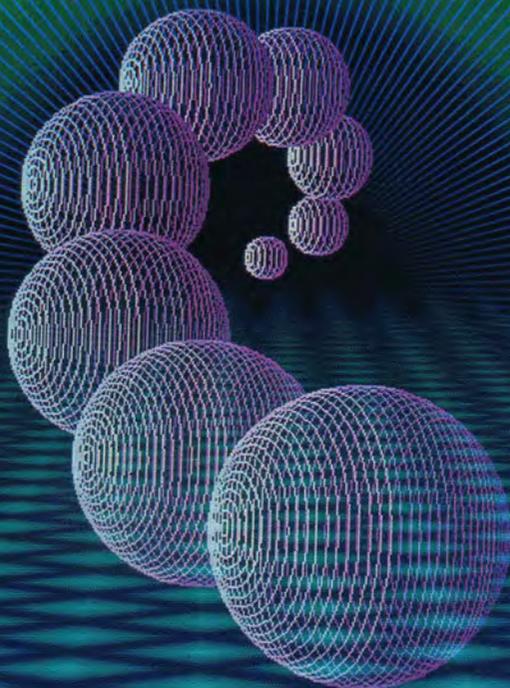
良い想念であなたの環境は良くなる

〈連載第5回〉

UFO-宇宙からの完全な証拠

AUTUMN
1988

102



〈巻頭言〉アリス・ボマロイ女史	1
UFO目撃で驚嘆、大変化した私	後藤 泰二 2
仙台市上空にUFO長時間出現	遠藤 昭則 6
富士山周辺でテレパシーに応えるUFO群	長沼 宏志 10
GAP短信	15
科学—SCIENCE	16
〈写真〉月面の人工建造物!?	17
ミラクルワードとイメージ法で奇跡を起こす	田中 正 18
良い想念であなたの環境は良くなる	20
UFO-宇宙からの完全な証拠 〈連載第5回〉	ダニエル・ロス
〈報告〉仙台・山形合同支部大会／秋田・青森合同支部大会	38
〈写真〉秋田市の不思議な色光	39
〈予告〉昭和63年度日本GAP総会 〈アリス・ボマロイ女史大講演〉	42
本誌バックナンバー掲載記事目録	44
〈予告〉福岡支部大会	45
〈広告〉アダムスキー全集／英文版クーコン	46
日本GAP全国支部月例研究会案内	47

表紙写真 グレードワン



◀金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の女性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて「コスミック・パワー」の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた「生命の科学」の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

アリス・ポマロイ女史がアメリカから来日する。今年九月二十五日、東京で開催予定の日本GAP総会で招待講演を行なうためである。

女史はジョージ・アダムスキーの弟中、唯一の現存者であり、アダムスキーの人格やア氏問題をだれよりも熟知する貴重な人物であるから、アダムスキーを支持するUFO研究者にとって歴史的人物である。来日の意義は大

きい。編者が初めて女史に会ったのは昭和五十年秋、宿願であった最初のアメリカ

〈巻頭言〉

アリス・ポマロイ女史



カ旅行を個人的に敢行したときである。まず西部カリフォルニア州ビスタのアダムスキーの家でア氏の遺志を継いでいた同じく高弟のアリス・ウェルズ女史を訪問し、そのあと東部へ回り、ニューヨークを経てマサチューセッツ州ノースポロ町に住むポ女史の宅を訪ねたのは十一月月上旬である。このときの女史との会談内容はアダムスキー全集(文久書林刊)第七巻『アダムスキー論説集』に掲載されているので参考にされたい。

1 あのとときは同行者二名とともに女史

宅へ三日間滞在させて頂き、当時夫君が健在でこの方とも親しく語りあった。温厚なタイプだがア氏問題に関心はなかったようで、そのためにアリス女史とずいぶんトラブルがあったと聞いた。人の好きそうな老紳士だったが、その後ガンで亡くなられた。

女史の家はボストンから七、八十キロのウースター市に近い内陸部の人口二万ばかりの町の郊外にある山林中の一軒家で、約百メートル離れて、妹のメリーさんが嫁いでいる家がある。近くに民家はほとんどなかった。

しかし木造二階建の女史の家は堂々たるイギリス風の文化住宅で、東京へ持ってきて異彩を放つだろう。しかもこの住宅は素人の夫君が独力で建てたというからアメリカ人のパイオニア精神を如実に実感した。日本人の真似のできることはない。

ノースポロはニューイングランド地方の典型的な田舎町だが、民家その他公共建築物は英国の伝統を残した重厚なスタイルのものばかりで、西部の安っぽい建築とは一線を画している。ただしカリフォルニアの民家がほとんど平屋なのは大地震の際に飛び出やすいことを考慮したのだという。

ポマロイ女史は予想に反して快活な婦人だった。アダムスキーは他界した年の春、東部地方の各地で講演をやったが、女史はその助手として活躍した。ア氏が他界したときは葬式や埋葬のす

べてをとりしきり、一切の手続きを行なった。

その後西部のカ州へ行き、ア氏の弟子たちと善後策を協議してグループの再建を図ったけれども、御多分にもれず分裂が生じて東部へ帰り、以後はラウンドレーターと題する機関誌をしばらく出していたが、経済的理由で中止した。

感性の鋭敏な女史は他人を見抜く力にすぐれ、そのためにカ州のグループから敬遠されたけれども、昨年八月、十二年ぶりにニューヨークで編者と再会し、ワシントンのアーリントン墓地のア氏の墓へ案内してくれたとき、女史は意外な話をした。彼女を圏外へ押し出したそのグループを決して恨んでいないどころか、むしろ愛しているというのである。これには大きなショックを受けて返す言葉もなかった。

GAP旅行団が故ケネディー大統領の墓の方へ移動して行ったあと、女史はアダムスキーの墓を見つめて涙を浮かべながら秘話を語ってくれた。アダムスキーの遺体は焼かないで土葬にしたという。これはア氏の遺志であったらしい。肉体を大地に還らせるのが宇宙的ということなのだろうか。

ワシントン市内をバスで観光中はまた快活な老婦人にもどって、ユーモラスな発言をしていた。

「今夜の旅行団のディナーパーティーにはレーガン大統領を招待しようか」

と言って哄笑する。常に楽しそうな微笑を浮かべて宇宙的なフィーリングを失わず、愛の精神の実践に徹した女史こそ、やはり真実の宇宙的カルマを持つ人と思わせる雰囲気はただよわせていた。

女史はむかしから日本に大いなる憧れをいだき、十三年前も自宅で英文タイプライター、テレビその他で日本製品を使っていた。安くて優秀だという夫君が愛用していた大型オルガンも日本のヤマハ製だった。また日本GAPを高く評価し、アダムスキー問題の促進活動で日本GAPを凌駕する団体は他にないと言っていた。

今秋、日本GAPがポマロイ女史を招待し、アダムスキー問題について講演を行なうことに決定したのは、昨年のダニエル・ロス氏の招待に続いてわが国のUFO研究界で画期的なことである。しかも高齢の女史の来日はおそらく今回限りであろうと思われるので、日本GAP会員が大挙して出席された。この機会をのがせばアダムスキーに関する生き証人に再会することはむずかしくなるだろう。

アダムスキーや世界のGAP活動網に関して捏造や歪曲に満ちた本が国内外に流布している現在、真実の証言が聞ける絶好の機会である。総会の詳細は本号42・43頁に掲載されている。東京本部役員一同も準備に万全の態勢をしいてあたたかくお迎えする。(久)

UFO目撃で驚嘆、大変化した私

●後藤泰一

UFOへの憧れは度重なる目撃へと発展し、奇妙に良い事ばかりが続出するようになった一青年の素晴らしい体験手記。

昨年の大晦日、私は一人で行徳海岸までドライブした。雲一つない青空の下、釣り人たちを見ながら海岸を歩いていると、ある人が「おい、あれを見ろ！」と大声で私に呼びかけ、空を指さした。見ると驚くべきことに、白色に光る球体が空に浮かんでいた。そしてこれが世間をさわがしているUFOではないかと思った。というのも、以前、テレビのUFO特集などでUFOを見ており、それと同じような動きをしていたからである。

当時その場所には約二十人の釣り人がいたが、その全員が同時にその不思議な物体を目撃した。その物体はこの世の物とは思えぬ飛び方をしており、私は怖いような、嬉しいような、不思議な気持ちになったのである。

UFOと宇宙哲学の深遠な意義

私は少年の頃からUFOに興味があ

り、その存在には強い確信を持っていた。そして新聞などにUFOの写真が載っているのを見てはひどく興奮したことを覚えている。また、マンガ家に憧れていたのもこの頃で、SF小説やSFマンガに熱中し、手塚治虫氏のマンガをまねたマンガを描いてはその中に宇宙人やUFOを登場させた。中学生の頃には授業中、教室の窓からUFOらしき物体を見たこともある。高校時代にはジョージ・アダムスキー氏や平野威馬雄氏の本や、デニケンの『星への帰還』などを読み、宇宙に対する憧れは強くなっていった。

高校卒業後、私はデザイン学校へ入り、現在は印刷会社でグラフィックデザイナーとして働いている。

私は二十三歳のときから上野の都美術館で行なわれる春の美術展に毎年油絵を出品し続けてきた。私自身の絵のテーマは、私の心の世界、精神世界を描く事で、前田常作氏のマンダラの世界、

横尾忠則氏の一連の作品、喜太郎のシルクロードの音楽の世界などが私のインスピレーションの源泉だった。

奇妙なことに、私の絵には必ずアダムスキー型円盤が描かれる。これは自分でもよくわからないのだが、超越的・瞑想的なイメージを表現しようとする時、UFOを出現させるのが一番ふさわしいと思ったからである。

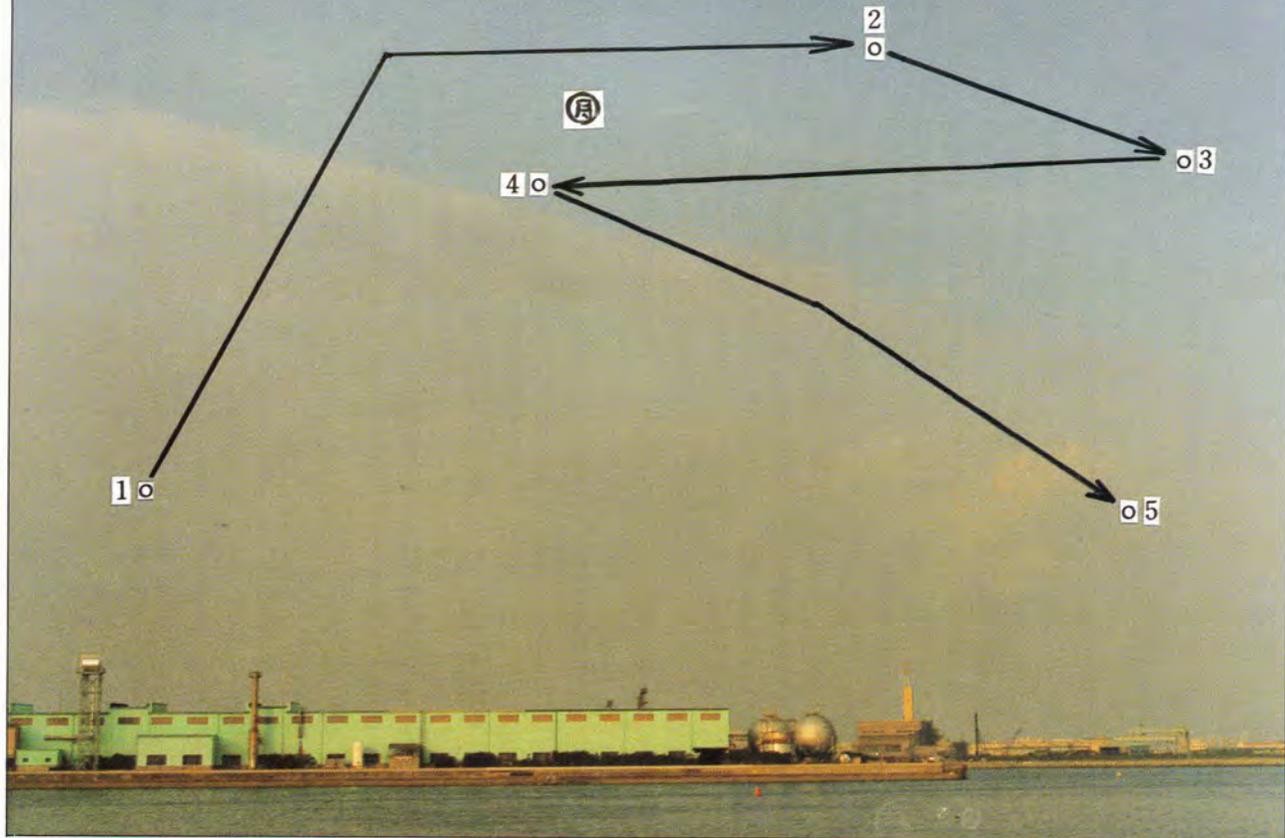
横尾氏のUFOに関する思考は私を夢中にさせた。かつて氏は故ビートルズのジョン・レノン氏の平和運動やヒッピー革命、ロック文化などについての作品を多く描いた。芸術家を目差す若い人々にとって彼は魂の導師的役割を果たしてきたのである。横尾氏は自著において、アダムスキー氏の『空飛ぶ円盤同乗記』(アダムスキー全集第一巻『宇宙からの訪問者』第二部)について、アダムスキー氏が巨大な母船内でマスターから深遠な宇宙哲学を教わり、それを実践したということに感動

したと語っている。彼にとってアダムスキーは救世的な役割を果たし、彼の芸術家としての従来の主義主張がいかに個人的な狭い範囲のものであるかということを教えられたと言っている。広大な宇宙から飛んで来るUFOにより、自分自身の存在の矮小さを教えられたという。

これはまさに私にとっても同じ想いだった。人間は宇宙の一部分なのだ。人間の小指の先の細胞の数だけでも、この銀河系の星の数に匹敵するそうだ。UFOを研究する事は、人間を、自分自身を知るところから始まるのではないだろうか。われわれは一体何物で、何のために生きてゆくのかなどの哲学的な問題なのではないだろうか。

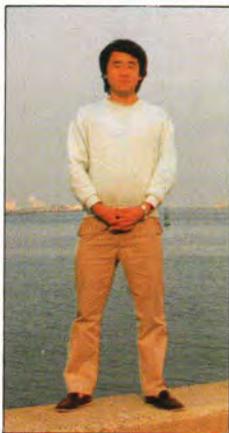
また、アダムスキー氏の宇宙哲学とはどういうものだろうか。人間のセクスマインドすなわち肉体の心と宇宙の意識との一体化を中心として人間を進化させる方式を説くという、二十世紀の科学の最先端を行くといわれるこの宇宙哲学とは、どのような哲学なのだろうか。

また、人間にはもともとテレパシー能力があるということだが、実際にそれを自覚して応用している人はどのくらいいるのだろうか。人間が進歩すればテレパシーで会話をしたり超常現象を起こすことができるといわれている。ということはUFO現象に伴う宇宙感覚への指向と目覚めがわれわれの意識



▲行徳海岸に出現したUFOの航跡を筆者が現地写真中に書き込んだもの。

▼目撃現場に立つ筆者。



を拡大しつつあり、五感に頼り切っていた肉体感覚から、より高次なるものの知覚、宇宙の意識との交流などにより人類を進歩させることができるのではないだろうか。私自身も常識の枠を少しでも広げ、テレパシーの訓練などを実践してゆきたいと考えている。

行徳海岸に美しいUFOが出現

さて話題をUFO目撃事件にもどすことにしよう。

昨年（昭和六十二年）十二月三十一日の午後三時すぎ、雲一つない快晴下の行徳海岸（千葉県）を私は散歩していた。するとある人が私を呼んだのである。その人が第一発見者の谷崎氏（会社社長）で、あとで名刺を頂いて名前を知った。

氏は午後三時頃、車の中から日新製の煙突の上方に丸い物体が浮かんでいるのを見た。最初は銀色に光る丸い風船が飛んでいるのかなと思っただけ、やがてその物体が上昇を始めて右の方向へゆっくり移動した。

これは風船ではないと思った氏は車をとび出て、三時十五分頃に偶然通りかかった私を大声で呼びとめたのであ

る。見上げると、たしかに銀色の丸い物体が浮かんでいる。いつかはUFOを見ることのできるはずだと思っていたので、すっかり興奮し、UFOを指さしながら大声でまわりの人々に知らせた。

はじめ谷崎氏はUFOの下に何かがついていたと言ったが、私が見たときには見かけ上丸い一円玉ぐらいの光る球体にしか見えなかった。

谷崎氏は本来未知の物体にあまり関心がない人のようなのだが、このときは非常に興奮していた。

もう一人、私といっしょに目撃したおじいさんがいる。この人は伊東さんといひ、六十五歳、都内中区区在住で、この人にはUFOが三つ葉状に見えたという。このおじいさんは、「あまり大声でUFOを呼ぶなよ。こっちに飛んできたら怖いじゃないか」と私に言った。まさしくこのときのUFOは私たちがけて飛んで来そうにも見えたのである。

UFOはやがて東京湾沖の方向へ飛んで行った。私はその場でこの二人にUFOの図を描いてもらった。

いままでもこんな飛び方をする物体を見たことがないので、まったく不思議だった。木の葉が揺れるような飛び方をしたかと思うと、上下左右に動く。黒くなったり光ったりして点滅をくり返す。一種の暗号と思えるほどに規則正しく点滅する。そして東京湾上空を

右へ大きく横切って行った。

距離や高さはわからない。このときカメラかビデオカメラでも持っていれば鮮明にUFOをとらえることができたと、残念でしかたがない。

ふたたびUFOが現れる

UFOは三時二十五分頃に消えて、まるきり見えなくなったが、それでも私たちは空を見上げていた。

すると五分後の三時三十分、白く浮かんた月の下にまたUFOが現れた！銀色に光り輝く百円玉状の物体が出現したのである。約五秒間、ゆっくりと左から右へ移動したが、あまりの素晴らしい光景に私はまたも「UFOだ！あれを見ろ！」と大声で人々に知らせた。

きれいとか素晴らしいとかではなく、この世の物とは思えぬ美しさに呆然となってしまった。まるで大宇宙の創造主が神様を見たかのように、崇高な精神状態になった。気持がとて落ち着いて嬉しくなってくる。

やがてUFOは右下方にふらふら揺れながら点滅をくり返し、四時四十分頃、完全に消えていった。UFOが現れて消えるまで、なんと四十分間を目撃していたことになる。こんな長時間の目撃はあまり例がないのではあるまいか。

私たちはUFOが出現しているあい

だ、通りすぎる人々に声をかけたり、走っている車を停止させてUFOの存在を知らせた。みんな空を見上げ、たしかに何物かが空を飛んでいると言う。これは私たちの集団幻覚ではない。私たちが目撃した物体はたしかに存在したのである。私が見たのはまったくの偶然であり、最初はむりやりに見せられたのだ。約二十人の釣り人たちが空中の物体を見て驚いたのは事実である。

こんな不可思議な物を見た体験は生まれて初めてだ。私たちはいま見た物体について議論をした。そして「あれは幻ではなく、現実の物体なのだ」と確信しあった。

この不思議な体験を何らかの方法で世間に公表したいと思った私は、岩崎氏から名刺をもらい、おじいさんには住所氏名を書いてもらった。私一人はUFOを目撃したと発表しても、写真も何もないのだから信じてもらえないだろうと思いい、できるだけ詳細に二人の発言をメモにとった。

鳥、飛行機、風船、ヘリコプターでもないあの物体は何だったのか。急に遠距離に出現したり消えたりするのだから地球上の物体とは考えられない。結局私たちは「UFOを目撃した」ということで意見が一致したのである。

書店で本誌をみつけて日本GAPを知る

UFOに関しては以前からかなり興味をもっていた私だが、まさか自分でUFOを目撃できるとは夢にも思っていなかった。こんなに長時間UFOが自分の姿を見せてくれたということはUFO側からのメッセージかもしれないと考えるようになってきた。過去五回ほど上野の美術館にUFOの絵を出品してきたので、UFOからの応答だったのではないだろうか。

それまで私は宗教というものを美術や哲学などと同じような感覚で勉強していたのだが、UFOという超現実的な物体を見せられてから考え方が変わっていった。変わらざるを得ないではないか。この大宇宙の中で人間の存在など本当にちっぽけな物だということを知ることができたからである。

アダムスキー氏の言うとおりに、UFOに乗っているスペース・ブラザーズ（別な惑星の友好的な人々）は、何らかの方法で地球人を指導しているのではないだろうか。

私は図書館にかよい、UFOや天体関係、地球の歴史の本などを借りてきて、てあたりしだいに読みまくった。UFOを見るまでは宇宙の本にあまり関心がなかったのだが、これからは勉強しなくてはいけないと思ったからである。そしてこんな不思議な体験を発表しないではいられなかった。

年が明けると早速私は「IPM」のUFO情報局のY氏に手紙を出した。

どうかこの不思議な事件の調査をお願いしたいと書いたのだが、何の返事もなかった。

どうしようかと思いついていたある日、偶然にも新小岩の書店で「UFOコンタクトティー」という雑誌をみつけたのである。このとき初めて日本GAPという会の存在と編集発行人の久保田八郎先生を知った。有名なUFO研究者が私と同じ地元の江戸川区に在住していたのに驚いてしまった。

早速電話をして今回の私のUFO目撃事件を話した。すると先生はレポートにまとめて送ってくれと言う。やがてレポートを送ると、すぐに電話をくれたので、直接先生に会いたいと言うところよく私との面会に応じてくれた。

指定の日にS駅前の喫茶店で私は今回の事件を詳細に話し、UFOに関して疑問視していた問題を聞いた。先生はころよく私の質問に答えて下さった。三時間ぐらいの会見だったが、精神が洗われるような気持ちになった。そのとき二回目のUFO目撃体験を次のように話したのである。

度重なるUFO目撃と良き物事の発生

あれは今年（六十三年）三月十二日、土曜日のことだった。前回の場所からそんなに遠く離れていない江戸川の下流、湾岸道路の鉄橋の下だった。時刻

	<p>谷崎氏が不明なUFOの目撃 目撃場所 福岡のエンツ上セウUFO 下方に、何かがぼんやりと見えるが、明かすべし (有限会社 谷崎製菓 福岡工場 東区 向野 2-3-2 社長 谷崎直良 TEL 623-1016)</p>
	<p>伊東氏が不明なUFOの目撃 目撃場所 不明 (伊東正広 中野区中野 4-48-12 55才 TEL 380-1668)</p>
	<p>和歌山県月の下で不明なUFOの目撃 100円玉 銀色 不明なUFO 銀色、不明なUFOの目撃 不明なUFOの目撃</p>

は午後三時頃で、目撃時間は約十五分である。
 私は土手でギターの練習をしていた。すると鉄橋のまん中あたりの上空に白くて丸い物体が浮かんでいる。初めは風船だろうと思つたが、見ているうちにどんどん上昇して行く。その日は風が強く吹いていたけれども、驚くべきことに風向きとは逆の方向に飛んで行くのだ。
 なぜ、またUFOを私に見せてくれたのか不思議に思つた。前回は少し怖いような気持も起つたが、今回はそれ

れがまったくない。こうなつたら徹底的に見とどけてやれと思ひ、じっくり観察した。近くに人がいないかと見渡したところ、十人ぐらいの小学生が川のほとりで遊んでいる。私は土手をかけおいて子供たちに「空のUFOを見るよ」と指さした。子供たちはおもしろがって「UFOが見えるよ」と叫ぶ。UFOは風向きにさからつて上昇し、やがて見えなくなつた。白い球状のUFOで、見かけ上、目前の1円玉ぐらいの大きさだった。三回目のUFO目撃は五月八日の午

後一時三十分頃である。私は庭で車を洗つていた。するとヘリコプターが私の家の上空を通過して行つた。このときはUFOが見られるという予感がなんとなくしていたので、空を見上げると、なんとヘリコプターが飛び去つた空に今度は青白く光る球状のUFOが空に浮いているではないか！
 時間は一分間ほどで、すぐに消えてしまつた。見かけ上の大きさは目前の十円玉ぐらいだった。

なぜ私にたびたびUFOを見せてくれるのか？ 少々不安な気持もあつたので久保田先生に聞いてみた。すると先生は私がUFOに祝福されているのだと言ひ、また私の過去世に何かがあつたのだとも言われた。
 そういえばUFOを目撃して以来、今年に入つてから私の身辺に次々と良い事が発生している。多少面くらつてもいるのだが、いまではこれもすべてUFOからのプラスの想念波のためではないかと思つている。長いあいだ会いたかつた人と会えたり、久保田先生とも会えたり、不思議だが良い事ばかり起るのである。

UFOは人類の偉大な指導者？

UFOは今世紀最大の謎であり、まじめに科学的に研究されるべきものである。この大宇宙に地球人だけが一人ぼっちということは考えられない。地球人もようやく宇宙へ進出を始めたの

であるから、地球よりも文明の発達したスペース・ブラザーズが地球を訪れていることは当然ではないだろうか。彼らはいつたひ何私たちに伝えたいのか、私にはわからなかつたが、アダムスキー氏が初めて地球人として大宇宙の指導者と会見したという事実を知つた。これは何を私たちに物語るのだろうか。

現在私はアダムスキー氏の本(文久書林刊『アダムスキー全集』全八巻)をすべて読んでわけてではないので、あまり意見を言える立場にはないが、彼の体験談や宇宙哲学は二十一世紀の科学と哲学を先取りした驚異的な内容をもつものであると思う。来たるべき来世紀へ向けての人類の精神の向上と、地球の輝かしい未来を築くための必要不可欠のものと思われるのである。UFOは心霊現象ではなく、新興宗教の一種でもない。新世紀へ向かう人類の偉大な指導者となるべきものではないだろうか。

UFOを見たことによつて私自身のこれからの生き方がある程度変わるような予感がする。それはとても良い事があるような楽しい予感である。こんな私の目前に現れてくれたUFOとスペース・ブラザーズに感謝にたえない。彼らは私に何を伝えなかつたのだろうか。それはおぼろげながらもわかつてきつつある今日この頃である。

仙台市上空でUFO長時間出現

●遠藤 昭則

日本GAP仙台支部大会の日にも二十分間も空中に静止したUFOは何を意味するのか

日本GAP仙台・山形合同支部大会（第九回）が本年五月五日に仙台市農協会館で開かれた。私がこちらの合同支部大会に出席するのは五年ぶりである。二週間程前に仙台支部代表の笠原弘可氏より「今年はいかがですか」という電話を頂いたので、これは何が何でも出席しなくてはと思い、後日参加の申し込みをさせて頂いた。

空中の物体は近づくようになった

四月の後半から何かと忙しきにかまけており、また体調も今一步というところがあつて、上空のUFOに呼びかけることもそれほどせずに仙台へ来たので、大会の日だけ呼びかけて出現して下さるといふ虫のいいことがあるわけはないと思つていた。

しかし幾らかの希望があつた。それは四月に四回ほど空中に浮かんでいる物体を見ており、そのうちの二回は自分とその物体との距離がずいぶん近か

つたからである。彼らはだんだんと近くに来ているのかもしれない。

五月五日、火曜日、朝五時五十分。目が覚めて外を見るととても良い天気であつた。六時過ぎに千葉からJR津田沼駅まで妻に車で送ってもらい、そこから総武線で秋葉原まで行つて山手線に乗り換えて上野駅に着く。

八時五分だつた。中里氏夫妻と松村氏と一緒に乗ることになつていて新幹線は八時十分か二十分のどちらかというところになつていた。

地下ホームまでのエスカレーターが長く感じられる。十九番線の十分発の電車にはすでに沢山の人が乗り込んで発車を待っている。一号車に乗るはずだつたので、車内に座つている人々を一人一人見て歩くが、いない。

二十分発の方に彼らがいるという感じがあつたが、念のため二号車も見てみた。さらにホームにいる人たちをざっと見渡してから二十分発の列車の待つホームへと階段を渡つて行くと、ど

こを見て人も、人、人で、なかなか一号車へと進んで行けない。

人をかき分けながらやつと一号車の前に出ると、まだ列車の扉が開いておらず、乗客は列を作つて待つていた。連休とはいえ、よくもこれだけ集まるものだなと感心する。

列車の扉が開いた。もし見つからなければ、待つている列の最後尾について入り、車内で二時間立つていなければならぬだろう。どうしようと思つたその瞬間、列の二番目に立つている松村氏に気がついた。カメラバッグを下において列車の方を見ている。ほつと胸をなでおろし、彼の所へ行つて一緒に車内に入ることができた。あとから中里氏夫妻も来た。

車内は混んでいたが、私たちはうまく座れて愉快に語り合いながら楽しい時を過ごした。

奇妙な雲を見る

仙台駅に近づく二十分ぐらい前である。進行方向にむかつて右側に二本の平行な直線状の雲が出ているのに気づいた。飛行機雲は天頂に出ているが、それとは異なつていて、時間が経過するにつれて雲の密度がだんだんと白く濃くなつてきたのである。飛行機雲ならだんだんと広がって薄くなつてゆくのであるが――。松村氏と不思議な雲ですれど互いに話しながらしばら

く見ていた。

ある地震研究家が書かれた本の中にこのようなことがあつたのを思い出した。地下に磁気のスロットができる所があり、そこから磁力線（地磁気ではない）が出るために、その線に添つて積雲が生じて細長い地震雲となるというものであつた。

私は雲を見ながら「あそこは磁力線の多い所なのかな。そうするとその近くに円盤がいるかもしれない。または円盤自体があつた雲を作り出しているのかもしれないな」などと考へていた。

ふと上空にテレパシーで呼びかけてみようかと思つた。しかしこれまで毎日呼びかけていないので、大丈夫だろうかと案じたが、こういうときこそ呼びかけなくてはという気が起こり、行なつてみることにした。

空を見上げて心の中で唱へる。また「他の人にも見せてあげて下さい」という言葉もつけ加えた。そのようにしたらUFOが出現して他の人も一緒に見えたことがあるからだ。

新幹線は仙台駅に十時二十分に着いた。駅ビルで早目の昼食をとり、外に出る。千葉のガサガサした感じとは異なり、仙台の幾分伸びやかな感じはいつ来ても気が持が良い。少し涼しかったが空気はとてもきれいだ。思わず深呼吸をした。

大会の会場である農協会館がある側はこれから開発されてゆくようで、区

画整理はされているが、まだ遠くに道路工事をしているのが見える。

農協会館に入って二階の会場に荷物を置かせてもらい、開会時刻の一時までまだ間があるので四人で付近を散策してみることにした。

UFOがUFO気配を感じる

駅の東の方は新しいビルやマンションが建ち並び、東京のビルディングよりも形が美しく近代的に見える。しかしまだ空地がずいぶんあり、広々とした感じがする。

しばらく歩くと南の空に虹が横に長く出ているのに気がついて皆で見た。車内から太陽を見たときに、その周囲に丸く雲に虹が見られたので、たぶんその関係だと思った。松村氏が写真に撮っていたようだ。

さらに行くくと東北東の空に図1の下方の鉤かぎの形のような雲を見つけた。おもしろい形ですねと、お互いに顔を見合わせて、ゆっくりと見ていた。何か特別の形の雲が出ると、そこから少し離れた所に円盤が出現することがあるので、他の所も見てみたが、円盤は見えない。

しばらく見てみると、その上に丸い形が現れた。これは明らかに円盤があのあたりにいるなと思っただが、他の人にはだまっていた。

駅の方を振り返ってみると、それほ

ど歩いてきていないようだが、かなり歩いたようにも感じられる。駅が巨大であるので距離的にそう遠くに見えないのだろうか。

時間はまだあるので向こうへ行ってみようと松村氏が小高い丘にある林を指すので、そちらへ行くことになった。今日は私はだまっていた、どちらへ行こうというのは他の人に決めてもらった方が良い結果が出るような気がしたので、すべてまかせきりであった。しかしいつもそうではいけないので、自分から感じる力を持つと思うのはいるが――。

躑躅岡天満宮上空にUFO出現！

踏み切りを渡った所に線路と平行に通っている道路があり、そこを越して石段を上がって行くと躑躅岡天満宮に出た。大きなしだれ桜があり、歌碑がある団体の会館のようで、人がぞろぞろと出てきていた。しかし境内の樹々の向こうなのでそれほど気にはならない。

四人でのんびりと説明を読んだり、上空をときどき見たりしながら過ごす空は晴れており雲が所々にある。四人で本殿の方へと門をくぐって行く。本殿の周囲の敷地はそう広くはない。堀と建物との間には梅の老木がしっかりと立っている。ここの歴史を見つめて

きたそれらの木々をしばらく眺めていた。

門をくぐってから感じていたのだが、ここは土地のパワーが強いようである。他の三人は境内の方へ戻っている。私はもう一度上空にむかって思念してみた。このような土地は上空へパワーを放っているの、上空からもここを発見しやすく、またこちらの思念もしやすいだろうと思っただけである。

しばらくして境内へ戻ろうと思いついて、もう一度天頂付近を見ると、白い丸い点が目についた。おやつと思っても一度見たが、よく分からない。見かけ上、二ミリの大きさであるから、一度目を離すとどこにいるか分からなくなる。

ふたたび見つけて、そこにいることを確認し、三人を呼ぶことにした。目を離してもまだいるだろうかと思いついたが、大丈夫だろうと思いついて、他の参拝客たちに聞こえないように呼ぶ。三人が何事かと門をくぐって入って来た。

「ほら、あそこ、あそこ」
指さすと皆はその方向を見るのだが、分からないようだ。しばらくして、それならば大きな石燈籠をもとに、その笠の出っぱりから先へ線を伸ばすと松の二本の枝があり、さらにそれらの枝の間の空間へと延長してゆくと円盤が見えるのだと説明した。
そこでかわるがわる見るのだが、やはり見えないという。

どうもおかしい。私にしか見えないのだろうか。いや、そんなはずはないと思つて、また説明した。

「ほら、あそこに白く見えるじゃないですか。あの二本の松の枝から三センチぐらい離れた所！」と言うのだが、分からないようである。

しかし中里氏は一瞬、白い基石のような形の物を見たと言った。念のため松村氏から百八十里望遠レンズのついたカメラを借りて、ファイナダーの中央にその物体を入れて三枚撮った。手持ちで上を向いて撮ったのでブレていなければよいがと思う。

なんとかして他の三人にもUFOを見てもらおうと思いついて、他の人にも分かるように光つて下さい。もう少し近づいて下さい」と唱えた。

私が勤めている中学校で以前にUFOが出現したときは、生徒たちが探し始めるのと空中でキラッと光つて、存在する場所を知らせてくれたことがあった。しかし円盤は光らずに図2のように形を変え始めた。フォース・フィールドを周囲に出したようである。大きさも少し小さくなった。円盤がまるで生き物のような動作をするので驚いた。これは彼らがそれ以上近づけないことを示しているのかもしれない。それ以上は唱えることをしなかった。するとまたフォース・フィールドの霧が薄くなって大ききも元に戻り、図3のように雲よりも白い円盤になった。



●仙台市上空のUFO

昭和63年5月3日、仙台市内^{石巻}鹿岡天満宮上空に出現、
静止したUFO(矢印が示す物体。撮影＝松村芳之)。

下の方は少し黒くなっている。このとき松村氏が連続撮影した写真の一枚に

丸い物体が確かに写っていた。それは前頁に掲載されている。

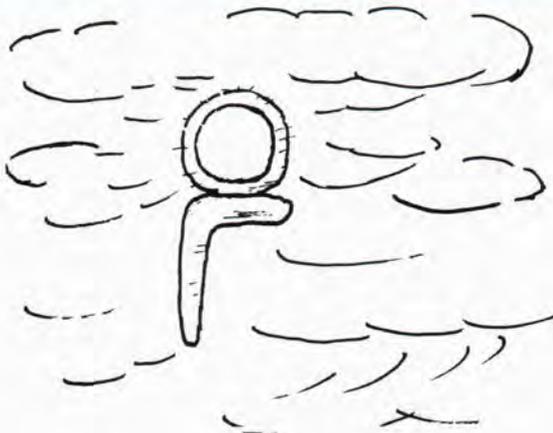


図1



図3



図2

素晴らしい技術を持つ円盤

これまで円盤と書いてきたが、実際には球体に近い物体である。それが空中にまるで見えない手で支えられているかのように静止しているのである。すじ雲が速く流れて行くが、物体は雲に隠れないので、その雲の下にいることが分かる。雲のすぐ下のような厚い雲になると見えなくなる。

それにしても素晴らしい技術である。あれだけ雲が速く流れていけば上空はずいぶん風が強いであろうに、物体はまったく静止しているのである。

発見したのが十二時十二、三分頃。明らかに見間違いや幻覚ではない。スペース・ピープルはこういう面も試そうとしていたのかもしれない。

他の人たちにはどうして知らせたら見えるかと、途中少しいらしてきそうになったので、「いや、それはいけない。これも彼らが試されているのだろう」と忍耐強く他の三人が見つけるのを待った。参拝の人たちが二組来たが、私たちには目もくれずに参拝をすませて帰って行った。

十二時五十五分頃、雲がだいぶ出てきて物体も見えなくなったので会場に戻ることになった。目撃時間は約二十分間である。帰る途中、ズーンと身体内部にあるスペース・ピープル特有のブーリングがやってきた。やはりあ

れは彼らの宇宙船だったのだ。

乗員と船体は一体化している

これを書いている今でさえスペース・ピープルの方々に対する感謝の気が湧き起こってくる。また、よく UFO は宇宙船といわれるが、その言葉であらわしているとは、まるで人間とは関係のない頑丈な金属製の冷たく固い物質でできた乗り物のように感じるが、そうではないのである。

天満宮で見た物体から受けた印象は、UFOの船体を造っている材質が乗員と一体化しており、乗員の持つ波動をその材質が外部に素直に出せるということなのである。これは素晴らしいことである。というのはまるでそれらの材質が彼らの言うことを聞いているようなことになるからである。

会場に着くと仙台支部代表の笠原氏や山形支部代表の柴田氏がおられた。久保田会長も入ってこられたので、先ほど目撃したことをお話しした。

大会は久保田会長の力強いご講演が胸に残っている。参加された方々も質疑応答では活発に意見を出して熱心であった。

翌四日の仙台市内観光は曇り空であったが森の緑や沢山の花の美しさにはとても感動した。改めて宇宙の創造主の偉大さを感じた次第である。大会関係の皆様へ深く感謝したい。

富士山周辺でテレパシーと心霊UFO群

●長沼宏志



十回に渡る富士山二合目からのUFO観測で何
度もすごい光景を目撃した筆者が学んだレッス
ンは何であったか。高度の熱意と忍耐力を発揮
して驚くべき成果をあげた観測者の体験報告。

私は日本GAPに入会してから十二年になる。十二年前はUFOブームがピークをすぎた頃で、日本中がUFOと超能力で騒いでいた。その影響で私も一度でいいからUFOを見たい、乗ってみたいという気持が強くなっていた。そして連日のように夜空をながめていた。

その長年の願望をかなえてくれたのが本誌93号から98号まで連載されて大反響を起した記事『私は別な惑星へ行ってきた』の主人公・春川正一氏（仮名）とそのグループである。

三機の母船が浮上

本誌99号にも載っていた記事『富士山にUFOが大挙出現』の事件は、昨年九月十八日に自動車十八台、総勢四

十名で富士山の二合目の西臼塚という所で観測したときの出来事である。私もこれに参加したが、春川氏も同行されたのでUFOは絶対に見られるという確信があった。

約十五分間、みんなで人の輪を作って呼びかけたところ、富士山の頂上に突然パツと光体が現れて、ゆるゆら揺れながら左横へ移動して行き、突然消えてしまった。消えたと思った瞬間、今度は富士山の頂上の右下に一機が急に出現し、続いてあちらに一機、こちらに一機、現れては消えたりしたので一同は歓声を上げて拍手した。

それからなんと母船が三機、富士山の下方からフワッと浮かび上がってきて、左右に移動したり、横に百八十度回転したりした。母船の両側からサーチライトが出ているのを一同で確認

した。

あまりのすごい光景にすっかり感激して思わず感謝の想念を送ったら、またパツと光体が現れて強く光った。

スペース・ピープル（異星人）はわれわれに何かのメッセージを送っているのですか、とあとで春川氏にたずねたら、「祝福して下さっているよ」と答えた。私はすっかりうれしくなると、また感謝の想念を送った。

この夜、私が初めてUFOを見たときの感動は生涯忘れられないものとなるだろう。子供に代々語り継がせるつもりである。

心と意識との一体化が必要

一週間後、今度は一人で富士山へUFO観測に出かけたが、道に迷ってし

まい、四十分ぐらい時間をロスした。深夜、だれもいない道を一人で迷いながら車を走らせるのは本当に怖くて寂しい。早く目的地へという焦りの気持に満ちて、よけいに方向感覚を失った。これではいけないと思い、アダムスキー哲学に従って心と意識を一体化するフイーリングを起こしながら走っていると、突然体の内部から「このまままっすぐ行けばよい」という印象がわき起こった。それでそのまま走っていたら本当に五分ぐらいで目的地に着くことができた。

このときはあらためて心と意識の一体化、内部からくる印象の受信などを日頃から訓練する必要があることを痛感した。結局この日は母船三機を観測できた。

全く出現しない夜もある

また一週間後に一人で富士山へ観測に出かけたが、今度は迷わずに二合目へ着いた。ここで夜通し観測したが、ついに夜明けまでUFOは出現しなかった。双眼鏡で富士山の近辺を探索したり、テレパシーまたは音声で呼びかけたりしたが、結局現れてくれなかった。しかしなぜか失望感を起こらず、自分のテレパシー能力の弱さを反省した。

朝になって帰途、バックミラーに富士山がきれいに映っているので、車を

降りてながめると、富士山の頂上に笠雲がかかっている、朝日を浴びて山全体が黄金色に輝いている。しかも山の右横に二本、左横に一本の虹が出て、その神聖にして見事な姿に形容する言葉もないほどに感動した。カメラを持参しなかったのが一生の不覚だった。

想念は自然界に影響を及ぼす

十一月十七日、今度は車二台に計九人が分乗して富士山へ出かけた。

現地へ着いたのが夜の十時すぎで、視界は二メートル程度のすごい霧だ。とにかく呼びかけてみようと、私がまんな中に立ち、残り八人は手をつないで輪を作った。

約十分ぐらい呼びかけたところ、頭上の霧がしだいに晴れてきて、スバル座が肉眼で見えた。しかし五分ぐらいでまた霧がかかり、周囲は全く見えなくなつた。そこで一同は頭の中で黄金色のイメージを描きながら十五分ぐらい呼びかけたところ、またも頭上の霧がスボンと抜けて星空が見えてきた。呼びかけは計三回行なったが、不思議なことに呼びかけの念の強さ、時間によつて霧の晴れ具合が違ってくる。しかもまるで頭上にバリヤーがあるかのごとく、霧が頭上にくると流れが変わってわれわれをよけて行く。三回呼びかけて最高二十分ほどそんな状態が続いた。

そのとき春川氏が「人間の想念は自然界に作用する」と言ったのを思い出して、本当だったのだなと感動した。

ある土地に住む人たちの想念の良し悪しによつて気象、環境、動物の性格などが違ってくるという。だからわれわれは決してマイナスの想念を持たず、積極的にプラスの想念を出すようにすれば人類はもつと幸せになるだろう。

感謝の想念に応えるUFO

一週間後の十一月十四日にGAP会員の伊東さん、野尻さん、他二名の計五名で五回目目の観測に富士山へ出かけた。夜中の十二時頃に二合目の展望台へ着いて、そこへ荷物を置き、前方を見たとき、初めは高圧線のあかりかと思つた光体が三つあつたのに、車へ荷物を取りに行つてもどつてみると一つになつている。友人たちもそのことを確認して「変ですね」と言う。

それから私が先頭に立つて五人で呼びかけを始めたところ、まもなくその一つの光体の横に突然パツと光が二つ現れた。「UFOだ」と一同は叫んだ。

展望台の左前方に錐子山（標高千三百六メートル）というなめらかな山があるが、その山の稜線の上に突然パツと一つの光が現れて、スーツと右下へ移動したり上下移動している。続いてあちこちに一機ずつ現れては消えた

りする。多いときは八機から十機ぐらい確認できた。結局、高圧線のあかりだと思つていた三つの光体は全部UFOだったのである。

途中一息入れながら、皆にスペース・プログラムについて説明していたとき、スペース・ピープルという言葉の口に出したとたん、前方の一つの光体が急に三倍ぐらい輝きを増して横へ動いた。それを見た全員は感動して一同で感謝の想念を送つたところ、それまで三機しかいなかったのに突然パツパツと十機近くの光体が瞬間的に現れた。これを見て私もさすがにびっくりした。

UFOからの波動のキャッチが大切

UFOを観測しているとき、こちらの一挙一動や想念の内容がすべてスペース・ピープルにわかかってしまうらしい。彼らは地球人をあたたかく見守つていて、ひそかに私たちを援助しているのだという。そして地球人類がこの太陽系連合の一員になるためのスペース・プログラム（地球救済計画）が確かに存在している着実に実行されているとアダムスキーは言っている。そのためにもわれわれGAP会員は団結を強化し、努力しなければならぬと、UFOが光を増したことがそのように暗示しているような気がした。もちろんスペース・ピープルもかげながら日本GAPを援助しているだろう。

今年になって最初は一月二日、次に三月の初旬頃、またも富士山二合目へ登つた（五合目まで自動車道路がついている）。このときは友人と二人だけだったが、友人を車中に残して展望台で一人で空中にテレパシーで呼びかけた。

約十五分間呼び続けたら、錐子山の右横の何もない空間に突然光体が二つパツと出現し、それから左側に計五、六機のUFOが現れた。これを見てすぐくうれしくなり、こんな私でもスペース・ピープルはちゃんと願いを聞いて下さり、本当に日本GAPへ入つてよかつたと思つた。「もう少し近づいて下さい」とテレパシーで呼びかけたところ、こころもち光体が大きくなつたような気がした。

この観測で気づいたのは、UFOが見えたとき自分の浮きたつた心を落ち着かせて、心と意識を一体化させ、UFOからくる波動や想念をキャッチし、また自分の内部からくる印象にも充分注意を払つて観測することが大切だということである。このことはUFOをよく目撃する遠藤昭則氏も言つてた。

オーソン氏にそっくりな人に出会う

以前に久保田先生から「日本人のわずか十パーセントの人が万物に対して祝福の想念を出すようにすれば地球全体はもつと良くなる」という話を聞いた。

てから(編注)これはもと春川正一氏が言った言葉)、電車内やデパートなど人の多い場所では必ず祝福の想念を出すように心がけてきた。

三月一日に都内の西武新宿駅から電車に乗り、二つ目のドア付近に立つて漫画の本を読んでいた。高田馬場駅へ近づいてきたので降りる準備をして一つめのドアへ向かって歩きながら一人一人の顔を見て祝福の想念を送っていた。

そのとき左側の一番前の座席に座っていた男の人に「今晚は」とテレパシイで呼びかけたのである。いつもは「祝福がありますように」と思念するのだが、なぜかそのときに限って「今晚は」とテレパシイで送った。

そうしたらその人はハツとしたように顔を上げて私の顔をじっと見つめた。その瞬間、私の心がその人に見すかされていくような気がして、思わずハツとした。それで再度その人の顔をよく見ると、どこかで見た顔に似ていると思つたら、なんと写真で見るオーソン氏にそっくりなのだ(編注)オーソン氏というのはアダムスキーの「宇宙からの訪問者」の中に出てくる金星人)。丸顔で髪が黒っぽく、少し金色がかつていて、色が白く、額の広いのが特徴だった。目はやさしい感じだが、すべてを見透すような英知に溢れた目である。全身から高貴な雰囲気がかたよっていた。

電車がホームに着いたので階段を降りたが、その人のことが気になってしようがなかった。この人との出会いは翌日のセンセーショナルな出来事と関連があったのかもしれないと思う。

葛西上空に母船らしき物が出現

現在私は東京江戸川区の葛西に住んでいて、駅まではバイクでかよっている。三月二日、この日は風は強くかつたが、かつて見たことのないほどに雲が低く垂れ込めていた。

夕方七時二十分頃、だいぶ暗くなっている。帰宅のため環状七号線の道路をバイクで走っていると、左上空に雲の間から約七百メートルないし八百メートルほどの細長い光が漏れているの気がついた。最初は月のあかりかと思つたが、そうだとすれば円形に光るはずだから、何だろうかと思議な気がした。

赤信号で止まり、上空を見上げていたら、その瞬間頭の中がボーンとしてきて一瞬空白の状態になった。環七から左折して裏通りへ入ったが、気になるのでバイクを止めてふたたび上を見たら。

すると例の細長い光の右下に、それまで何もない所に大きな丸い光る玉がパツと現れて、音もなく右へスーッと移動してから戻ってくる。今度は少し左へ行って細長い光の向こう側へ行き、

左へ消えて行った。時間にして約三、四秒である。サーチライトならばそんな激しい動きはできないし、だいいち空中に縦に一スジの照射光が見えるはずで、光る玉が動くにつれて照射光も動くはずなのに、それらしい光は全然ない。

光る玉が消えてからすぐ観測をうち切つて帰宅したが、まだ気になるので最上階の十四階へ登つて周囲を見渡したら、なんと何一つ見えない。先程の細長い光や光る玉ばかりか雲までがすっかりなくなつて、はるか上空の星が見えるだけだ。観測した場所から十四階までわずか四、五分しか要しなかつたのに、その間にすべてが消滅したのである。

後日この出来事を久保田先生に話したところ、「それはきつと母船にちがいない。長沼君だけに見せたのだから」という返事があつた。

それから一カ月後、ふたたび同じ場所を通つたとき、細長い光が現れた場所とは方向が違ふけれども、東京デイズニールランドのシンデレラ城のほうでレーザー光線が上空へ照射されているのを見た。そのときは空中に縦一スジの光があるのにすぐ気づいた。あれほどの強いレーザー光線ですえ雲へ照射したときは弱い光にしかならないのを見ると、あの日の丸い光る玉を地上から人工的に作り出すにはレーザー光線の数倍強い光でなければならぬ。や

はりあの日に見たのは母船と円盤か、あるいは円盤がわざと細長い光を作り出したかのどちらかだと思ふ。

実は久保田先生から四月の東京月例会でUFO目撃体験を発表してくれなかつたのだが、そのときに目をつぶつてあのとときの素晴らしい光景が浮かんできたので、話してもよいという気になつたのである。

またその頃は万物に対して祝福の想念を送るのが面倒くさくなつていた。祝福の想念を万人に送つたところで一文のトクにもならないし、何の役にも立たない。だいいち私一人の想念だけではたかがしれている。それだけで世の中が良くなるはずはないとあきらめの心境になつて、祝福の想念を送るのをやめようかと思つていた。

そういうときにオーソン氏にそっくりな人と出会つたり、母船と円盤らしき物が現れてくれたりして私を元気づけているように思えてきたので、また万物に対して祝福の想念を送り続けることに決めたのである。

八回目の観測。「因」の知覚が重要

四月の月例会が終わつたあと、例によってGAP会員の伊東さん、岩澤さん、岡部さん、正藤さん、田中さんと六人で富士山へUFO観測に出かけた。山は前日の雪で一面まっ白。下界では

桜が満開だが、こちらでは樹木に氷の花を咲かせて美しい。

夜中の一時すぎに現地へ着いて早速いつもの展望台で観測を始めたところすでに鍾子山の右横に八つの光体が出ていて、まったく動かない。三月初めにきたときには、あの辺はたしか何もなかったのに、わずか一カ月少々間に高圧線ができて、その高さを示すあたりだとばかり思っていた。

ところがしばらくすると八つの光が六つになったり五つになったり、互いにくっついたり離れたりして活発な動きを見せてくれる。このとき初めて八つの光はすべてUFOだったことに気がついたのである。

まったく自分が四つの感覚器官の一つである視覚に振り回されていた。もつと物事の背後にある「因」を知覚したりエゴの心をコントロールする必要があると思った。

UFOはなぜ富士山周辺に 集まるのか

八回目の観測のときにちよつとした不注意から財布を落としてしまった。そこで財布探しを兼ねて翌夕日の四月十一日に一人で九回目の富士山行きにかけた。

財布は結局見つからなかったが、夜中十二時すぎに現地へ着いたとき、すでに鍾子山の上空になんと十九機ものUFOが現れていた。よく見ると少し

ずつ動いたり、ぐるぐる回ったり、色が変わったりしている。鍾子山の上は一面光る玉の海と化し、すぐくきれいで圧巻であった。その右手にもUFOが点在して、結局全部で二十五機を確認できた。あまりにもすごい光景なのでしばらく呆然と見とれていた。

展望台の真正面に見えるUFOはどのも司令船らしく、じつとして他のUFOの動きを見守ったり司令を出しているらしい。その司令船の回りには二、三機のUFOは見張りの役割をしているような印象を受けた。

なぜUFOは大挙してこの地へやってくるのか？ しばらくUFOを観測しながら考えていた。

以前、ユーラシアプレートとフィリピン海プレートとの関連で、伊豆半島の西北から東南にかけて平行した二本の断層が走っており、そのために地震の巣みたいなものが伊豆半島近辺に集まっていると新聞に出ていた。たぶんスペース・ピープルはこんな深夜にも休まず、地球人に気づかれぬようにして地震との関連を知るためにこの地の地質を調査したり、マグマの動きや地磁気を調べたり、あるいは大地震が起ころぬように何かの処理を施しているのかもしれないと思えて、一人で感動し、しばらく感謝の念を送り続けた。地球人は全く気づかぬけれども裏面では絶大な援助があるのだろう。有難いことだ。

UFO観測は宇宙的レッスン

四月二十四日、GAP会員の岡部さん、長谷部さん、正藤さん、岩澤さんと五人で大雄山へ寄ってから、岡部さんを除く四人で富士山二合目へ登った。いつもの展望台に着いたのが夜の十一時過ぎで、そこへ到着するまでには何度か光る玉が空中に動いているのを目撃した。

展望台から観測しているうちに十数機のUFOを目撃できた。ここにしばらくいてから西へ車で五分ほど行った所にレストランがあるので、そこに場所を移して一同で観測を行なった。

写真を見て頂ければわかると思うが、鍾子山の右横に現れた一列のUFOは時間の経過とともに数がふえて、互いの間隔が変わったりした。

富士宮市に近いほうの樹林の中に光体一つあったのを私が見つけて、UFOであるというフィードバックがわき起こってきたので、一同に「UFOがそこにいるよ」と話したら、正藤さんと岩澤さんがその光体に感謝の言葉を送ったところ、とたんにパツと強く光ってくれた。その隣にも一個の光体があった。そこまでの直線距離は約二キロあったろうか。なにかUFOがしだいに私に近づいてきているような気がする。朝五時すぎには十数機いたUFOが

少しづつ消えて、最後に残っていた数機のUFOが光る玉から白銀色の玉に変わって上空へ消えて行ったのを岩澤さんと長谷部さんが確認した。

これまで富士山二合目でUFOを十回観測したが、スペース・ピープルはUFOを見せてくれると同時に何かのレッスンを学ばせようとしているような気がする。UFOの観測にあたってアダムスキーの言うように四つの感覚器官（目、耳、鼻、口）をコントロールし、特に視覚と聴覚の奴隷にならないで逆に主人になるように心がけて、エゴの心を抑制し、心と意識を一体化させて、UFOからくる波動やテレパシーをキャッチするように努力しなければならぬと痛感した。そのための日頃の練習が大切だと思う。

日夜われわれ地球人のために一生懸命頑張つて下さっているスペース・ピープルと長年宇宙的な御指導をして下さった日本GAP会長・久保田先生に厚く御礼を申し上げる。日本GAPのますますの発展と会員の皆さんの幸福をお祈りして終わりの言葉とさせて頂くことにする。

同行者の証言

長谷部 賢

四月二十四日から翌日未明に長沼氏と岡部さん、正藤さん、岩澤さんの五人で大雄山・富士山へのUFO観測に参加させて頂いたが、そのときいろいろ



▲昭63年4月24日夜から25日の未明にかけて富士山?合目より籬子山右上上空に出現したUFO群。左右のグループの動きがわかる。左上から右下にかけて連続撮影。

▼25日早朝、観測を終えてくつろぐメンバーたち。左端が筆者。(上下共撮影=長谷部賢)

ろ不思議な体験をした。
小田急の開成駅で岡部さんと別れてから四名は東富士演習場を通り富士スカイラインへ行った。そして登山道料金所から少し先の展望台で観測を開始した。
ここで私は腰を抜かささんばかりに驚

いた。UFOが十機以上も飛んでいて、しかも二キロ先の山林にオレンジ色の光体が着地しているのだ。そこで四人がテレパシーで呼びかけたら着地している光体は確かに応えてくれたのである。しかし不思議なことに十機近く連続して撮影している物体は全く写っていないかった。

他の人たちが車中で仮眠するあいだ私は一人だけで展望台に残り、本誌100号の遠藤昭則氏の記事を思い出してUFOに呼びかけをした。「スペース・ブラザーズの皆さん、こんにちは……」と想念を発したとたん、十機以上いたUFOのうちの一機がオレンジ色から白く変化して明るく輝いた。その後もテレパシーで呼びかけを何回かしたがUFOはそのたびに応えてくれるのである。「ああ、やはりUFOだったのか!」と私は光体に対して確信した。
そのうち四時をすぎて空が明るくなってきた。UFOは鳥が巣に帰って行くようにヒラッヒラッと少しずつ斜めに上昇し、パツパツと一つずつ消えてしまった。

UFO観測に行つて感じたことは、テレパシクな能力が必要であり、四つの感覚器官(特に目)に振り回されてはいけないという点である。したがって能力開発のトレーニングが重要であることも痛感した。

■本誌10号、一店で八十冊を販売

東京都内神田の大手書店「書泉グラデ」は毎号本誌を四十冊完売しているが、10号四十冊の追加注文があり、計八十冊を販売中。遠からず完売するものと思われる。

■栃木支部主催UFO写真展大成功

日本GAP栃木支部は去る五月三日より八日まで宇都宮市栃木会館でUFO写真展を開催、二千人強の入場者があり、大成功裡に終了した。会場には昨年同支部が実施したテレホンサービスクーナー「UFO・宇宙人は実在する」の放送再生、テレパシークーナーではゼナークード・色紙等の材料を用いた送受信練習、アダムスキーコーナーには会場の円柱を円盤の磁気柱に見立てた金星円盤大平面図の設置、ビデオコーナーでは長野県喬木村のUFO実写ビデオの上映等、卓抜なアイデアによる盛り沢山な企画に熱心な見学者で連日にぎわった。



▲栃木支部主催UFO写真展と支部会員一同

■静岡・名古屋両支部共催UFO写真展も盛況裡に終了

今年三月より七月四日まで愛知県一宮市、静岡市、岐阜県多治見市、愛知県江南市、名古屋市の各アピタ系会場で開催されたUFO写真展も大盛況であった。見学者のなかにはUFOよりも精神的な面を求める人が多く見られたという。

■福岡支部もUFO写真展を開催予定

福岡支部も七月二十二日より二十五日まで四日間、福岡市中央区天神四丁目の天神ショッピングプラザ内「りーぶるプラザ21」で第二回UFO写真展を開催する。西鉄福岡駅、西鉄バス天神バスセンター下車徒歩五分。地下鉄天神駅下車徒歩四分。

■新潟支部も

新潟支部も八月五日より九日まで五日間、新潟市内大和デパート八階文化センターで第二回UFO写真展を開催の予定。七、八、九日の三日間は新潟祭りの期間と重なるので人出が予想される。新潟駅より徒歩二十分。バスは駅前より信濃町行きに乗り古町で下車約七分。

■図書発行資金の一部を供託

本誌93号より98号まで連載した「私は別な惑星へ行ってきた」を単行本化して都内の別な出版社から出すための資金の一部として日本GAP会員・植木淳一氏（千葉県）より三百万円の供託があった。出版については五月末現在交渉中。決定次第本誌で速報の予定。

■GAP各地支部大会、盛況裡に終了

(1) 去る五月三日、仙台市農協会館で開催された第九回仙台・山形合同支部大会は出席者三十九名のもとに盛況であった。午前中にUFOが出現。

(2) 六月五日の第二回秋田・青森合同支部大会もアキタパークホテルで参会者三十三名を得てこれまた熱気溢れる大会となった。翌日不思議な現象が展開。

(3) 六月二十六日の第七回旭川・札幌合同支部大会は旭川ターミナルホテルで開催され、十五名の出席者を得て真剣雰囲気下にて大会を終えた。

以上、旭川の大会報告は次号まわしとし、詳細な報告は本号38ページに掲載。なお来年五月三日には山形県天童市で第十回山形・仙台合同支部大会を開催の予定。詳細は本誌10号（六十四年一月発行予定）に掲載する。

■テレホンカードとシール

日本GAPが頒布していた金星のスカウトシップをあしらったテレカは好評裡に売り切れたので、続いて金星の母船を黄金色で浮かべた新しいデザインの頒布を開始した。

さらに会員が自動車の窓その他の持物に貼つけて宇宙的フィードバックを高めるGAPシールの頒布も始まっている。詳細は48頁。

■東京本部通信を頒布

久保田会長はかねてから全国支部代表宛に「東京本部通信」と題する月報を発送していた。これには決定行事の速報、会長の随想等が掲載され、これ

を各支部でコピーにとって月例会出席者に配布する仕組みになっている。月例会に出席できない会員で希望する人には日本GAP本部へ申し込みれば直送される。毎号A4版、一〜二頁程度。

ワープロ打ちコピー。一部につき六十円切手二枚を同封して「東京本部通信×月号送れ」と記して注文されたい。今年四月号より在庫あり。四か月分一括注文の場合は六十円切手六枚。

■今年度日本GAP総会

今年度総会は九月二十五日（日）に東京銀座中央通り七丁目の銀座ガスホールでアメリカよりアダムスキーの高弟であったアリス・ポマロイ女史を迎えて実施の予定で大盛況が予想される。詳細予告は42〜43頁。

■八月度東京月例会の日時会場を変更

本年八月のみ東京月例会は第二土曜日から第四土曜日（二十七日）に変更。会場も八月のみ皇居北の丸公園の科学技術館六階大会議室に移る。午後一時半より六時まで。

九月は総会開催のため東京月例会は休会。十月の第二土曜日より上野公園の東京文化会館にもどって月例会を開催するので注意されたい。疑問点あれば日本GAP東京本部宛電話で照会のこと。〇三六五一〇九五八

■少年少女向けアダムスキー物語

豊富なイラスト付きでヤング向けのA氏体験記出版を会長が企画中。詳細はいずれ発表。

（毎日、読売、朝日各紙に掲載された六十二年四月以降の科学記事を抜粋紹介。各記事末尾の数字は掲載月日を、Mは毎日、Yは読売、Aは朝日を示す）

液体水素の飛行に成功

四月十六日のタス通信によると、ソ連は十五日、新型実験機ツポレフ155で液体水素燃料と液化天然ガスを推進燃料とした世界初の飛行実験に成功した。同通信は、この成功はソ連及び全世界の航空産業の歴史に転換点をもたらすものと賞賛している。タス通信はその理由として、推進燃料が低温で大気環境にもたらず悪影響が低減できること、水素の入手とその液化が容易なこと、水素燃料が経済的にみて最も効率的な燃料であることなどを挙げている（4・18M）。

新型アモルファス合金開発

東北大学金属材料研究所は二十日まで従来ジュラルミンなどアルミ合金よりも強度や耐食性をはるかに優れた新型アルミ基アモルファス合金の開発に成功した。軽くて強く、しかも粘り強い性質から航空機やパイプなど幅広い分野での試用が期待されている。新素材は、従来のアルミ合金（結晶質）の代表であるジュラルミンと比べ密度あたりの強度が約二倍、塩酸水溶液などへの耐食性でも百倍以上の性能があることが分かった。その上、アルミの軽さも生かされており、自動車用エンジン部品や航空宇宙用機材、パイプ、バルブ類への実用化が期待される（5・21M）。

モスクワ—東京—時間の旅を計画

モスクワ—東京を二時間で結ぶ超音速機——ソ連航空力学研究所のゲオルギ—スピシチェフ所長は夢のような旅客機を現在、同研究所が研究、開発中であ

ることを明らかにした。

同所長によると、この極超音速機は全長百メートルの直径四メートル、音速の五倍から六倍の速度で飛ぶ三百人乗りの「ロケット旅客機」。いつごろ実現するかは明らかにされていない（5・29M）。

冥王星大気を初観測

米航空宇宙局（NASA）は六月十日、南太平洋上で天体観測用の航空機から、冥王（めいおう）星の大気を初めて観測したと発表した。

観測は九日、ハワイの南約五千六百キロの太平洋上で行なわれ、マサチューセッツ工科大学（MIT）の研究者らが九十センチ望遠鏡にビデオカメラを取り付け、別の星の前を冥王星が横切る時の光の変化を調べた。

その結果、星の光は冥王星がその前を通過する時、突然消えたり現れたりするのではなく、徐々に暗くなったり明るくなったりすることが分かり、研究グループは大気が存在している証拠としている（6・12M）。

三千年前のスイカの種や大麦

英紙タイムズが十九日報じたところによると、ロンドン近郊のキュー王立植物園で、約三千年前、古代エジプトのツタンカーメン王の墓に納められていた植物の種や果物、香辛料が見つかった。

ロンドン大学で考古学を学ぶフランス人学生クリスチャン・ドバルタンさん（23）が発見したもので、これら副葬品は一九二二年、王墓を発掘した英考古学者ハワード・カーター氏が植物園に寄贈して以来、貯納室に眠ったままだった。副葬品は段ボール三十箱に詰められ、ア—モンドやスイカの種、大麦など穀物、

熱帯フルーツなど総量二・三キロもある。（5・19Y）。

核戦争あれば数十億人死ぬ

国連は五月二十三日、大規模な核戦争が起きた場合、世界規模でどのような影響が出るかを予測した「核戦争の気象面およびその他の地球規模の影響に関する報告書」を公表し、核兵器攻撃による直接的死者は数億人に達するほか、環境破壊による間接的死者数も数十億人にのぼる可能性があることを明らかにした。

報告は、世界には現在、五万個以上の核兵器が存在、その爆発力の総計は第二次世界大戦で使用された爆発物の約五千倍に相当する推定一千万トンにもほつていると指摘。使用されたと仮定する核兵器の数は特定していないものの、大規模な核戦争が起きると、地球の気象に非常に大きな影響を与え、なかでも大規模火災で石油、プラスチックなどが燃えることによつて生じるばい煙が環境破壊の大きな要因としている。こうしたばい煙は推定で最高一億五千万トンの発生し、夏の北半球の場合では上空三十キロの高さまで達し、太陽エネルギーの地球への到達を妨げる。中緯度地域での地表に達する太陽エネルギーは最高八十%かそれ以上も減少、この地域の平均気温は五—二〇度低下すると予測している（5・24Y）。

第三世代の人工赤血球を早大・慶大グループが開発

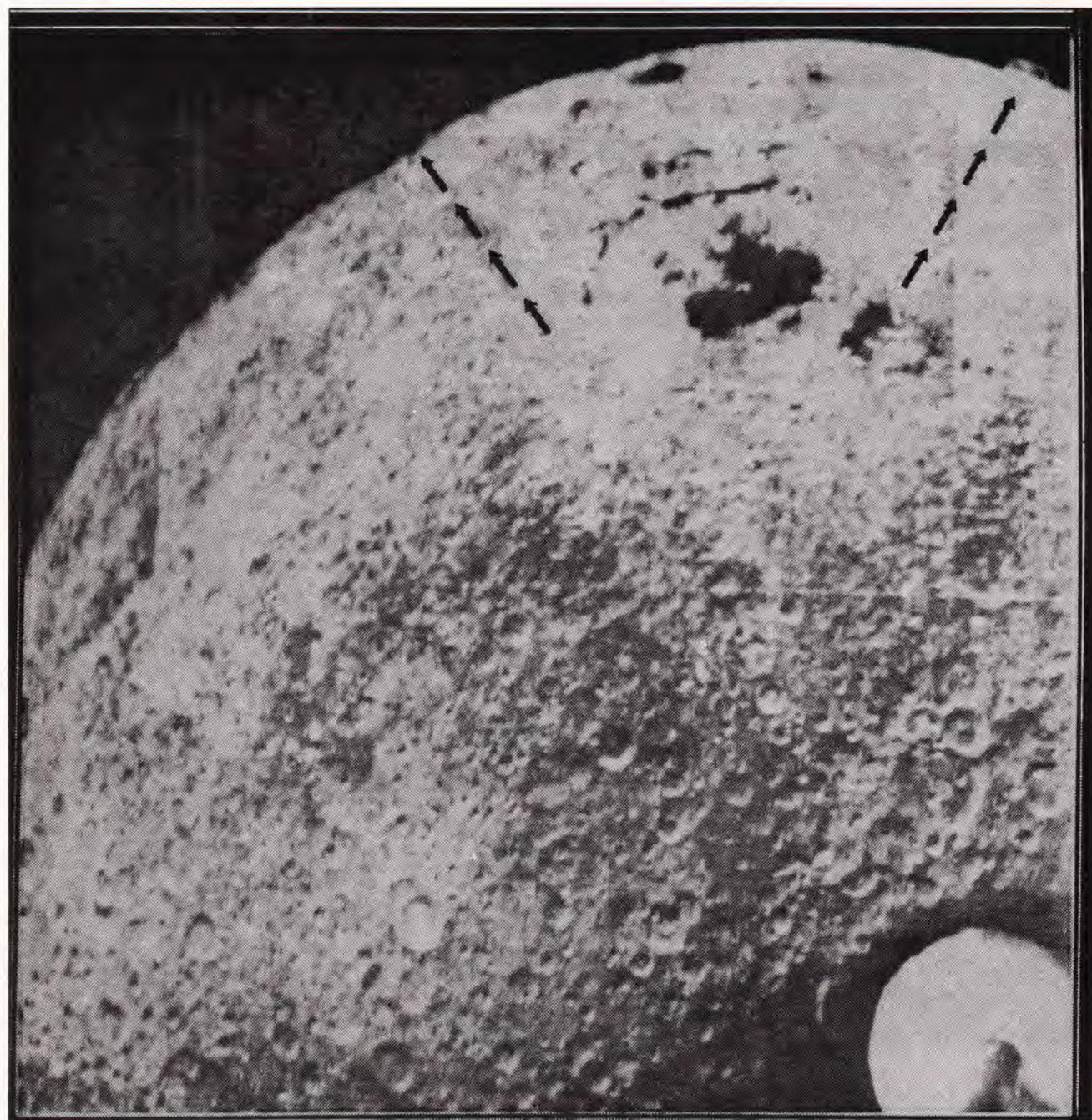
輸血でうつるB型肝炎やエイズなどに感染する恐れがなく、血液型に無関係に使える完全合成型の人工赤血球を、早稲田大学理工学部の土田英俊教授（応用化学）と慶応大医学部の石原恒夫・助教教授らのグループが開発した。

体内の酸素補給は赤血球が肺を回る時に、中に詰まっているヘモグロビンのヘムに酸素がくつき、血管の端で放出されることで行なわれる。ヘムはたんぱく質がないと酸化されて酸素が取れなくなるが、土田教授らはたんぱく質の代わりに卵黄などのリン脂質でできた膜の間に人工合成したヘムを挟むことで酸素を取り外してできる第三世代の人工赤血球をつくることに成功した。

この人工赤血球はウイルス汚染の心配がなく、長期保存がきくが、体内に入り込んだ細菌を攻撃する免疫作用や血を固める凝固作用などはなく、血液自体の代用にはならない（5・13A）。

蘇東坡はUFOを見た？

宋の詞人蘇東坡はUFOを見た五月十三日の上海・新民晩報は胡中柱氏の文学とSFをミックスした新説を紹介した。湖氏がUFOを指す描写ではないかと指摘するのは蘇東坡の「金山寺に遊ぶ」の詞。「三更、月落ち天黒く深まり、江心に炬火の明りあるらし」の句のあとに「焰飛びて山を照らし、栖鳥を驚かし、神、鬼ともつかず、はた何物ぞ」とある個所がUFOではないかという。同時代の政治家で科学者でもあった沈括の「夢溪筆談」の「異事」の中に「揚州に非常に大きな玉があり、夜になるとよく見える。白光は銀の如く、こぶし大の大きさである。直視できず、十余華里（一里は五百メートル）を明るく照らし、木は影をつくるほどだ。空は遠くまで赤くなり、玉は遠方に飛び去った」との記述に注目。八年の差はあるが二人が同じUFOを見たのだからと推測している。約九百年前に出現した物体は果たしてUFOだったか。（5・15Y）



●月面の人工建造物!?

1965年7月20日、ソ連の月探査機ソンド3号が月から11,570kmの位置で撮影した月面の写真に驚くべき物が写っていた。右上隅、矢印の示す箇所に巨大な建造物らしいものが写っていたのだ。この写真の月面の範囲は月のこちら側の西端から、裏側にわたる部分で、“建造物”は裏側だから地球からは見えない。月の大きさから比較すると途方もなく巨大であることがわかる。左の矢印の示す位置にも大きな建造物らしい物がある。いったい何なのか？

ミラクルワードと イメージ法で 奇跡を起こす

田中 正



◀左が筆者、右は編者。イスラエル・ガリラヤ湖畔の山上の垂訓教会にて。

私が日本GAPの海外研修旅行を担当して、早いもので今年で十年になる。それ以前、久保田先生がユニバース出版社の代表取締役をされていたときに海外研修旅行を二回実施しているのので、先生を通じての旅行は通算十二年になる。

沢山の思い出があるなかで特に印象に残っている旅行は、昭和五十三年のエジプト・ギリシャ・ローマの旅行である。そのときに初めてUFOを目撃することが出来たからである。

旅行のなかば、イタリアのナポリ、ボンベイの遺跡を見学してローマへ戻る途中、バスの中から右手に少し黒っぽいシルバー色の物体が空中に浮いているのを目撃した。私の記憶では一分間ぐらい滞空していたと思う。われわれを案内してくれたガイドさんも目撃され、大変驚いていた。以前からUFOには大変興味があった私なので、このときの出現でUFOの存在を強く確信した。

それ以来、毎年日本GAPの海外研修旅行の添乗員として、参加された会員の方々と世界の古代遺跡を見学し、UFOを目撃する機会が多くなった。そして東京の日本GAP月例研究会にも出席するようになったのである。

義母が難病で危篤になる

ここで私が体験したことを紹介した

いと思う。

以前から私の義母（六十九歳）がリユーマチをわずらうており、昭和六十年七月には群馬県の上牧温泉病院へリハビリテーションを受けるために入院する計画があった。

ところがその二三日前に、前橋に住んでいる義姉が母の住んでいる横浜へ遊びに来たときに、急に母の具合が悪くなり、急遽、姉の車で上牧温泉病院へ向かうことになった。

この病院に着いてまもなく母の容体がますます悪くなり、血圧が十まで下がって意識がしだいになくなったので、救急車でこの病院から沼田市にあるT病院へ運ばれることになった。

病院に着いたときは危篤状態だった。診察の結果、病名は静脈血栓という。医師の話では、あと二三日しかたないかもしれないので、至急、家族親戚に連絡せよと言う。私が病院へ行つたのは翌日の午後だった。右腕がかなり腫れており、ひどい状態だったが、母の顔を見た瞬間、「これは絶対に治る！」というひらめきまたはフィーリングが内部から強烈に湧き起こったのである。このことを何と表現してよいかわからないが、今でも鮮明に覚えて

いる。

三十分ほど病室におり、病室を出るときは右手を母の顔に近づけて、「絶対に治るから心配しないように」と言って部屋を去った。家族や親戚の者が私

にむかってしきりに「治るかね？」と聞いてくるので、「絶対に治るから心配しないように」と言い続けた。

治ったイメージを描いて想念を放射

私は仕事の関係で急に自宅へ戻ることになったが、ここで一つの決心をした。それは以前に久保田先生から願望を実現させる方法としてミラクルワード（奇跡を発生させる言葉）を連続して唱えることや、実現してしまつたイメージを心中で描く方法を伝授されており、これを応用した会員の方々からいろいろ有益な体験を聞いていたので、私も母の元気になった姿を強烈にイメージして、「治る、治る」という想念を母に送ってみようと決めたのである。

早速その日の夜から帰宅後、家にいる前に玄関を背にして毎夜、約五分間、母の病気が治って元気になった姿を心の中にイメージしながら、「治る、治る！」という想念を夜空にむかって放射した。約一カ月ほど休むことなく毎日続けたのである。ときには仕事上のつきあい酒を飲んで帰る日もあったが、とにかく続けることが大切だと思つて実行した。

その方法は、まず深呼吸を二〜三回して体と心をリラックスさせ、次に右手を握つて右肩の位置まで持つてゆき、右腕を突き出して握つたこぶしをパツと開くと同時に、「治る！」と叫ぶ。も

ちろんこれは自己流である。

奇跡が発生した!

ところが、その後二三日してから信じられないほどに母の容体が日増しによくなってきた。そしてその年の十月には無事退院することが出来て、翌年三月まで温泉病院でリハビリテーションを受けた後、現在は横浜で元気に生活しているのである。

人間の想念だけでどんな難病でも治るといふ考えは私にはないし、また私は医者でもないので専門的なことはわからないが、病気を治すためにはまず医師の正確な判断と治療、次に患者が治そうとするブラスの想念を強く持つこと、それに加えて外部の人間が良き想念を送ることなどが大切だと思う。

ただ最近、私を感じることは、病院に行っても薬(西洋の化学的な薬)が多過ぎること、そして患者が薬だけに頼ってしまっていることで、これが一番問題であると思う。もっと人間が本来だれでも持っている「宇宙の意識」(大宇宙の創造パワー、英知、生命力、自然治癒力)を強く自覚する必要があると思うのである。

自然治癒力といえ、これを応用した東洋医学のすばらしい成果がよく知られている。

私は以前、生薬関係の旅行団を案内してインド、ネパールを訪問したこと

がある。この両国への訪問目的はアユベーター(アジュベーターともいう)といわれている病院を見学し、現地の医師たちと研究会を開くことであった。これらの病院では西洋の薬はほとんど使用しないで、生薬(薬草)と自然治癒力を中心にして病気を治している。患者のほとんどは治り、また副作用がまったくないという。なぜ治るのか理論的にはまだよくわかっていないようである。

盗まれたカバンがイメージ法で戻る

次にイメージ法の奇跡的体験をお伝えしたい。今から五年ほど前、ヨーロッパ旅行の添乗中に、ロンドン空港で私の黒いアタッシユケースが盗まれたことがある。

そのときにも「これは絶対に出てくる」という信念を持ち、出てきたイメージを心中で詳細に描き続けた。すると案の定、ローマ空港で私のケースだけが単独で少し斜めの形で出てきたのである。まさに三日前からイメージを描いたとおりの形で出てきたのは大変驚いてしまった。

また、今から三年前、都内JR線の恵比寿駅から電車に乗ったときである。私は進行方向の左側に座った。すると正面に座っている男性が皮製のショルダーバッグを車内の床に置いた。彼がそのバッグを置いたとたんに、ある人

(その日にハワイ旅行の打ち合わせをするようになっていた人)の服装が頭の中で突然わかってきたのである。

その人の服装は半そでで、正面に横と縦に青い線が入っているクリム色の服装であった。一時間後、その人の事務所でお会いし、その服装を見ると脳裏に浮かんだのとまったく同じだった。

なぜショルダーバッグを見たときに全然関係のないものがイメージされてくるのか、この関連性は全然わからない。ただいつも共通しているのは、そのフィードバックを起した場所は鮮明に覚えている点である。またこうしたテレパシクな体験が起こるときは、いつも自分がリラックスしているときである。

私は旅行業に従事している。特にこの業界は精神的にも肉体的にもかなりハードな部分があるので、なかなかリラックスすることはむずかしいのであるが、どんな状況下でもリラックスの状態を自分で作っていくことが大切だと思う。そうすることによって内部から来るテレパシクなフィードバックをより多く体験することができると考えている。

それと、いつも明るいブラスの想念を持つことが必要だと思う。私のお客の一人も、われわれが行なっているイメージ法が仕事の面でも最も重要だと言っている。要は、われわれが勉強し

ている宇宙哲学の実践はごく普通に日常で応用できることなのである。

×

田中氏と知り合ったのは五十二年八月に編者が当時経営していた出版社で実施したアメリカ・メキシコの旅である。以来今日まで十二年間に渡って毎年夏の海外研修旅行でお世話になっており、親友としてのつきあいが続いている。当初から編者は他人ではないよいうな気がして特別な親近感を持っていたが、これは何かの宇宙的な意味を帯びたカルマによるものだという印象が強くなっている。

氏は以前からテレパシーの能力があると洩らしておられた。ときどき不思議な現象が発生していたそうで、一緒に飲みながらその話を聞くのはとても楽しいことだった。だからこの記事にあるような奇跡的治癒も起こるのだろう。一種の超能力者であるといえるのかもしれない。日本GAPはこうした超能力者の集団なのだが、これは同質結果の法則によるものと思う。

若い頃ずいぶん難儀な目にあいながらドイツに留学しておられた頃の苦労話を聞くのも楽しくて有意義だった。氏は感情のコントロールの出来る大人であって、そのため長く日本GAP東京本部役員の一員として協力して頂いている。大きな行事の会場設定や準備等が氏の担当である。(編者)

良い想念であなたの環境は良くなる

幸せのカギは常に良き想念を持つことだ！

本誌93号より98号まで連載したダイナマイト記事「私は別な惑星へ行ってきた」の主人公・春川正一氏（仮名）を囲んで日本GAP東京本部役員約十名が座談会を去る四月に開催した。以下はその一部分。

久保田 最近のUFO問題に関する情勢についてはどうですか。

春川 このところ一般的にはUFOブームが再燃しつつある傾向にあります。特にアメリカでブームが盛り上がりつつきていくということです。ブームが起るとするのはマスコミがそれを取り上げるといふことなのでしょうが、そうして社会の表面にUFOが出てくる時ときというのは、やはりある意味では個々の意識の中に非常にスペース・ブラザーズのつながりができて関心が高まってきたときでもあるわけです。

国をあげての大きな想念が集中するような大きな事件がある前後にどうもUFOの事例が一緒に表に出てくるようです。いまはアメリカで大統領選が非常ににぎわっていますから、これも個々の想念が個人主義の方向からしだいに連帯主義の方向に、アメリカは意

識の方向が集団へとアクセスし始めています。

そういうときに一つの意味づけとしてUFOがさかんにやってきました。今年に入ってから百五十件ぐらいアメリカでは第三種の大きなUFOとの接触ケースがありました。これはマスコミの側から入ってきた情報です。

スペース・ブラザーズ側からの情報といえますと、日本国内ではこしぱらく大きな動きはないようです。というのは、いまいろんな意味で人間の想念が集団へ集団へと向かう時期と個人主義に向かう時期との周期があります。集団に集約されて個々の想念が一つに団結してゆく時期にはUFOの出現がひんぱんになって、表面に現れるようにして出てきます。

UFOのデモンストレーション的な行動が多くなります。たとえば私は久保田先生からUコンをたびたびお送り頂いています。やはり日本GAPの中でもそうです。団結の意識が非常に強くなりますと、各支部でさかんにUFOが出ています。これはそれなりに意味があることだと思えます。各支部

ごとに人が集まろう集まろうとする動きの方向に会員の方々の想念が集中しつつあります。そういう時期ではないかという感じが強くなりますね。

ところがいま日本はアメリカに比べて個人主義の時期です。個々の想念を生活の中にみがいてゆくの非常にふさわしい時期です。ですからスペース・ブラザーズは大衆に対するデモンストレーションはあまりやらないわけです。それよりも内的な個人的な目撃だとか個人的なテレパシクなフィリングの感受だとか、そういう事例が非常に多くなっています。つまり自分の五官で感じるような表側の空間を通じてUFOとの視覚的な接触をするよりも、自分の意識の内的な部分においてブラザーズからのテレパシクなフィリングを感じ取りながら生活してゆく時期だという感じがします。

最近、私自身も寂しくなつて新宿の窓の外をながめて、今日もこの近くをUFOが飛んでいるんじゃないかと思うことがあります。以前は私がそう思つて外をひよいとながめると、ちょうどUFOが飛んでいるときに目が合うんです。そういう体験が多くあります。最近ではUFO側の表に現れるデモンストレーションはおだやかになってきたようです。

ただし想念が集団や団結に向かうときは、皆さん方が一緒にやっていると

楽な時期でもあるわけですね。ところが個々で自分の想念を調整しなくてはいけない時期というのは、ほかに基準にするものがないわけですからある意味では個人のカルミックな（運命的な）ものとの闘いになるわけです。

たとえばわれわれは他人と自分、物と自分、社会と自分というふうに比較して生きるようなカルミックなものを持っています。そういう「比較する考え方」をある程度自分の中から消していつて、常に自分の可能性や自分の未来などを見出し出てゆく生き方を持つことが、これからのちのち重要な影響を及ぼす時期ではないかといえます。

ですから想念的に言いますと、こういう時期に自分が心の中で行なつたさまざまなカルミックな作業というもの、これから十年、二十年先に非常に強い影響を及ぼす時期ではないかと思えます。

久保田 このあいだオーストラリアでUFOが自動車を吊り上げる事件がありました。あんな恐怖心を起こさせるようなことを真実のスペース・ピブルがするとは変ですね。

春川 普通は考えられないことです。ああいうようなUFOのネガティブな情報を与える事件というのは、たとえば誘拐とかキャトル・ミューティレーションといった生物を虐殺するような情報もそうですが、どうも個々の事件を追いかけてゆくと問題があるように

す。つまり情報捏造や情報操作の可能性が非常に高いと思います。

というのは、あのオーストラリアの事件にしてもいろいろ目撃者がいるというので地元のUFO研究団体がさかんに調査しているというところで、車が持ち上げられた物的証拠があるということですが、ただ体験しているのはその車に乗っていた家族だけで、それと遠くで目撃した人も数が少ないんです。実際はあの道路は多くの車を通っているんですが、それらがUFOを目撃していません。近所の住民たちも目撃していません。ですから非常に疑問点の多い事件です。

どうもこれは情報操作のニオイが強いですね。いつときアメリカのキャトル・ミューティレーション、特に牛肉の輸出入の問題で非常にアメリカの農業従事者が政治的・社会的に力を持っているときに、あのような事件が起きたのです。こういう事件が起るときは社会情勢を考えてみないといけません。彼ら農民は（家畜が殺されるのを見てUFOのしわざと信じ込んで）UFOに反発を持つわけです。そしてマインスの想念を起こします。

今回のオーストラリアの事件にしても、わりとオーストラリアはUFOの目撃がさかんな国のようですが、そういう所にネガティブな話題を提供するような事件がボツンと起きると、その事件がマスコミに大きく取り上げら

れます。これは故意の操作的なものであるように感じられますね。

ですから一般的な大衆は新聞、テレビなどにウェットをおくのですが、実はそれらはいろんな事件の断片しか伝えていないんです。この時期こそUFOに対する正しい認識、ブラザーズに對する正しい認識を持つべきだと思います。以前アメリカでよく起きたキャトル・ミューティレーションにしても米軍基地のまわりだけでよく起こっています。

久保田 日本経済はいま絶頂期かまたはそれを乗り越えており、アメリカから牛肉オレンドジ問題で叩かれたりしていますが、今後はどうなると思われませんか。

春川 外資が日本にいろんな形で食込んできていることは周知の事実ですが、最近はいろんな力の支配体制が入ってきているというのはちょっと面白い感じがします。最近の地価高騰にしても外国人が日本人名義を使って東京都内の土地を買い占めているようすが、それを見ると日本もしいにアメリカになるような気がします。

しかしこれほど物質的に恵まれた時期において、その物質を生かすしる想念を持たなければ、自然の流れによって物質は離れてゆきます。つまり恵まれているときほど、恵まれている人たちが物質を生かさなければいけないんです。それによって使った物が次の時

代に生かされてゆくことになるんですが、浪費的な傾向というのはいまの日本経済の根本的な問題だと思うんです。

大体、お金の流れ、経済の流れというのは、これを精神的な世界におきかえてみますと、これはある意味では愛情の流れなんです。たとえば金銭的な取引をするためには商社同士の信頼を必要とします。信頼というのは人々との愛情であるわけです。その流れがそのまま経済の流れとして象徴されているような気がします。

ですからいまの日本は何のかのいつても物が集まってくる、お金が集まってくるというところは、いろんな国から愛され始めている国だと言えます。事実、戦時中は日本は非常な精神主義で、帝国主義的な発展を続けてきたわけですが、その頃の日本が諸外国から愛されていなかったからではないかと思えます。

だから、これだけ愛をかけられるときだからこそ、何かの形で外に愛を返さなければいけない。近隣の諸外国にも日本人は愛を返さなければいけない。そういうふうな愛を返すような仕事はこれから伸びてゆくでしょう。

アイデアを提供する、技術を提供する、そういうことを、入ってくる分だけどんどん外へ出してゆくことが必要だと思います。それによってバランスが保たれてくるのではないでしょう。その意味ではこれから日本人は海外

へ出て行く時代になってくると思いますが、それと同じことを経験しているのはユダヤ人です。ユダヤ人はむかし固な民族として世界に散在して行ったわけですが、そしていろんな民族とまじわっていったときに、やはりそこで買われたのはユダヤ人の持っている愛情の気質とか、家庭を大切に考える方です。人によってはユダヤ人は強欲だとか身内主義だとか悪く言いますが、それだけユダヤ人が発展していったかけには、ユダヤ人が伝統的に想念の使い方をよく心得ていたわけです。

家庭を大切にする者は榮えてゆきます。家庭内の想念を大切にする者は榮えるんですが、これはユダヤ人の重要な考え方の一つです。それと、他人からしてもらいたいことを他人にしてあげるといってもユダヤ人に大切にされている思想です。

くらべてみますと日本にもそうした考え方の伝統はあります。ただこれが海外に出て行ったときに日本人個々の中で有効に機能してゆくかどうか。それが結果として出てくるのはたぶん私達の子供ぐらゐの世代でしょう。

ところが現在の新人類といわれる若い人たちが、家庭の大切さ、親子関係の大切さ、そして想念の使い方の中で理解して、本当に体ごと理解していないと、これから日本の人たちは大変な

ことになってくるのではないかなという気がしますね。

ですから経済の問題一つとってみても、究極には個々の想念の問題にまで密接につながっていると思います。

遠藤 よく円盤雲といわれるものが出現したりすることがありますが、あれはどういうものなのですか。

春川 これはシステマ的な話になりませんが、別な惑星から来る宇宙船（スカウトシップや母船）は船体のまわりにフォースフィールドといわれる力場を持つているわけです。この力場でもって雲を発生させたり、いろんな光の変調を自由自在に起こすことができます。彼らはそうした非常に優秀なテクニクを持っています。たとえばよくUFOの目撃報告の中に、ちよつと視線をそらしたあいだに出現していたUFOが消えていたという話があります。

それはUFO自体が光の指向性をコントロールできるからで、たとえばここで十人の人が並んで一定方向を見ていて、こちらの二人の人だけにUFOを見せるという作業がUFOはできません。またいろんな形の雲を発生させたりすることができず、雲自体を一部の人に見せたり沢山の人の人に見せたりすることができません。

それでUFOが発生させた雲と普通の雲との見分け方は、基本的にUFOが発生させた雲は、そういう現象を見る人たちの想念を彼らは上空で感受し

た上で見せているわけです。ですからその雲は形がかなりはっきりしています。明確な形をした雲を見せてくれるんです。

それから同じ形の長細い雲がいくつもいくつも出現することがあります。これはUFOの本体がテレポータ的に瞬間移動を機能的にくりかえす能力を持つていることに関係があります。実は最初の瞬間移動の始動時に、ものすごい早さで出現と消滅をくりかえすのです。つまりものすごい早さで振動するわけです。それによつてある振動点にゆくと、まわりの大気との状態によつてはつきりした形で雲が出現します。ある振動点へUFOが移動すると雲が出ない。そしてまたある振動点に達すると雲ができる。またその振動点がずれると雲ができない。こういうわけで、いくつもいくつも同じ形の雲がわーつと出てくるんです。

これが周囲の自然の雲よりも非常に低い所にできたり、雲の流れの方向には関係なしにその場所にとどまったりするとかいう事例の場合はUFOの起こす雲といえるでしょう。へ続いて春川氏はFM発信機、磁気、重力などの科学的最新情報を伝えて、某国のUFO問題や超能力の研究状況を詳しく話す非常に興味深い秘話である。

地球の人間でさえこれだけのことがやれるのですから、スペース・ブラザーズのレベルになれば日常茶飯事的に

すごい事がやれるのでしようね。

篠 あなたが他の惑星に行かれてあちらですごした三日間は地球では非常に短い時間だったということですが、その辺りをもう少し詳しくお話し下さいませんか（これは昭和六十一年度日本GAP総会における春川氏の講演中で述べた内容。本誌95号に掲載）。

春川 三日というのはあちらで日が昇り日が沈むのを一日と考えた場合、かなりズレがあつたわけです。その三日間が地球時間にしてどれぐらいかという点で秒単位の正確な時間をあとでスペース・ブラザーズから教えられたんです。

そこら辺がコンタクトの秘密といえど秘密です。つまり距離的なものが逆算できるのです。たとえばNASAもいまはわれわれが考えているよりもっと遠い所へ飛べる物をいくつか持っているらしいんです。かなりUFOのテクノロジーに近いような宇宙船がかなり出来ているらしいんです。その極秘な実験が行なわれていて、惑星間航行の距離をブラザーズはあまり言いたがらないというか出してもらいたくないニュアンスがあるようです。

私がいまに行ってきた惑星では、地球の数分間がむこうでは数時間です。それぐらいのズレがある感じなんです。ですから浦島効果というのは実際のコンタクト体験をした人がもたらしたのではありません。しかし自分

の肉体自体には変化はありません。帰ってきたらおじいさんになったということはないんです。

これは私の仮説ですが、地球の自転というのはその星に住んでいる生物の全体的な想念波動によつても微妙に変化するものではないかと思うんです。それとか光の性質も想念的なものにすぐ影響を受けたり、逆に光からわれわれが影響を受けたりするのでしよう。そんなつながりがあるのではないかという気がします。だから光の進度とか惑星の自転とかが変わつてくれば時間も変わつてくることらしいんです。

ですから、たとえば私たちがこうしていろんな物を見ているんですが、これは各物体が吸収せずにはね返した色を見ているわけです。ここに赤い物があるとすれば、その物体の中にあるエネルギーは赤以外のものが入っています。それで赤の光の性質がちよつとでも変わつてくるとすれば、この世界はアツというまに違う世界に見えるわけです。これはものすごいパラダイムの転換となるでしょう。

したがって光の作用とか重力の作用とか地軸の作用とか、そういうもの自体もやはりいまのわれわれの想念波動がかもし出して、われわれの生命の自然に進化してゆく形態にふさわしいようなものになっていると言えます。「この赤ん坊にはこの揺りカゴがふさわしい」というようなもの（惑星）が用意

されているのではないかという気がしましたね。

そうやって考えてみますと、この大宇宙を創った創造主はすごいと、あらためて思うんです。

遠藤 そうなると地球自体も生きていくことになり、人間は地球を愛さなければいけないということになりますね。

春川 そうですね。ですから最近ガイヤーの思想とか地球生命体説とかが出てきていますが、あの感覚はこれから必要となる感覚ではないかと思うんです。この頃は芸術家も地球と人間を一つにして描くような芸術作品の流行らしいですが、そういう感覚が出てきたということは地球と人間個々との一体感が出てきているわけです。だからわれわれ人間の進化は地球との一体感に向かっていると言えるでしょう。それがもつと親密な所でアクセスしたならば、地球の地軸の傾きがある日ストーンと変わるようになるかもしれません。

むかしからスペース・ブラザーズは地軸の問題をよく言いますね。あれはその点にあるのではないかと思えます。地軸というのはわれわれ人間個々の意識のパロメーターであると言えます。

安藤 いつも考えるんですが、私たちが本当にやってゆかねばならぬのは何なのかという問題で、それは想念をよくするということが最も重要だと思いますが――。

春川 そうですね。われわれはとかく

身近な所を飛び越して広い所を見たがる性質があります。大きなビジョンを持つことは非常に良いことですけれど、大きなビジョンを持ったとしたらそのこまかい部分を分析する必要があります。そういうふうにしてみますと、自分の最も身近なものに対する想念、特に家庭内とか、自分の仕事の世界とか、身内としてかかえている部分が正念場になってきます。しかしこれがまたむづかしい所です。

私がコンタクトの体験をしたことで実は自分自身が変わったなと思つたのは、結局いろいろな知識を得たこともそうなのですが、最も変わったと思うのは私がすごく親と仲が良くなったことです。これは変わりました。

それ以前私は親に対してすごく反抗的だったのです。ところがあるとき地球へ帰ってきたとき、母親が私に対して持っている想念、父親が私に対して出している想念がものすごく有難く思えてきたんです。これは不思議でした。それ以前私は親に感謝せよとか何とか道徳的なことを言われても絶対に聞く人間ではなかったんです。

しかし親の有難さが痛いほど身にしみて感じられるようになりました。それから親に対して口ごたえはできなくなりましたね。それがスペース・ブラザーズからのいちばん素晴らしい愛でありメッセージであったと思います。親に感謝をするように仕向けてくれた

ことがですね。

久保田 あなたが円盤や母船に乗って別な惑星へ何度も行つたことをご両親は充分にご承知ですか。

春川 母親は知っていますが父親は知りません。父親は大学で経済学をやった人で、いまは役人で指導的な立場にあります。父親には私の体験を一切話しておりません。ただし父親も何度も UFO を見えています。

以前、私の部屋の窓から UFO の定期便が何度も見えたことがあります。それは家族全員で見えています。妹がいるんですが、これも何度か見えています。ですからみんな UFO の存在は信じていますし、超能力も信じてくれるようになりました。

みなさんも同じ問題をかかえておられると思いますが、身内の方がご近所の方がアダムスキー哲学などを信じたい。信じなかつたりする場合があるでしょう。そういう場合、信じない人にむかってアダムスキー哲学を信じろと言うと対立します。こういう場合は愛し方と愛され方があると思うんです。

こういう場合、UFO の現象自体は重要ではないでしょう。私自身は円盤や母船に乗りましたが、それは私個人の体験であつて、親と一緒に連れて行けたらよかつたのですが、それがなかつたという事は、つまり私の中の意識を変えるためのブラザーズの作業だつたのではないかと思うんです。です

からそれを生かさないう限り、やはり周囲の人にとっては無意味でしょう。

だから生き方自体を変えてそれを周囲に及ぼしてゆく。現象(UFO現象)自体を提供しようとする、トラブルが出やすいことになりす。

うちの父親にアダムスキーを読めと言つたところで、これはむづかしいことです。そこら辺を考えますと、まず自分の生き方を変えて示すならばスムーズな関係になるでしょう。

私も最初に円盤や母船に乗つた体験ですごく感動したとき、まわりの人にのべつまくなしに話したことがあります。そうしたら中傷やらバカ扱いやらひどいものでした。

今回私の体験をGAPを通じて発表しましたが、これにしてもいろんな批判があつたわけです。こんな長い伝統を持つ日本GAPの中で発表してもこうですから、これを一般の人の前で発表すると大変なことになるでしょう。

しかし相手の意見や立場に合わせてあげるといふのも一つの愛情だと思えます。だから人間は明るい人の所に寄つてゆきます。明るい人が集まる所にみんなが集まるんです。ですからイエスが言っているように「光であれ」という考え方は非常に大切ですね。

父親には私の体験を話していませんけれども、父親の私に対する接し方が変わってきました。つまり私の父親に対する接し方が変わったから父親も変

わったのです。それで父親の愛をすごく感じるようになりましたね。これは私の宇宙的体験のなかで最高に良かったことです。

佐藤 別な惑星では子供の育て方をどのようにやっていますか。

春川 それはUコンに連載された私の記事の中でもチラと出てきましたが、私は別な惑星の教育機関を見せて頂いたんです。むしろ彼らはテベスアロと言っていますが、非常にユニークな建物の学校があります。

まず時計がないというのは非常に面白い点です。地球の学校では時間の觀念を植えつけるための教育しかやらないんですがね。そして歌がしょっちゅう聞こえます。音楽とか芸術とかにすぐウエートがおかれているんです。ある一定のカリキュラムで歌いながらある物事を記憶しようとするとな非常に早く記憶できます。そういうカリキュラムがいっぱいあるらしいんです。だからしょっちゅう歌をうたっているんです。

私はその学校を見せて頂いて説明を受けたときも、歌を重視していることを知りました。声を出させたり、ある旋律に情報を組み込んで教えたりしますが、彼らも人間だから呼吸するわけですが、空気を吸っているときよりも吐いているときのほうが記憶が高まるらしいんです。

ですから、歌というのは空気を吐き

ながら歌うわけですが、そうやって覚えた物事は非常に有効に記憶回路に入ってくるという話を聞きました。これはわれわれでも応用できるかもしれません。

その惑星の歌の旋律は中間音みたいなものが多いんです。あれは不思議です。たとえば中国の音楽は旋律が非常に音の多い、奇妙な感じがしますが、あの手の旋律がすごく多いんです。あのような調べの中にやはり人間の意識の中に刺激を与えるものがあるのではないかと思えますね。それが教育法の基本なのでしょう。

久保田 その惑星というのは金星のことですか。

春川 はい、そうです。われわれの耳の持っている波長と彼らの耳が持っている波長とは違うんです。たとえばテレパシクな形で会話をする場合にはダイレクトに感情がこちらへきますので言葉はいらないわけです。ですからそれは日本語のニュアンスに翻訳されて感じるので、実際の彼らの音声はピーツとかキャツとかの高い音なのです。それが歌みたいにくり返されるわけです。それは自分が地球人としてそう聞こえたのであって、もしかしたら彼ら同士は違った聞こえ方がしているのではないかという気もしました。

松村 アダムスキーによりますと、別な惑星では人間に名前をつけないということですが、これについては？

春川 彼らが名前を持たない理由をいくつか私に伝えてくれましたが、一つは教育上の問題があるんです。小さいときから一定の名前を言い聞かせることによって、ある決まった意識の持ち方のクセができるんです。それは後に大きな影響を及ぼします。だから彼らは「あなたがたと同じ名前の觀念を持つていない」と言っていました。もう一つは、意識の中で感じあえる者同士は名前はいらないうんです。

音声に関することで、私はよく能力開発のカリキュラムの中でやるのですが、たとえば自分にとって最も許せない憎たらしい人の顔を思い浮かべて、百回ぐらい「有難うございます」ととなく続けなさいと言っています。するとびっくりするほど恨みの念が消えます。要するに言語が感情を誘導するという現象が非常に強いウエートであるんです。これが昔の日本人が言っていた言霊、つまり言葉の響きだと思っています。ミラクルワードにしてもそうです。良き言葉をくり返すことによって良き感情が生ずるんです。だから言葉にはすごい力が含まれています。

今年春には体調をこわして入院しましたが、病院でじっと寝ていますと、いろいろな過去の事が思い浮かんできます。そんなときには他人を許したり有難く思ったりしますが、「有難うございます」という言葉をくり返してしますと本当に有難くなってくるんです。

ですからミラクルワードというのはすごいですね。

病院では面白いことがありました。向かいのベッドにいた人は末期の肝癌病で、それも末期状態になると夢遊病みたいになるんです。私がいた頃は夜中になると、そこらをごそごそ歩きまわります。まわりの患者さんたちもイヤダイヤだと言っていたんですが、私が治ると同時に奇跡的にその人も治ってしまいました。自分が変わると周囲の患者も目に見えてよくなってくるんです。この場合、私とその人との波長が合ったのだらうと思います。

左隣にいた患者さんはいつも「ヒマだなあ、ヒマだなあ」と言っているんです。それで母からゲームの道具を持ってきてもらって、その人とゲームをやるようにしたら「あなたが来てくれて生活が面白くなった」と言っていて、とても喜んでいました。

当初、医者には私の全治までに四カ月かかると言っていました。が奇跡的に一カ月半で全治して退院できました。良い言葉、良い想念を持ち続けられれば、必ず自分の環境も良くなりますし、周囲にも良い影響を与えることになります。

春川氏は他にも多くを語ったが、ここには収録しきれない。自身の宇宙的体験、世界の裏状勢、人間問題等、博識を発揮して話した続けた氏のさわやかな弁舌は二時間ほど続いた。

潜在脳力を開発し、願望実現を早める奇跡の音楽

アメリカで話題騒然のスピリチュアル音楽ライブラリー
ついに日本でも独占販売開始

この音楽を聴きだしてから 願望が次々と実現し始めた

アメリカで各界から熱狂的注目を欲びる常識を超えた奇跡の音楽

「スピリチュアル・ミュージック」、「ニューエイジ・ミュージック」と呼ばれる不思議な音楽が遂に日本へも上陸しました。このスピリチュアル音楽に関しては、日本でもニューサイエンス関係の書籍や一般の雑誌・新聞でしばしば紹介されているので既にご存知の方も多いことでしょう。今から十数年前にワエストコースト（米国西海岸）で湧き起こった、意識と物質を同一の次元でとらえようと



●記憶力・集中力・創造力などの潜在能力が曲を聴くことにより自然に開発される。
●一二年の長期にわたって、これらの曲を愛好している人、超能力者ヒラー（心霊治療家）の典型的脳波であるアルファ波とシーター波の同時高レベル波形とよく似た脳波があらわれるようになり、その結果、鋭い直観力——これがさらに高まること未知予知や読心力などの超能力——の持ち主になる。
●夜、寝る前に聴くと熟睡でき、疲れが翌日にあまり残らず、朝の目ざめがとてさわやかになる。又、小さな事にクヨクヨしなくなる、包容

するニューサイエンス運動、エコージ思想等のニューエイジ革命の風の中から生まれ出たスピリチュアル音楽——。

●作曲家・演奏者達が皆30代前半から半ばと若く、理想愛好家の上、肉体離脱や超常現象を日常的に経験するなど、きわめて霊的意識が高い。
●今までの音楽のように単に曲を聴いて楽しめるという点だけではなく（もちろん音楽的に非常に魅力に富んだ曲が多く十分に楽しめるが）、意識を高め、潜在意識を刺激するという、「意識、無意識への作用」という事に重点をおいて曲がつくられている。

●記憶力・集中力・創造力などの潜在能力が、他人に寛容になり対人関係がスムーズにゆくようになる等々の人格向上効果が見られる。
●潜在意識が活性化されることにより、円滑現象（願望がスムーズに実現される、自分の思い通りの方向へ物事が進んでゆく等の現象）が起きるようになる。
これだけでは、まだとても説明しきれないくらい驚くべき効果を持つたスピリチュアル音楽は、その多様な効能が、早くからアメリカの教育界・医学界・宗教界・実業界など各界から熱い注目を浴び、数々の実験、科学的基礎研究が今日まで行なわれています。

アメリカでは脳力開発に、願望実現にと幅広く活用されている。

アメリカでは、これらのスピリチュアル音楽の科学的研究、神秘的霊的側面からの経験データに基づいて、応用面での研究・実験もさかんに行なわれています。現在のところ最も利用が進んでいるのは教育の分野で、サジェストヘディア（超高速学習法）のバックミュージックとしてさかんにこのスピリチュアル音楽が利用されています。又、能力開発、霊性開発を目的とした瞑想教室では、スピリチュアル音楽はもう空気同然の必需品で、大脳の潜在脳力をめざさせるのに著しい効果のあることが何千人の生徒達を使った実験でも実証されています。

又、成功を夢みるビジネス界のエリートの間でもスピリチュアル音楽はたいへんな人気で、脳力開発に、ストレスコントロールに、又、願望の早期実現のために、いろいろな使い方をされています。



◇「スピリチュアル・ヒットUSA」ライブラリーの中の1曲ご紹介◇
曲名：TEMPLE IN THE FOREST
作曲演奏：DAVID NAEGELE
曲の内容：アコースティックピアノ、シンセサイザー、エレクトリックピアノ、自然音で蓄在意識の波動をあらゆるリズムが形づけられる中を、「オーム」の神聖なマントラのバイブレーションが限りなく広がってゆく様をみごとに表現している。
瞑想用に、又直観力・創造力開発に最適な曲の1つ。

★想像以上の効果にびっくり!!★

はじめのころは、「何かおもしろい音楽だな」と感じて、でも聞いていたことが落ちていく感じが、まあ車の中で聞くとしらあ静かでない曲くらい印象しかなかったのですが、しばらくして色んな異常に気づきはじまりました。低血圧症がニガ手だったのが、すこく寝さめがよくなったとか、仕事上の判断が正確になり前みたなくドジをやらなくなったとか、それにいちばんの異常は、女の士持に美人」と話をするとどうも愛と恋のところで緊張してしまつて話が上ずりたりして、どうも恋ト手だったんですが、それが最近じや前みたなく愛

な負気がなくなり、ほんとに気楽にストリートに話ができるようになったことまで。おかげで、会社の女の子がみんなボクの恋人に見えちゃうほど。何か会社に行くのが楽しくなりましよ。ほんん、もちろん例の音楽は毎日かかすず聞いてます。次のテーマが楽しみです。埼玉県、山口浩和最近、人とのつきあいが信じられないくらいうまくゆきます。

広島県 船越照政
こうなつたらいいなあと思つたことがもう立続けに二度も現実のものになつてしまいました。

東京都 高見隆春

米国のスピリチュアル音楽ベストヒット48曲 音楽を一堂に集大成

アメリカンライブラリー社では今アメリカで最も人気の高いスピリチュアル音楽のベスト曲、48曲テープ24巻の独占販売権を獲得し、「スピリチュアル・ヒットUSA」として

日本の皆様には頒布会方式で通信販売いたしております。
「スピリチュアル・ヒットUSA」の頒布システムを説明しますと、初回から12ヶ月にわたって、毎月カセットテープ2巻が届けられ、支払いは毎回五、六〇円の送料三〇〇円。初回、二回目以降を問わず、商品到着後5日間の無料試験期間がありますから、万、一曲が気に入らなければ自由に返品できます。（二巻のうち一巻のみのお購入の場合は代金は半額で、八〇〇円プラス送料又、途中で購入をストップしたい場合は、所定のハガキ又は電話で通知すれば、その時点で購入を止められます。
商品は、2週間前後で到着します。瞑想ガイダンス、願望実現マニユアル、脳力開発マニユアルがついてきますので、それぞれ目的に応じてこれらのマニユアルを利用下さい。
第一回目の試験のお申込みは、〒107 東京都港区南青山1-26-14 アメリカンライブラリー社 U.F.の係
電話 東京03(479)5864
までハガキで電話で、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、「スピリチュアル・ヒットUSA」試験希望とお申込み下さい。

UFOs and the Complet Evidence from Space
By Daniel Ross

UFO 宇宙からの 完全な証拠

金星、火星、月に関する真相
●ダニエル・ロス／久保田八郎訳

連載第5回



▲著者ロス氏とパメラ夫人(自宅にて。撮影＝坂本茂子)

一九六九年の夏、さらに二機の宇宙探査機が火星のそばを飛んだ。この探査機マリナー6号とマリナー7号はそれぞれ二台のテレビカメラを搭載していた。一台のカメラは広角レンズを持ち、他のカメラはクローズアップレンズを持っていた。そして百六十万キロメートルの距離から最接近した三千二百キロメートルに至るまでのあいだに合計二百二枚の写真が撮影されたが、その写真類によって科学者達は火星の地形に関し、大要次の三種類のタイプがあるという結論に達したのである。

- (1) 広い地域(複数)には平たくてなめらかなクレイターが点在している。
- (2) ヘラス平野のようにクレイターのない砂漠地帯(複数)がある。
- (3) 明らかに乾いた川床や流れの跡のある山岳地帯がある。

赤外線や紫外線による探査結果と比較して、調査にあたった科学者たちは、依然として火星の大气や極冠はほとんど炭酸ガスから成っていると主張していた。そうした意味の主張が少しはおおやけに残っていたものの、七年後にバイキング探査機はこの理論が誤っていたことを立証したのである。

わざとカラーカメラを用い
なかつたマリナー9号

惑星のまわりの軌道をうまく回った最初の探査機は、一九七一年十一月に火星に到着したマリナー9号である。

高度の軌道からそれは数千枚の写真を送り返してきた。NASA(米航空宇宙局)はまだカラーカメラを用いていなかったがこれはNASAの好みであった。初期のマリナーは束の間の接近にすぎなかつたけれども、この探査機は火星全体を撮影することになった。だからもしもカラーカメラが使用されれば、ローウェルが図示し、後の一九五四年の火星探検計画で撮影された運河に沿った広く暗い灌漑平野が、周囲の地域と鮮明なコントラストをなして見られることになるだろう。結論をくだす責任者たちはUFO存在の証拠の背後にひそむ事実のすべてや、この惑星間を飛ぶ宇宙船のかかりの数が火星から来ることを知っていたし、また人間の住む惑星のいかなる徴候をも見せないようにすることが絶対に必要であると考えていた。

結論として、この惑星は生命のない不自然な不毛な惑星のように見せかけることであつた。そしてこのことは白黒写真で達成されたのであり、コンピュータ処理によって不明瞭なくすんだグレーの写真にされたのである。数枚の不毛地帯や峡谷の写真を除いて広い地域(複数)は明瞭な特徴のない影やかすんだ画面に変えられただけである。公開された大多数の写真は見てても無意味なものだつた。それらは細部の見えないグレーの陰影にすぎないからだ。科学界に渡されたありきたりの見

本写真によって、最新の写真類は連写が存在しないことを立証したという結論が自動的に生じてしまったのである。しかし写真の質や解像は人工的にきわめて貧弱だったので、マリナー9号の写真による結果は実際には何も立証できなかったのだ。そして検閲官たちもそのことを知っていた。

火星の砂嵐の報告は二七モノ

マリナー9号は一九七二年十一月に火星へ到着したけれども、この探査機は一九七二年初頭までは写真撮影を開始することができなかったといわれていた。これは到着時に火星表面の時速三百二十キロの風により、惑星全体に及ぶ砂嵐のためだといふのだ。

これは矛盾の始まりである。NASAは火星表面には地球の千ミリメートルに比較して大気圧約七ミリメートルという極端に希薄な空気しかないと言張しているからだ。風というものは空気の運動である。実際に空気がないというのなら、何が時速三百二十キロで動いているのだろうか？ 無視してよいほどの大気しかないのなら、数トンの塵埃を何が支えているというのか？

火星には時速三百二十キロの風があったかもしれないが、それが地表付近にあったのではないことは地球と同様である。私は数年前カリフォルニア州へむかつて飛行機に乗っていた。そして

パイロットが機内放送し、機は現在一万一千メートルの高度で飛び、風はどこかの方向から時速二百七十七キロで吹いていると告げた。

私たちが聞いているジェットストリームなるものは時速四百八十キロのスPEEDに達するという。したがって私は報告された火星の時速三百二十キロが地表の風であるとは思わない。

その後バイキング1号着陸船が一九七六年から八三年にかけて火星地表から無電で情報を送り返してきたが、強風の報告はなかった。

近年の火星望遠鏡観測史を理解すれば、火星全体に及ぶ砂嵐の報告がニセモノであることがわかる。というのは火星の季節が全く地球と同じであることを証拠が示しているからだ。

ある一定の時期に一半球は常に肥沃な春または夏の季節にあり、三十二万平方マイルまたはそれ以上の広大な緑地帯が多数ある。したがって反対側の冬の半球には乾燥したホコリっぽい地域があるかもしれないが、一方、夏の半球における植物の成長周期は、そこで発生する局地的な個々の砂嵐を決して排除しないだろう。換言すれば、存在したといわれる惑星全体に及ぶ砂嵐なるものは実際的な科学的説明にならないのである。

夏の半球の部分的な暗い地域に対する合理的な説明はあるかもしれない。もし激しい火山爆発があったとすれば、

莫大な量の微細な灰が大気中に舞い上がり、大気上層部の風が点在する地域へ灰を運ぶだろう。火星はきわめて薄い大気を持つという学説で教育されてきたために、ある種の暗部が存在する証拠を見ている科学者連は、地表に砂嵐があったのだという誤った結論をくだすかもしれないのだ。

別な自然な解釈も部分的な解答を出すかもしれない。大気中のある層が太陽エネルギーのある種の波長をもつ色を反射することも可能だろう。たぶんそれは黄色かもしれない。火星表面近くに普通の状態の雲があったとすれば——その状態というのは水蒸気を含む雲のことだが——右の特殊な大気層は雲を黄色っぽい霧または霧のように見せるだろうし、そのためこれは広い地域の特徴ある物を暗くするだろう。

以上は部分的な解答かもしれない。というのは望遠鏡で火星を研究している天文学者連は、ときどき直径千百二十キロまたはそれ以上もある輝く黄色い雲を観測したと報告しているからだ。しかし彼らは「惑星全体に及ぶ」状態のものが三カ月も続くのを全く見たことはないのである。

「三カ月も続く砂嵐」の報告がNASAによる計算された企みであったという可能性はある。これは低い軌道を回るマリナー9号によって火星を秘密裡に調査し写真撮影しようとしたためだろう。そしてそれを完遂したあと、探

査機はふたたび高い軌道に乗せられて、ニセの砂嵐が静まったのである。

このときNASAはぼやけたグレイの解像度の低い写真類の送信を開始することができて、これは一般に公開された。政府関係諸機関はいつも「国家安全保障」という毛布で覆われている宇宙に関する機密問題について、大衆を欺ってきた長い歴史を持っている。

火星の実態を隠した理由

マリナー探査機はベトナム戦争のあいだに火星を回っていた。政治的、社会的、経済的な勢力は、科学上の新発見の公開を阻止するのに最大の支配的役割を演ずる。国家の共同活動の場において、一九七二年に最も重要な問題であったのは、火星に生命があるかどうかではなく、ベトナムの不名誉な惨状から大衆の目をそらさせる方法にあった。アメリカ政府は戦争遂行のために毎週十五億ドルを投入し、それは武器製造業者に巨額の利益となった。要約すれば経済は好調で進んだのである。こうしたときに火星の生命や人間居住状態などの写真による証拠が突然世界に公開されたらどうなるだろう？ あらゆる人の注意は星々の方へ驚異の目で向けられて、戦争ゲームの無益さが大衆の意識の表面に浮かび上がってくるだろう。ベトナムの戦場における大量殺人行為はやむだろうし、戦争に

よる利益もなくなるだろう。最大の弾薬庫をだれが持とうがだれも気にしなくなるだろう。人類はふたたび人間らしくなることを望むだろう。政治的イデオロギーの手先にはならないだろう。

現在マリナー9号による証拠はむしろ時代遅れになっていくし、もと公開された発見事は、どちらかといえばその惑星に関して決定的な線をほとんど出してはいないけれども、次の理由により正しい展望においてマリナー9号を再評価してみたのである。

この探査機は運河の存在と人間の居住が誤りであることを明白に証明したものと常に引合に出されてきた。しかし実際に起こったのは次の事柄である。つまり「検閲官たちが大衆に見せようと望んだ物は、科学者たちが見たがっていた物にもなってしまったので、それ以来火星に関するあらゆる物事はトンネルの視野を通じて見られてきた」

火星の運河やオアシスの存在を証明したローウェル

明瞭な比較のために読者は信頼のおける天文学書「火星の写真による物語」を読むとよい。これはローウェル天文台のE・C・スライファード博士によって一九六二年に出されたものである。この素晴らしい書物は、政府の「公的な」証拠にもとづいて一般に出されている火星関係の記事類がほとんどナン

センスであることを容易に立証しているのだ。

このローウェル天文台の書物は五十年以上にわたって撮影された二十万枚の写真にもとづいて書かれている。それは火星が水蒸気の雲を支えている濃密な大気を持つこと、極冠は凍結した水から成っていること、火星の表面は運河、オアシス、周期性をもつ植物などで覆われていることなどを証明しているのである。

スライファード博士は火星の人間存在にまで言及しなかったが（彼は運河存在の証拠でその言外の意味を含ませている）、いったいNASAはマリナー9号でもって人間が存在する惑星の自然の環境による特徴をなぜ見逃したのだろうか？

比較的少ない発見事が数カ月にわたって、どのようにして少しずつ知らされたのかを考えるのはむづかしいことだが、安全に言えるのは、計画に参加した科学者連はほとんど情報を与えられなかったということだ。実際、多くの月の写真を、科学界に渡されたマリナー9号の写真アルバムに比較すると、この方が魅力的な風景のように見えるのである。

ちよつとした興奮または推測を起こさせると思われる唯一の写真があった。火星のエリシウム台地の部分的な写真の中に、四個の明瞭なピラミッドの群れが立っている。二個の大きなピラミ

ッドは大きさがほとんど同じで、並んで立っている。他の小さいほうの二個は別な場所で見つけられている。

この写真の中で近くに別な構造物が見られる。それは完全に直角をなす四面のピラミッドで、エジプトやメキシコのピラミッドに似ているものだ。

何かの自然的作用によってこれらの巨大な構造物が形成されたのだろうかという説のすべては、「火星の生命」の著者で科学文筆家のデービッド・チャンドラーによって除外されてきた。

しかしその公開された写真は万人を納得させるものではない。なぜなら表面がざらざらしていて、そのためにリアルな鮮明さに欠けるからだ。だがその写真は、NASAの公表を信ずる人たちによれば、現代ではないにしても過去にかつて火星に文明があったのではないかと静かに推測させるのである。

バイキングチームは微生物しか考えなかった

マリナー9号の報告のすべてが分析される前に、あらゆる計画のなかでも野望に満ちた探査計画が進行していた。このプロジェクトはバイキングである。二個のオービターと、一九七六年夏にランデブーして火星の生命を調査する二個の着陸船を用いる宇宙探査機である。このアメリカの探査機が火星まで十一月、三億五千二百キロの旅で前進していたとき、バイキング

関係科学者チームは次のように宣言した。

「もしわれわれが火星に生命を発見すれば、われわれは自動的に全く新しい科学を開発したことになるだろう。それは生物学を根本的に他のものに変えるだろう。人間が長いあいだ保ってきた多くの哲学的な態度さえも再考しなければならなくなるだろう。生命の発見の衝撃は大変なもので、それは待たなしてあつて論議の余地のないものである」

以上は意味深長な言葉であつたが、一つの大きな要素が欠けていた。約六十名から成るバイキング関係科学者のチームは、彼ら自身の理解力にしたがつて生命を探索していたのである。しかも彼らは土壌の中の微生物に限定された火星の生命の間接的な可能性しか考えられなかったのだ。たしかにこのプロジェクトのリーダー生物学者が、「火星のいかなる生命発見の可能性も完全にゼロだ」と言ったことがすでに記録に残されていた。これまでに計画されたなかで最も重要な宇宙探査機にたいして、これはいかなる種類の客観性または姿勢を示すものなのか？

答は次のとおりである。これはオーソドックスな社会による科学的考え方の典型的なタイプそのものなのだ。いかなる調査研究の結果といえども税金で支えられた宇宙開発プロジェクトで働くために雇われた科学者の才幹と姿勢

に従っていることをわれわれは忘れてはならない。彼らの理解力、意見、偏見などが、決定される解答に重くのしかかっている。科学的研究といつてもほとんど価値はないのだ。

写真発表までのカラクリ

バイキング1号は一九七六年六月に火星に到達した。そして着陸地点を詳細に撮影するために、その惑星を回りながら一カ月をついやした。これらの写真を見るのはきわめて興味深い。というのはクリュセ地帯を選ぶために用いられたという写真は、千六百キロ以上の距離から撮られたもので、安全な着陸地点として正当化するほどの細部に欠けたものである。つまりNASA関係の刊行物やその他さまざまな書物雑誌類に掲載されてきたバイキングオービターの写真は、マリナー9号が撮った写真類よりもごくわずかに改良されたものにすぎないのだ。知られている荒涼たる地域である、だれもがよく知っている地点だけを除いてかなり解像度の欠けたものである。

しかもそれらの写真はすべて生命のない白黒タイプである。公開されたもので少数の「カラー」写真があったけれども、これは本物のカラー写真ではない。それらはカラーフィルターを用いて撮られた三種の別々の白黒画像を重ね焼きして作られたものだ。その

ために誇張された結果が生じたのである。この「カラー」写真類を見る人ならだれしもNASAの納得のゆく説明を読むまでは、何を見ているのかわからないだろう。

いったいNASAはバイキングオービターでもって本物のカラー写真を撮ることができなかったのだろうか？ できたのだ。そして撮ったのだ！ しかしNASAは絶対にそのことを認めようとせず、高軌道から撮影したコンピュータ処理による白黒写真を公表しただけである。

同じ高度で同じ解像力でもって地球の軌道を回る人工衛星から地球を撮った写真は、地表の生命のシルシを示さないし、白黒写真ならば地球上に豊富な植物の生長があることをわれわれに認めさせないだろう。

われわれが有望な発見や明白な矛盾を調べる前に、バイキング宇宙探査機からもたらされた情報がどのようにしてコントロールされたかを考えてみることが重要である。

以前に打ち上げられた火星と金星の探査機に使用された方法にたいして決定的な類似性がある。オービターによって撮影された写真や種々の気象学的な調査結果は、まずジェット推進研究所の秘密通信センターへ送られ、そこで十分に修正されてから司令センターのメイン制御盤と出力ディスプレイへ中継されるのである。

このように言うと、プロジェクト関係の科学者チームや、ほぼあらゆる人から反論されて不信感を買うだろうが、事実には次のとおりである。これらの科学者は宇宙探査機から直接送られてくるナマの信号を受けているのではないのだ。

政治経済上の現実というものは別な具合に指令する。この科学者連は、われわれの太陽系内の知的生命または人間居住条件の劇的な否定できない証拠を提供することが許されるような地位にいないのだ。彼らは土中の微生物の活動について推測することが許されるにすぎない。なぜなら微生物はUFOと実際の関連を持たないからである。そして一九四〇年代以来、種々の政府機関による隠蔽工作の激烈な焦点となってきたのは、地球へ来訪するUFOなのだ。

火星の赤色は地表の色ではない

また科学者団によって作られたバイキング着陸船をどこへ着陸させるかの決断もつかなかった。彼らは鮮明な写真を持たなかつたからだ。彼らが最終決断について責任を有することは自分たちにも明白であつたかもしれないが、実際にはどこで不毛地帯に出くわすかを知っていた人々による推測のかたちをとる必要があつた。バイキング宇宙船が火星に到着したとき、北半球は夏

の季節に入っていた。そしてその半球の半分以上は植物生長の肥沃な地域をもつていた。

最初からバイキングによる情報は極端に秘密にされていた。高解像度をもち、カラーの細部を写したオービターによる写真類は、最高機密の検査用に使われた。一方、低解像度をもつ（高軌道から撮影された）色のない白黒写真はふるい分けられて、ディスプレイ・モニターに送られ、結局これが大衆に公開されたのである。人々はもっと多くの写真を出せと、やかましく要求しなかつた。見ても退屈だったからだ。

各種の気象上の測定が組み込まれたが、火星の上層大気の不明瞭な測定結果を出したにすぎない。これは火星の環境に対する仮説的な諸理論のどれかにあてはめて解釈されるだろう。

古い学説の焼き直しがまかり通る

『サイエンティフィック・アメリカン』誌一九七七年七月号に、火星大気のため一つの観測結果も百二十キロメートル以下では得られなかつたと述べてある。現在、地球では大気の九九・九パーセントはその高度以下にある。そして科学者はその高度でどのような分子構造があるのかについて実際には確信がもてないのである。

真実の記録によれば、いわゆる証拠なるものすべては全くの推測である

ことを示しているのに、なぜ火星の環境に関するすべての事柄が現在、事実として教えられているのだろうか？ 以下は「サイエンス・ニューズ」誌（一九八一年七月十八日発行）からの引用である。

「バイキングオービターは水検出器と温度分布装置をそなえていたけれども、大気のデータをほとんど与えなかったので、十年前（一九七一年）マリナー9号に積み込まれた紫外線分光計が出したデータから新発見事を探り出そうとしていまだに努力している」

バイキング探査機に続いて出された火星に関する結論は、長く保たれてきた学説の言い直しにすぎないという私の主張をさらに証明すると、同じ「サイエンス・ニューズ」誌の記事が次のように述べているのである。

「火星へ打ち上げる未来の探査機は、大気の組成を測定するための各種の分光計とともに、火星の磁場に関して報告させるための磁気計を搭載すべきだ」というのは、バイキングオービターはこうした測定を全くやらなかったからである」

NASAの検閲官たちはこの探査機の写真による結果をコントロールしてしまった。大気の状態に関する新発見は基本的にゼロであった。バイキングチームの手に残された唯一の本当の研究作業は、着陸船による土壌分析実験であった。その結果や結論がどのよう

なものであったにせよ数年間は討議されたらしい（ただしそれはひどく保守的な人たちがいかなる結果をも的確な指針として解釈しながらないような、ほとんど既知の結論であったのだが）。科学者たちがあまり勢いづいてこなければ、微生物の存在を認めるのは了解するだろう。

大気の薄いはずの空中でパラシュートが作動した

一九七六年七月二十日、バイキング1号着陸船は主オービターから切り離されて、クリュセ平地に着陸するため而降下して行った。五百四十三キログラムの着陸船が地表へむかつて飛び降りるのを制御するためにパラシュートが用いられた。

われわれは地球の数百ミリバールの気圧中でパラシュートが作動することを知っている。しかしNASAは火星の気圧が七ミリバールにすぎないと言っており、しかも数マイル上空では一ミリバール以下になるというのに、何がいったいパラシュートをふくらませて、いかなる種類の抗力が起こって、降下する着陸船をゆっくりと降ろさせたのだろうか？

この答は簡単である。望遠鏡観測で撮影されたのと同じ濃密な大気、NASAの検閲官たちが否定しているのと同じ濃密な大気がそこにあるからだ。われわれは一九七六年七月二十一日

に火星表面から送り返された最初のカラー写真によって、注目にあたいする大気存在の証拠を間接的に与えられた。その写真が美しい青空を示していることを多くの人は知らない。「サンデイエゴ・ユニオン」新聞は七月二十二日付の第一面に前面カラーでこの写真を掲載し、「火星は青空を誇りにしている」という題で記事を載せていた。それは全く地球の空のように見えたし、火星の大気の構成要素が地球の空と同じように日光を拡散させていることを強くほめかしていた。

ところがまさにその翌日、この写真は間違った写真だということによってNASAによって引つ込められたのである。それ以来公開されたどの火星写真もピンク色の空と赤茶けた地面を示していた。

この宇宙開発機関は、バイキング着陸船の横腹に描いてある米国旗がコンピュータ処理用にもっと正確な色コードを与えており、新しい写真類はもっと正確であると主張している。

しかし実際には、その赤と青の国旗を手つかずの状態に保ち、コンピュータ画像化によって、送信された写真の残りの部分に強い色合いを配するほうがはるかに容易だろう。最初の写真を除いて、バイキング1号の（後のバイキング2号も）着陸地点から送られてきたカラー写真のすべては、きわめで不自然に見える。オリジナルの写真

だけが正しいカラーコントラストをもつ自然の写真のように見えるのである。（写真1。33頁に掲載）

読者は問うかもしれない。なぜNASAは最初に青空の写真を公開したのかと。考えられる理由は次のとおりである。バイキング以前でさえも科学者連のなかには火星の大気の濃密さのいかにかわらわらず火星の空は青いかもしれないと予言していた人がいた。したがって地球へ送り返された最初のカラー写真でそれが示されたとき、NASAの検閲官たちはたぶんたいしたことはしないだろうと考えたのだ。

しかし真実が躍り出た。その写真は地球上のどこかで撮られた写真のようにあまりにも素晴らしい驚異的なものだったので、火星には希薄な大気しかないというわれわれの古い学説は完全に間違っているかもしれないと少数の科学者はただちに考えたのである。この即席の声明は新聞にとり上げられた。検閲官たちは再度その写真を見て、あらゆる写真をコンピュータ処理によって気味の悪いピンクの空とゾツとするような赤い地面に見せかけるように決めたのである。そうすれば人々のさまざまな推測を決定的にとめることになるだろう。そこで係官たちは青空の写真を間違った映像ということにしたのである。

その写真は公開されたので、それはNASAの写真業者に注文することが

できる。私もその写真を注文したが、サンデイエゴの新聞に掲載された写真ほどには良くないのだ！

生命の構成要素のすべてを 検出したバイキング

新聞に出た最初の数日間の報道は興味深いものだった。多くの記事は火星の生命存在の証拠がありそうなことをほのめかした政府関係者の声明を引用した。管制センターは着陸地点に毎朝霧がたちこめていたと言った。バイキングオービターは火星は科学者が以前に考えていたよりもはるかに水分が多いという驚くべき証拠を提供したし、またこの宇宙探査機は火星の大気中に窒素が存在していたことを初めて洩らしたのである。この窒素はあらゆる生命のプロセスに必要だと信じられている元素である。以前は遠隔検知装置のいずれも窒素を検出したことはなかったのだ。

またバイキングは、酸素、炭酸ガス、水などの存在も確認している。酸素が水を形成するのに必要であることを考えてみれば、生命の構成要素のすべてが検出されたことになる。北の極冠は八百メートルの厚みのある凍結した水であるとされている。北方地帯で撮影された写真類は長さ三十二キロメートルの厚い綿毛状の雲（複数）を示しているが（写真3。33頁に掲載）、これらの雲は地表から数マイルの上空

にあり、地面に明瞭な影を投げかけている。火星の大気はこうした本物の雲を支えていると報告されている大気よりもはるかに濃密であるにちがいない。後になって写真類は朝の霧、クレイターや峡谷の深みにたちこめて覆われていたし、他の地域は霜や雪で覆われていた。

驚いたことに、火星の大気や地上に水が存在する右の証拠のすべてを科学雑誌がほとんど取り上げなかったのである。大衆のほとんどは火星の水が大変豊富であることを知らないのだ。学生たちも学校でそのことを教えられてはいない。そして科学文筆家たちも不毛の大峡谷や乾いた川床を写した、よくある写真類にばかり焦点をあてて、これらの地形を造った水がどこにあるのかと尋ねたりする。彼らにはアリゾナ州のグランドキャニオンを造り出した水がどこにあるのかと尋ねたらどうだと言いたい。

この答は次のとおりだ。気候が遠い大昔に変わったために、水は地球上の別な場所にあるのだ。そして火星の水も現在は異なる地域にあるのであって、それだけのことなのだ。

NASAの偽りのデータ

しかし火星はバイキング探査機によって人間が居住することは確実に示されなかったが、これはNASAが不適

当な、絵のコマとともにクズ写真はかりを公開したからである。いわゆる氷点下の温度や希薄な大気に関するNASAの偽りのデータによって、完成不可能な絵パズルになってしまったのだ。大衆は関心を失い、その結果、科学者は古い学説に戻ってしまった。しかしそうなる前に、解答を必要とする最後の質問が一つあった。土の中に何かの生命体があったかということだ。十九世紀の哲学者ゲーテはかつて次のように宣言したことがある。

「実験というものは真実を証明するために行なわれるのではないし、それが実験の目的でもない。教授連が証明する唯一のポイントとは彼ら自身の意見なのである。彼らは真実を明らかにするような、自分たちの学説を不利にするような実験のすべてを隠してしまうのである」

われわれはオーソドックスの科学者たちがローウェルやスライファールによる初期の望遠鏡観測を無視した状況を見てきた。学者たちは二人の学説を不利にしまったのである。右のゲーテの言葉を心にとどめながら火星の土のテストの実験結果を論じることしよう。NASAの検閲官たちが保守的なバイキングチームにたいして結果を解決する自由を与えたが、これは結果が安全な賭けであったからだ。このことは本章の初めに述べた。

大衆は、火星の土の実験が生命の可

能性を立証しなかったという印象を受けたが、生命が存在しないというのは全然真実ではない。一つの不明瞭な結果を除いて、もろもろの徴候は生命存在について疑う余地のないものであった。三種類の生物学的テストのどれもプラスの結果を出したのである。ただ計画されていなかった有機化学テスト（これが生命検出実験として応用される意図は全くなかった）だけが、支持できるような証拠を与える感知力に欠けていたにすぎない。

極端に用心深く保守的なバイキングチームは、生物学的な実験が火星の土中で行なわれるかもしれないが、未知の科学的な反応がプラスの結果を与える可能性を除外することはできなと言った。

化学物質を用いた実験室における数年の実験は、バイキング着陸船による土壌のテストの記録された結果を再現するのに失敗した。しかしNASAとしては火星に生命を発見したとは言いたくなかったのである。

その後NASAは、生命存在を立証するか反証するかについてバイキングの計画された実験が行なわれることは絶対に行得ないこと、その問題がまだ未解決であることなどを述べた。

しかしそのときまでには大衆の意識の中に否定的な印象がきわめて強く植えつけられていたので（きわめて効果的な心理作戦が検閲官側にあるとみな

していた、NASAの告白はかえりみられなかったのである。世界はNASAが火星の生命は存在しないし、また存在できないことを立証した」と信じているが、これは誤った信じ方であるばかりか、真実に対する完全な矛盾である。

私の意見としては、土壤実験は火星よりも地球の生命に関して多くのことを立証したと思う。私がこのように言うのは、人間のエゴ中心のものの見方が地球以外の他の世界の微生物を認めることさえ許さないことは、きわめて明白であるからだ。もし認めることができればそれはわれわれの文明に対する一大飛躍になるだろう。

しかし私や他の多くの人たちは、人類の全部が最終的に土の中の生命を認めるようになるまでじっとしている気持ちはない。とにかく微生物は興味ある問題ではないのだ。われわれは火星の文明や火星上の地球のような環境が存在する証拠を見たいのである。

われわれは、火星の運河がマリナー4号探査機によって早くも一九六五年に確実に写真に撮影されたことを聞いている。またわれわれはUFOから降りてきた火星人の話も聞いている。二十六カ月ごとの火星の衝(火星が地球に最も近いとき)でUFO目撃が実質的にふえることもUFO関係の雑誌や書物にかなり書かれている。火星に人間が住むことを示すバイキング探査機

のいかなる証拠がNASA検閲官の目をまのがれたのか？

火星のオリンパス山の濃密な白雲の群れ

火星には巨大な火山がある。その最大のもはオリンパス山で、タルシス平原に高くそびえている火山である。その高さは十五キロから二十七キロに及ぶことが測定され、マリナー9号以来ずつと撮影されてきた。

奇妙なことに、この火山は真実のカラー写真が公開された唯一の構造物である。一九八〇年三月、NASAはNASA-SP444として『火星の素顔』と題する写真集を発行した。その表紙にはオリンパス山のカラー写真が掲載されているのだが、写真集の中にはこの細密な写真について何も言及していないのだ。

この素晴らしい写真は33頁に写真2として掲載してある。広範囲な雲が、自然の大地の色を示す高い頂上を囲んでいるのが見られ、群葉の茂みが存在することをかすかにほのめかしている。しかしこんな高地に厚い雲があるのは徹底的大打撃である。これらは火星の大気が濃密で地表の気圧はわれわれが聞いてきたことよりもはるかに高いにちがいないことを立証しているのだ。たぶん百倍もの濃密さをもつものだろう。これは地球の海拔で千ミリバール

とすれば火星では七百ないし八百ミリバールになるだろう。

一九七六年六月にバイキング1号が初めて火星の軌道を回り始めたとき、NASAの一スポークスマンは新聞記者団に次のように語った。つまり宇宙探査機の探知により火星の気圧は地表に水を存在させるほどのものであることを発見したが、これは火星に関する初期の調査で可能性が信じられていなかったことだと。UPIの報道による右の声明はバイキングプロジェクトの地質学者で着陸地点チームの主任であるハル・マサースキー博士が出した。しかし実際の気圧値は全然発表されなかったのである。

一九六〇年代初頭にソ連のある有名な科学者がクリミアの天文台で火星の長い研究調査をやったことがある。その結果、地球からの観測によって見られる火星の赤い色は地表の色ではないという結果を残した。天体物理学者N・コズイレフ博士は分光器による多年の観測にもとづいて一九六二年四月にセンサーショナルな報告を発表した。それによると火星が赤く見えるのは、濃密な火星大気の上層部と太陽が相互作用を起こした結果であることを立証している。さらに測定した結果、火星の大気の密度は地球の大気の密度にきわめて近いことをこの科学者は確信したのである。

この研究は宇宙探査機が火星へ飛ん

でこの惑星を写真に撮るまでは確認され得なかった。これまであらゆる人が、一九七六年にバイキング1号によって撮影された「赤い惑星」の標準的な半球の写真を見てきた。それは33頁に写真4として掲載してある。この写真は種々の雑誌の記事中や科学雑誌、そしてもちろんあらゆる学校用教科書にも掲載されてきた。

だが実際にはこれは火星の本当の写真ではない。これはバイキングオービターが火星への旅の終わりに近づいた頃に、そのカメラに赤色フィルターをつけて撮った写真なのである。

先に述べたソ連の有名な科学者の研究は完全に正しかったのだ。本書は初めてその真相を示すことができる。そのバイキング探査機にはカラーのテレビカメラが積んであり、五十三万七千六百キロの距離から実際のとおり火星を撮影した。この写真は34頁に写真5として掲載してある。

火星はついにベールを脱がされた！本書に述べられた有力な証拠は、火星に知的文明をもつ人間が居住していると勇気をもって世界に語りかけたバイバル・ローウェル、スライファール博士、セドリツク・アリンガム、ジョージ・アダムスキーその他の人々を最後的には支持するだろう。コンピュータで処理した赤茶けた地面とピンクの空に見えるインチキなグレイ写真類は捨ててしまおうか、しまい込んでおいて



写真1 1976年7月、バイキング探査機が火星地表を撮影して地球へ送った最初の写真。空が青くみえる。



写真3 火星の北半球の厚い雲。地上に鮮明な影を投げかけている。



写真2 バイキング探査機が撮影した火星のオリンパス山の頂上付近を覆う白雲の群れと群葉。

ダニエル・ロス著「UFO'S and the Complete Evidence from Space」より。著作権は原著者所有。



写真4 一般に公表されている偽りの火星の写真。赤フィルターをつけて撮影したもの。

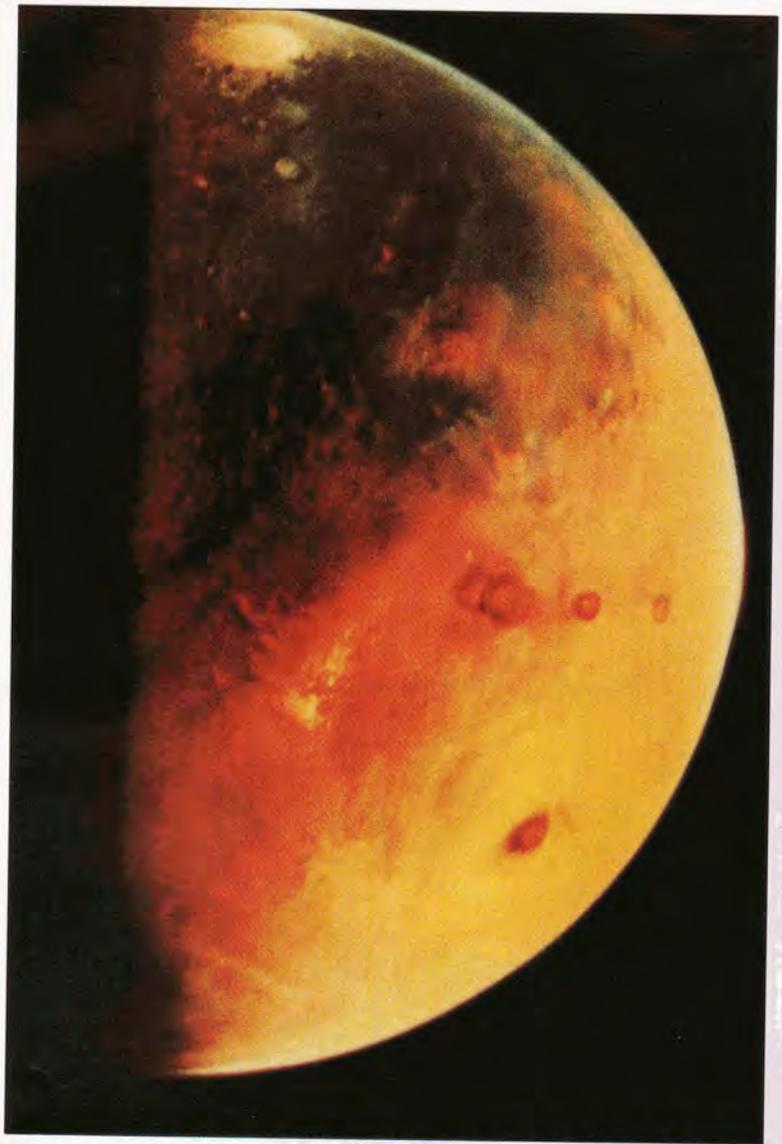


写真5 真実の色を示す火星。バイキング1号が火星への旅が終わる前に撮影したもの。537,600kmの位置からバイキング1号に搭載されたカラーテレビで撮影した。

よいものだ。これらはオーソドックス科学の頑迷な学説を補足し支持するために特別に作られたものである。

写真4で示されるように惑星間の距離から真実のカラー写真を撮るためにバイキング探査機が打ち上げられて以来、なぜあらゆる火星の写真がグレースでもって公開されたのか？ または非常に誇張した効果を出すようにカラー

フィルターをつけて撮ったのか？

この理由は明白である。本物のカラー写真は、運河やオアシスが光学写真の中で明示されるので、火星が地球に似た人間の住む世界であることを容易に洩らすからだ。

そうすると火星の気温、引力、大気の状態はどうなのだろうか？ 実際にはそれらの数値は地球の状態に酷似して

いることがわかるだろう。火星の気温は温和で、地球と同様に緯度と季節の変化にしたがって変わるものである。

引力と大気の密度は地球のその約八十分の一、八十五パーセントで、高地へ行くにしたがって次第に気圧は下がってくる。空気の差はほとんどないで、われわれの呼吸の適応性は急速に順応するだろう。

病気持ちのNASA

一九八一年十二月の「ニッカーボッカー・ニューズ」誌（ニューヨーク州オルバニー）に、次の標題で第一面に記事が出ている。「ソ連は火星にロケットを着陸させる準備を再開」。

われわれはこれに驚いてはならない。この記事の最後の行にはアメリカの国防省がコメントを書いたことを書いてある。これについても驚いてはいけない。ソ連は一九九二年に火星へ有人飛行を行なう計画中であることがつい最近確認されている。「地球製のUFO」の到着を火星人に秘密にすることはまず無理だろう。

私のNASAに対する見解は最近確認された。たまたま私は「元宇宙飛行士の素質」と題する興味深い本を読んだのである。この著者ブライアン・オリアリーは一九六〇年代にどんなふうにして自分がうまく宇宙飛行士になれたかを述べ、さらに自分の信念がNASAの真の姿と一致しなくなった後に退職した理由について語っている。彼はNASAが国防省と同じ性格すなわち病気を持っており、真実を無視して自分の有利を図る利己主義で、頑固で、特定の事業などを支配するための既得権を有する個人または団体に牛耳られていると非難している。未知の世界を探検するという広報活動のすべ

ての背後に、宇宙空間や月に人間を送り込むNASAの本当の目標は、決定的に軍国主義的な次元を持っていたのだ。しかも実はNASAの予算は直接に国防省にコントロールされており、それはいつもアメリカの年間軍事予算の小さな一部分だったのである。

『タイム、ライフ』は常に体制側の情報媒体とみなされてきた。オリアリーは著書の中で宇宙飛行に続く記者会見は『タイム、ライフ』の検閲者の用心深い目のもとで行なわれたと述べた。

言い替えば、彼らは大衆に宇宙空間の情報を提供することできびしくコントロールしていたのである。宇宙飛行士たちはいかなる異端者的な展望または価値ある漏洩などで口を出すこともできず、ただ冒険、神、国家などに関する感想をくり返すだけである。

この『タイム、ライフ』のNASAとの契約はきわめて秘密になっている問題である。そして近隣の惑星群への無人探査機を含む完全な宇宙開発プログラムを通じて、大衆はほとんど独占的な当局の声明やオースドックスな展望について知らされるが、これは多数の民衆が『タイム』誌や『ライフ』誌の宇宙に関する記事を読むならば、体制側の人気雑誌を読むことになるからだ。

この元宇宙飛行士は、新聞社が、宇宙飛行に続く数カ月間、科学界に対する宇宙写真の唯一の提供源であること

も洩らしている。これはきわめて意味深長だ。なぜならそれは政府が宇宙問題に関する基本的な提示法を確立するのに、どんなふうにしてマスコミを利用するかを説明しているからだ。この組織がどんなふう動くかを見ることにしよう。一例として火星へ行つたマリナー探査機を考えてみよう。

大衆をこまかく巧妙な手口

この探査機が火星へ到達してから数日以内に、国家安全保障局は予備のデータと、探査機から受けとつた初期の写真類を再吟味する。権威者によって注意深くふるいにかけた後、安全な取るに足りないデータがNASA当局の手に残る。続いてNASAは探査機から来た一ダースばかりの宇宙写真を、探査機による「探査結果」だという予備のデータとともに、記者会見でマスコミへ渡すのである。

この情報は新聞社の打電で流れて行き、続いて記事が毎日の新聞に書かれ、そして通常は夕方のテレビニュースの短いスポットが、このNASAが行なつた「最新の歴史的な」宇宙探査を賞賛するのである。

公開される探査機写真のどれも、期待されていた事柄以外の物事を洩らさないようなものばかりで、自分の見る物に心配する必要のない新聞または雑誌の科学記者は、火星に関する普通の

オースドックスな学説を焼き直した記事を書く。最新の写真と「当局のデータ」であるから、そのすべてはひどく権威があるように見える。大衆は、二週間以内に『タイム』または『ライフ』誌に出た最近の宇宙探査機の要領よく書かれた記事を読む。そしてまもなく、すべては忘れられてしまうのである。

しかし科学界はその決まりきつたやり方をちよūd始めたばかりである。忘れてならないのは、オリアリーが新聞社こそ宇宙探査機に続く数カ月間、科学界に対する宇宙写真の唯一の提供源であると述べている点だ。一般に公開されてきたこの取るに足りぬデータによって、権威者たちは自分たちのあいだで表面的な相違やつまらぬ事を取り上げて論じたりし、それが科学雑誌でほう大な理論づけにされるのだ。とくとしてこの回りくどい理論づけは、通俗家庭雑誌で科学文筆家によって大衆の読書欲消費に縮小されることがある。その頃までには火星に関する科学者間の学説や独断的な考え方が確立されてしまうのである。

NASAと米政府は、生命のない太陽系という一般的な考え方をマスコミや科学界に確立させる(信じ込ませる)ことによつて、大衆を教化することからうまく自分たちを遠ざけてきた。もちろん国家安全保障局とNASAは、宇宙探査期間中の絶えまのない開発作業から送られるデータを慎重にふるい

分けるが、あとでNASAからこぼれて出るかもしれないような何かの付随的または小さな漏洩も、既成の考え方に對して少しもこたえないだろう。その考え方はそれまでに大衆の意識や科学界で固まっているからだ。

宇宙に関する真相を公開するのに、ほとんど勝目のない強敵をむこうに回して一点はリードしている。本書だけでも、論じられているほとんどあらゆる点で意見の異なる数千の書物、雑誌、報告書に對して對抗しているのである。これは、これらの著者たちが宇宙科学とUFO存在の証拠の関連を全然理解しておらず、当局を通じて出てくる宇宙科学の発見事にひそむ本當の矛盾点を探求しなかつたからだ。

「元宇宙飛行士の素質」の中で最も重要な事を洩らしているのは、ほとんどの人が知らない、ある有人宇宙飛行についてブライアン・オリアリーが短く言及している部分である。

宇宙開発が秘密裡に進行中

われわれは皆、ソ連やアメリカの公開宇宙開発について知っているが、実は第三番目の有人宇宙飛行計画があるのだ。それは米空軍の計画で、オリアリーは極秘になっていると言ひ、他の二件と同じように野心的なものだという。宇宙飛行士たる彼もそれについてはほとんど知らなかつたが、これは軍

に与えられた秘密の保護下で進行しているからだ。彼はさらに、空軍の宇宙開発計画はNASAの持つプロジェクトの可能性のすべてを持つており、空軍自体の軍人宇宙飛行士をかかえていると言っている。

オリアリーは言及していないけれども、われわれが聞いているよりも、もっと多くの宇宙探査機が火星へ行った可能性は充分にある。空軍の宇宙飛行士が完全に秘密に月へ打ち上げられているかもしれない。これは推測にすぎないが、もしやつたとすれば彼らが月の裏側に着陸したことは充分にあり得ることだ。そうなれば六機のアポロ宇宙船が着陸した比較的荒涼たるこちら側よりもはるかに興味深いだろう。

以下はカリフォルニア州ウォールナットクリークの「コントラ・コスタ・タイムズ」紙の一九八四年四月十五日付に載った記事である。

「秘密のペイロード、軌道に乗る
フロリダ州ケープカナベラル(A.P.)
空軍のタイタン3Dロケットが、ケ
ープカナベラル空軍基地から、土曜日、
東部標準時間午前十一時五十二分に、
秘密のペイロード(搭乗員と観測機器)
を打ち上げたとスポーツスマンが発表
した。

打ち上げについて事前の警告は出されなかつたし、発射から三十分後にアナウンスされただけで、ペイロードの性質に関するコメントもなかつた。

「それは機密の打ち上げで、機密のペイロードだ」と空軍スポーツスマンのディック・カストルツチが言った。

タイタン3Dは以前に空軍が秘密のペイロードで用いたタイタン3C以上に強力である」

こうして秘密の宇宙開発は行なわれている。空軍は月へ人間を打ち上げたサターン5ほどに強力なロケットを用いていたのだ。機密のペイロードとは何なのか。人間の乗ったカプセルか？火星に向かった大型の探査機か？この宇宙飛行は機密なので、先の確認にたいして考えられる理由は、打ち上げがあまりに壮観であつたために、こっそりと上昇できなかったということだ。それでケープカナベラルは新聞社から電話を受けたのである。

この秘密の宇宙開発計画をだれがコントロールしているのか？何の目的で？この資金供給はアメリカのほう大な国防予算のもとに都合よく隠されている。そしてあらゆる物事が機密扱いだから公然と知られるものはない。

国防予算のもとで特別出資される空軍宇宙開発計画にともなつて多くの物事が極秘で達成できる。それを支配している政府の機密機関以外にはだれにもわからない。完全に検閲されない詳細な惑星調査が、NASAの公表された宇宙開発よりも数年前に達成されていたのかもしれない。以下はこのことが妥当な主張であることを示唆している。

地球へ接近しない他の太陽系の宇宙船

一九六九年、空軍は宇宙科学に関するテキストを発行したが、これはコロラド州スプリングズ空軍訓練学校における学校用のみに制限されていた。このテキストの中に、UFO問題に関してドナルド・G・カーペンター大佐が書いた十四頁から成る一章があつた。慎重な言葉使いによる文章の中で、UFOは数千年間地球を訪問してきたと述べてあり、しかも次のように書いてあつた。

「それはわが太陽系内の多数の惑星に知的生命が存在する意味を含むものである。または他の太陽系(複数)の惑星群による、地球に対する驚くほどに強い関心をも意味する」

学生たちはUFO問題に対して広い心を保つようにアドバイスされたのだ。他の太陽系(複数)という部分は次の理由で割り引きして考えてよい。

国家安全のための機密を扱う問題に関して官憲の立場を提示するときは、常に客観的な、有利にも不利にもとれる曖昧な解答を与える傾向があるが、これは一つの解答が絶対的事実として定義されないようにするためである。

「これは、いや、たぶん、あれは」というのは確証できない推測として頭をチラと浮かぶことであつて行なわれている示唆に対して混乱した要素を残す。

しかしこれは当局筋が立場の明らかな声明を出さないようにするための意図的なものなのだ。政府がわが太陽系について生命がないという考え方を公式に提示する場合、地球外から来る宇宙船の問題に関しては特にそうである。

しかし次の論説は状況を充分に説明している。地球で原子兵器が開発された直後、地球に近隣の惑星群から宇宙船群がやって来た。少数の宇宙船は地球大気の不自然な状態に遭遇してから墜落したけれども、実際は地球人側の攻撃的な行為によつて起こつた墜落事件がもつたあつたのだ。

数年間、軍は基地付近に目撃されたUFOを撃ち落とすために、ジェット機にスクランブルをかけさせる公式の命令を出していた。ところが一九五四年になつて初めてアイゼンハワー大統領がこれらの服務規定を取り消したのだが、これはUFOが地球人に対して敵対的なデモをやつていたのでないということが公式に認められたからである。

しかしそれまでに少数のUFOが破壊され、乗員は死んだ。この理由で、わが太陽系の惑星間訪問者たちは、他の太陽系(複数)から来る客船を地球に接近させないようにしていることをアダムスキーは知つたのである。したがつて他の太陽系の住民は手に負えない惑星(地球)の傲慢さと敵意に遭遇する必要はないだろう。



▲ダニエル・ロス氏夫妻を囲む日本GAP旅行団。1987年8月、米ロサンゼルスにて。



▲昭和53年8月17日、日本GAP会員を主体にした「エジプト・ヨーロッパの旅」で、フランスのルールドから列車でパリへ帰ったとき、オステルリッツ駅で高橋和美さん(埼玉県・故人)が撮影した写真の中央上部の空中に奇妙な物体が写っていた。中央は添乗の田中正氏。

地球はこの太陽系中で戦争が存在する唯一の惑星である。そこには所有欲、食欲、利己主義、個人的な生活態度などもある。進歩した宇宙の文明の人たちは、地球人の反逆的な性質に出くわして何を得たり学んだりできるだろう。われわれが自分たちの攻撃性や傲慢

さをやわらげて、われわれ自身の太陽系の全包容的な生命の一部にすすんでなることを学ぶまでは、別な太陽系のUFOは見られないだろう。
(第五章完。以下次号)
へ文中の傍点は原書中のイタリック体の部分を示す

第9回 仙台 合同支部大会

●昭和六十三年五月三日(日)
●仙台市 仙台市農協会館
●出席者 三十九名

今回の合同支部大会は九回目だが、最初仙台が単独で二回ほど大会を開いているので通算十一回目になる。夢中でやっていた初期の頃を思い出すと感慨深いものがある。しかし年月の経過とともにますますア哲学とGAP活動の重要性を感じている。

五月二日夕刻、会長・久保田八郎先生を山形支部代表・柴田光明氏と仙台駅でお迎えする。ワシントンホテルにチェックイン後、市内の郷土料理屋で三人で打ち合わせをする。ある非常に興味深い話を先生からうかがって楽しい一夕をすごした。

あくれば五月三日、憲法記念日、仙台市農協会館で大会が開催された。この日の午前中、千葉市から来た遠藤昭則氏が市内上空でUFOを二十分間も目撃されたという報告に背筋に電気が走るような感動を覚え、大会を見守って下さっている宇宙の偉大な方々にたいなる感謝の念が湧き起こった。久保田先生も前日下仙中の新幹線の窓から不思議な直線状の白い物体を目撃されたという。

柴田文字さんの司会で「UFO問題と偉大なア哲学」と題する先生の御講



演は圧巻であった。心を空白にして宇宙的印象を得ることの重要性を強調。久保田先生の宇宙的なお話はいづかがつても力強い。柴田さんが「いざれ先生の活動が人類史上に燦然と輝く日がくるでしょう」と紹介したが大きくうなづいた次第。

大会終了後は恒例の夕食会、翌四日は三十二名で秋保城跡公園その他を観光して楽しい一日をすごした。ご指導頂いた久保田先生とご出席下さった皆様に心から感謝します。(笠原弘可)

第2回 秋田 青森 合同支部大会

●昭和六十三年六月五日(日)
●秋田市 アキタパークホテル
●出席者 三十三名

新緑萌える秋田市を会場に久方ぶりに合同支部大会が開催された。前日ひどい濃霧の秋田空港に久保田先生が奇跡的に着陸されたことに何かを予感させる大会の幕開けとなった。当日天候に恵まれなかったが会場の椅子が不足するほどの大盛況だった。

熱気あふれる中、菅原正人氏のジョークをまじえた軽妙な司会で大会が始まった。両支部代表の挨拶の跡、地元会員の坂本茂子氏による「UFOとの出会い」と題する講演があった。新入社員にUFOを目撃させるように指導した体験その他で参加者を魅了した。休憩後、先生による「アダムスキー哲学の生かし方」のご講演があり、熱気は最高潮に達した。冒頭、先生の家系のルーツが秋田市であるらしいとの発言に一同驚かされた。「万物は自分自身であり、自分は万物である」とのフ

ィーリングを持ち、住みやすい環境作りに努力すること。あらゆる物質は生き物であり意識体であるというフィーリングを宇宙全体にまで拡大させること。ミラクルワードを実行すれば思いどおりの素晴らしい人生が送れると結ばれて一同深い感銘を受け、アダムス



キー哲学実践の意義の深さをあらためて感じさせられた。

夕食会では和気あいあいたる雰囲気のもとに親交を深めた。プロの佐藤春雄氏の秋田民謡、支部会員四名によるプロ級の演奏は大喝采を博した。

翌日は晴天下を大勢で仁別国民の森へ行き、森林浴で心身をリフレッシュさせて本庄芳則氏のお母さん手作りキリタンポに舌鼓を打ったが、そのあと空中に不思議な直線の虹が出現した。皆様に深く感謝いたします。(伊藤正治)



●秋田市上空の不思議な色光!

去る6月6日(秋田・青森合同支部大会の翌日)、大会参加者のうち24名で秋田市中心部より25km上流、仁別(にべつ)国民の森へドライブし、河原でパーティを開催。陽光に映える新緑の透明な輝きと清澄な溪流の燦然たるきらめきに歓声をあげながら秋田名物キリタンポを賞味しつつ談論風発、大自然の生命の息吹を実感するうち、午後1:30頃、突然西南の碧空に虹に似た横一直線の不思議な色光が出現、一同騒然として凝視した。快晴の空中に直線の虹とは前代未聞であり、赤・黄・青を主体にした巨大な色光は奇怪としか言いようがなく、しかも断続的に脈動する光を見た人もあった。後日、春川正一氏に上の写真を見せたところ、これは別な惑星から来た大母船が斜め(左上隅から右下隅の対角線方向)の姿勢で断続的にレポートしながら移動して行った跡で、色光は目撃したグループに対する何かのサインであろうという。祝福のサインだろうか。(撮影=松村芳之/ニコンFE2/ニッコール180mm/フジカラー100)

投稿欄

ユニコン広場



本誌回号から新しい波動

秋田県 本庄芳則

秋田は桜前線の最中で、あちこちの桜が満開になって、人々に笑いと充実した自然を語りかけているような気がします。東京の方々はお元気で過ごしてでしょうか。

さてUコン10号を拝見しましたが、カラーもさることながら以前より一変してしまい、久保田先生の大変な熱意に感動しています。とにかく表紙デザインがとてに気に入って、自分の趣味であるデザインと似ているものから、このデザインだけでもものすごく波動が伝わってきます。これからもよろしく願います。

素晴しい回号に感動

沖縄県 新里義雄

Uコン10号の発送も終えられて一息ついておられる頃でしょうか。こちらには四月二十二日に届きました。ありがとうございます。カラーがうまい具合に取り入れられて一段と輝きが増しておりますことに驚いてしまいました。とつきやさすがが感じられて一般読者へのインパクトが楽しみです。

見栄えの素晴らしさもさることながら、掲載記事と当読者の方々にはなんとも高貴な魂をかいま見る思いです。執筆者のみんながGAP会員であることがまことに嬉しい。なかでも坂本茂子さんの手記「宇

宙的家族のUFO目撃の日々」には特に感動致しました。手記の終りに「もって時間がかかるかもしれませんが、転生する前に金星に住みたい」と思っている人たちがみんな集まって暮らせる場所ができれば、まじめに考えています……私たちがみんなの想念がととのえば……」とおっしゃるあたりを目を通す段に至りました。今も過去も何度似たような事を考えただろう。(中略)

本土に移住して皆様と共に活動したり哲学の研鑽にはげむことは、初めてアダムスキーの書物を手にして以来の念願です。ご理解下さいますようお願い申し上げます。

巨大な黒いUFOが接近

東京 前田憲一郎

私は今年から日本GAPの会員に加えていただきました。先日の五月月例会が東京での二度目の出席であります。今後共よろしく御指導の程お願い申し上げます。

二月の東京月例会で初参加の御挨拶でも申し上げましたが、長年思議に思っていた事の解明の糸口がアダムスキー全集でありました。それは私のUFOとの出会いの事でありますが、記憶をたどってみたいと思います。

昭和四十六年か四十七年のどちらかの夏の夕方七時から八時までの間、私は京都の壬生寺の西側あたりに独

身生活をしてきた家の二階からふと東山の方を見て、黒い一点の物に目が吸い寄せられました。その点が次第に近づいて来るので低空飛行の飛行機かなと思っていたのですが、私の家の方へ接近して真上に来た時には視野のほとんどがUFOでした。

そのUFOは円盤型ではなく、正方形の薄型ピラミッドのようなものでした。底辺の一边が約千メートルはあったと思います。そんなバカでかい飛行機は米ソでも建造できないはずですし、第一無音だったものだから完全にUFOだと思ひ、頭上に来たときはあわてて引込んで柱のかけに身を隠し、膝がガクガクするのを見えまじりました。色は真っ黒です。明らかにそれは未知の物への知識不足による不安と一種の恐怖であったのでしよう。

甲府のある会社の専務のピラミッド型の工場を建てて欲しいという依頼があった、その時点から神秘的な事柄へ本格的に取り組み始め、最後に行き着いたのがアダムスキー全集であったわけですね。今回単身赴任で来たには、見えぬ糸に引張られて日本GAPに入会するためであったのではないかと因縁を感じます。

オーラ透視能力が出てきた

若手県 芳賀弘子

先日は売れ残りUコンを送って頂き、ありがとうございます。私の予想以上に欲しい方が出てきてとても嬉しい思いをしています。当初の考えでは一人ぐらいい連絡が来ないのではと思っていましたが、土曜日の夕刊に私が出した広告が掲載され、月曜日にはなんと三人の方より

ハガキが来ていました。木曜日までに全部で十一人の方よりハガキが来ました。そして私にも変化が起きました。

月曜日に最初のハガキを頂いて、もう飛び上らんばかりに嬉しくなつてとても幸福な気持ちでした。その夜さっそく高揚した気分です。Uコンを送る準備をして、いつもの手を見つめる練習をしようと思つて、今までになく立ちオーラと思われるものが手から立ちのぼっていました。線香花火みたいな細長い針のような光るものが手からものすごく湧いて出てくるのです。「わーっ、すごい」と思ひ、心臓がドキドキしてきました。アダムスキー全集の青い表紙を見ると、それ以上光るものも出てくるのです。出てくるのです。そして周囲を見ると光るものが見えるのですが、煙みたいなものがモウモウと立ちのぼっていました。

この状態は三日間続いてあととは以前の状態に戻ってしまいました。寝不足と想念の状態が良くなかったためにいつきに元に戻ったようです。いかに想念の状態が大切な身をもつて感じた次第です。私は出来る範囲でのGAP活動に協力します。

月例会場で二人の時計が止まる

浦和市 清水 正

私が神奈川県支部代表となつて初めての月例会が五月でした。川崎の労働会館は大変きれいで素晴らしい会場です。まわりの環境もこのつています。たいていの人がこの会場にいられて満足されるのも納得できます。この日は副代表の元井さんと、

先月も来られた新宿の有坂さんも見え、他には横浜の女性で深見さん、それにいつも熱心な石田さんの計五名でした。

久保田先生の「テレバシー開発法」解説講義の録音テープを聞いてから、皆さんの感想を話して頂き、そのあと封筒に入れた物品の透視練習とESPカードを用いたテレバシー練習を行いました。

ここで不思議な事件が起こりました。私がテレバシー練習中に腕時計を見て、しばらくしてまた腕時計を見ると時間が進んでいないのです。あまり気にせずに話し合いを続けているうちに五時のチャイムが鳴ったので、ふと腕時計を見ると四時三十六分で止まっています。あれ時計が止まっているの？と言いますと、向かい側の窓際にいる有坂さんの腕時計も止まっていることがわかりました。その時刻も四時三十六分です。二人は同じ窓側でしたが他に共通するものはありません。原因を考えてみますと次の二つのうち一つは間違いないものと思います。一つは会場内でテレバシー練習が行なわれていたため、想念波動が時計に影響を及ぼした。もう一つは上空のスペース・ビーブルからの影響です。

Uコンを読んで動かすべくなる

長野県 徳竹宏樹

自分がUコンと出会ったのは高三の十一月頃でした。学校の図書館に雑誌のコナーがあって、そこにUコン96号があったのです。自分は小学校四年のときのUFOブームからずっと興味があったので、もうこれしかないと思つてバックナンバーを

96号から100号まで集めました。それ
それ読みごたえのあるものばかりで
感動の連続でした。そしてもっと驚
いたことに自分の学校の中村公一先
生がGAPの会員で、長野支部大会
で司会をやっていたのにはビックリ
しました。先生は授業中に宇宙の事
をいろんな方法で話してくれたこと
を覚えています。

Uコンを読み続けていると勘がす
るどくなってきたように思います。
自分はこれからもっといろいろな事
を知りたいと思っています。最近
はアダムスキー氏の「宇宙からの訪問
者」を注文しました。とにかくUF
Oのことかテレパシーの事が知り
たい十八歳です。GAP活動、がん
ばって下さい。自分も活動します。

高松支部結成を目指して

高松市 関 高明

新緑したたる好季節となりました
が、いかがお過ごしですか。先日受
け取りましたUコン10号を拝見し、
驚きました。すばらしいカラー印刷
で、カラーの写真も鮮明でした。ま
た内容も興味深いものが多く、特に
「宇宙の家族のUFO目撃の日々」
は感動もので、大いに元気づけられ
ました。ありがとうございます。
これからも創意と工夫に満ちたUコ
ンをお作り下さい。

当方、ようやく営業の仕事にも慣
れ、元気に暮らしております。東京
から高松に転動してからはOA機器
の販売を担当することになり、仕事
上、当社のパソコンを購入しました。
昨年の十月に当地へ転動してから
GAP活動の情報はUコンと東京月
例会の先生の解説講義のテープから

得るのみでして、やはり地方になる
とずいぶん情報量が減るものですね。
GAP活動も日本全国で展開されつ
つあり、最近では鹿児島に薩摩会と
いう準支部が誕生したということ
御同慶のいたりです。

先生の御書簡の中で高松を拠点と
して活動を展開してはどうかとい
う指導をいただきました。誠にあり
うございまして。まずはUコン10
号を高松と丸亀、坂出の書店に卸さ
せていただき(本件実施済)、その
後、先生が紹介して下さいた香川県
内のGAP会員に呼びかけて高松支
部を作りたいと考えていますので御
了承を頂きたいと存じます。他にい
ろいろ御相談したいことがございま
すが、またの機会をみてお便りをさ
しあげたいと思います。今後とも先
生の御指導のもとに活動を展開し
てまいりたいと思っておりますのでよ
ろしくお願い致します。

「宇宙哲学」解説テープに感動

茨城県 菊地昌保

時下ますますご清栄のこととお慶
び申し上げます。いつもお元気でご
活躍のこと何よりと存じ上げます。
私は先生の東京月例会のご講義を
テープで通勤の途中、車中ではとん
ど毎日くり返し拝聴いたしておいま
す。すると、とたんに元気が出てま
います。本年五月の「宇宙哲学」
での講義は大変よく勉強にもなり、
また感激いたしました。特に人間を
含めた宇宙の万物はそれぞれ進化の
過程にあり、それがいかなるレベル
にあるか、それがいかなるよの
だとする真理を拝聴いたしました、
大悟とまではいきませんが、目の前

が大きく開けた感じでした。人を憎む
な、恨むな、妬むなと言われましま
も、この真理の理解(サトリ)が得
られなければ永久に至難のわざであ
りましょう。先生、本当にありがと
うございました。今後とも私たちが
ご教導下さいませよう切望いたしま
す。

確信は実現させる力

千葉県 林 陽

先立つてはダニエル・ロスの御
本をお送り下さいまして有難うござ
いしました。とても科学的な本で、十
分な裏づけがされており、興味深く
思いました。この方は本当はコンタ
クト体験をされているのではないか
そんな気にさせる文章です。

さて私は今、十一月出版の「奇跡
のエドガー・ケイシー療法」のつめ
で追われております。今年で四冊目
ですが、今回はハードカバーではな
く、ペーパーバックで出版される模
様です。一年に四冊も翻訳を頼まれ
死にそうでしたが、何とか終えまし
た。これは出来次第一冊贈呈させて
頂きます。

実際、私がこのような翻訳の仕事
に手を取られるようになりました
のも、実はむかし先生が出しておら
れた「コズモ」誌時代にアルバイト
させて頂き、その時にイギリスのフ
ライング・ソーサー・レビュー誌の
記事を翻訳させて頂いた時の体験が
基礎になっております。あの頃は毎
日図書館に通つては翻訳しておいま
した。本当につかしい新鮮な思い
出が今もよみがえってきます。

その後、軌道に若干のズレを起こ
してからも、先生が電車の中で言っ

て下さった「あなたは立派な翻訳者
になれる」という言葉が何か確信の
ように心の奥底に根を張つてしま
い、ともかく人の啓蒙になるような翻訳
をしようと思つたのです。私の今
の影響は先生からの影響が大でした。
確信というのはケイシーもたびた
び語る言葉ですが、本当に実現させ
る力を持つていると思います。私は
翻訳中、いつも原書と一体になるよ
うに著者の意識と一体になるよう自

62年度日本GAP海外研修旅行

「アメリカ・メキシコの旅」に参加して(3)

旅をして自分を知る

埼玉県 樽谷杉雄

一人旅の多い私ですが、今回は団
体旅行ということで皆さんとうまく
やっていけるかということが一番心
配でした。私にとつて人と接するこ
とが最も苦手なのですが、これがま
た大切なレッスンなのだと思います。
パロマー・ガーデンズでアダムス
キー氏の建てた小屋の跡をゆつぐら
見渡した後、近くの木に触れながら
しばらく目を閉じていました。アダ
ムスキー氏が多くの人達とここで暮
らし、宇宙哲学を教えているところ
を想像すると嬉しくなりました。こ
こでダニエル・ロス夫妻と全員で別
れの握手をしました。私はこのとき
その目を見て感動しました。こんな
に素晴らしい人がアダムスキー氏を
支持していただいている。それにひき
かえ私はまだ本当に信じてはいなか
ったのだということに気づかされま
した。ロスさんにはこれからもっと

分に言いきかせます。すると出来な
いと思つていた難解な箇所もわかっ
てくるから不思議です。ケイシーの
慣用語の一つに「心は建設者」とい
うのがあり、心の持つ力をフルに使
うように説いています。アダムスキ
ーも想念の使い方の大切さをよく説
いていましたが、これに通ずると思
います。今後ともよろしくお願い申
上げます(筆者はケイシー研究
家)。

頑張ってもらいたいと思います。
メキシコの太陽のピラミッドに登
つたとき、以前にここに来たという
印象がありました。でも寂しい感じ
はムー大陸をとむらうために建てら
れたということで、ノートに写して
おいたムーの「聖なる靈感の書」の
一節を神殿の石段に腰かけて読んで
いました。

「人の心の中に寺院がある。神をあ
がめるに充分な寺院がある。心静か
に瞑想し、愛するに完全な寺院があ
る。すべての時と所に寺院がある。
人が天の父と一つになることのでき
る寺院がある」

こんな素晴らしい教えを持つてい
た国がどうして沈んでしまったのか
と思いつつ、展示室の顔の形の石板
などをみていると、はるか昔のこと
が非常に悲しく思えてなりませんで
した。

アクマルの青い海と空、白い砂浜
は、遺跡やジャングルばかりを眺め



●講演テーマ

「ジョージ・アダムスキーの思い出と宇宙哲学」

アリス・ポマロイ女史大講演

▼アダムスキーの墓のそばにたたずむポマロイ女史 (ワシントン市アーリントン墓地。撮影=久保田八郎)





Uコン100号達成記念/アリス・ポマロイ女史招待

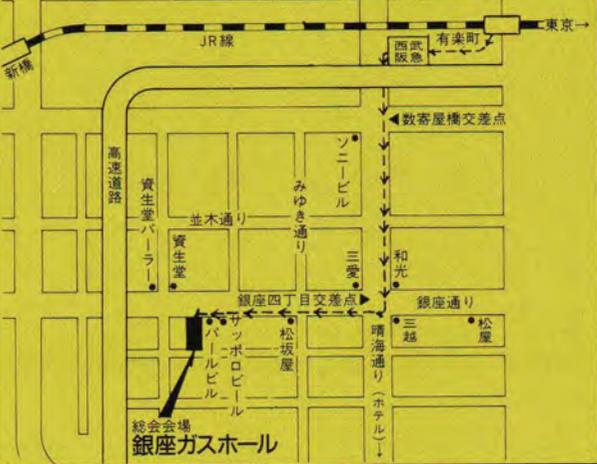
63年度 日本GAP総会

会員の皆様には日頃多大なご支援にあずかりまして厚く御礼を申し上げます。今年度総会はアダムスキーの高弟として唯一の現存者であるアリス・ポマロイ女史を招待して大講演会を開催することになりました。女史に関してはアダムスキー全集第7巻で紹介ですが、来日は最初で、しかも今回限りであろうと思われるから、この機会をのがさずに多数ご来場の上、アダムスキーより直接薫陶を受けた女史から貴重なお話をお聞き下さい。出席者全員で女史を大歓迎し、心あたたまる宇宙的フィーリングに満ちた素晴らしい1日をすごそうではありませんか。東京本部役員一同、万全の態勢を以て、あたたかくお迎えいたします。 日本GAP東京本部役員代表 篠 芳 史

	総 会	大 晩 餐 会	東京ディズニーランド観光
日時	9月25日(日) 午後1:00→5:30	9月25日(日) 午後6:45→9:30	9月26日(月) 午前9:00ホテル浦島を出発
会場	「銀座ガスホール」7Fホール 東京都中央区銀座7丁目9番15号 ☎(03)573-1871 JR有楽町駅の銀座側下車。駅を背にして右方へ歩き、西武デパートと阪急デパートの間の筒抜け(マリオン)を通り抜けて有楽町の大通りへ出る。銀座方面へ徒歩約3分、三越デパート前の十字路を右折し、銀座中央通りを8丁目の方向へ約250m歩くと、左側に「銀座ガスホール」がある(ヤマハ楽器店の左隣)。入口より奥へ行き、エレベーターで7Fへ上がる。有楽町駅より徒歩約10分。	「ホテル浦島」2F大ホール「虹の間」 東京都中央区晴海(はるみ)2丁目5番23号 ☎(03)533-5331 銀座4丁目の交差点から晴海行きバスに乗車約10分、徒歩40分、タクシー10分。 ☒注意 晩餐会開始前6:45分より会場にて出席者全員でアリス・ポマロイ夫人を囲んで記念写真を撮影しますので時間厳守の上ご参集下さい。記念写真撮影を終了後、7:00より晩餐会を始めます。	貸切りバスを利用すると割高になりますので、ホテル前より都営バス(¥160)で東京駅へ行き、ここから地下鉄東西線で浦安駅まで行き(¥200)、さらにバスで(¥200)ランドへ直行します。ディズニーランド内は広大な敷地に沢山の遊戯施設がありますので団体行動は困難ですから、少人数のグループ別に周遊します。退園は各自の時間の都合にあわせて自由に出て下さい。 ※お子様づれ大歓迎!
会費	¥5,800(会場受付でご納入下さい。大晩餐会の申込をされた方はその代金も併せてご納入下さい。晩餐会時の記念写真希望者は¥1,200(送料共)を別途ご納入下さい。六ツ切カレー)	¥8,000(晩餐会の申込済の方は受付でチケットをお見せ下さい。未払いの方は受付でご納入下さい。)	入園利用料は「バスポート」(1日限り、各施設乗り放題)が、大人¥4,200、中学生¥3,800、小学生まで¥2,900/「ビッグテン」(10箇所のみ利用可能)大人¥3,900、中学生¥3,500、小学生まで¥2,600。
プログラム	1:00 司会者挨拶 篠 芳 史 1:05 挨拶 日本GAP会長・久保田八郎 1:20 講演 「アダムスキーの思い出と宇宙哲学」 アリス・ポマロイ女史 (通訳=久保田八郎) ↓ 3:30 <休憩> 3:50 質疑応答 アリス・ポマロイ女史 (通訳=坂本茂子) ↓ 5:00 <休憩> 5:10 Uコン100号発行のお祝いと アリス・ポマロイ女史 歓迎 ↓ 5:30 閉会 ☒注意 ポマロイ女史講演のテープ録音とストロブ付き写真撮影は可なるも、講演と質疑応答の内容一切の著作権は日本GAPに帰属しますのでUコン以外の刊行物には掲載できません。	6:45 会場にて全員記念写真撮影 7:00 会長挨拶、ポマロイ女史挨拶 (通訳=坂本茂子) 7:10 乾杯音頭 田中 正 (東京本部役員) 祝宴、演芸 9:30 閉会 ※演芸はすべてGAP会員のプロ級芸達者が出演。佐藤春雄(秋田)=秋田民謡(津軽三味線と太鼓の伴奏付)/知念八代子(沖縄)=琉球舞踊/フォーク楽団「小さな金星」(秋田)/ロックバンド「スカウトシップ」(東京)等の豪華版。時間の都合により飛び入り出演はお断り致します。	※総会当日は銀座中央通りは歩行者天国となり、自動車は通行止めになりますが、「ホテル浦島」方面の晴海通りは自動車が走ります。 ※大晩餐会に出席される方は、ある程度きちんとした服装でご出席下さい。祝宴の際中にポマロイ女史に質問をあげることは極力ご遠慮願います。 ※総会の入場料は昨年度よりもアップしましたが、これはポマロイ女史の米東部より日本までの往復渡航費、日本滞在費、謝礼などを出席者全員で均等に拠出する金額が含まれています。ご了解下さい。

申 込

9月25日夜の大晩餐会、26日の東京ディズニーランド観光、宿舎希望の方は下記の要領でお申込下さい。
 ●大晩餐会=ハガキに「晩餐会出席申込」と記して下記の申込先へ9月23日までに(必着)お申込下さい。
 ●ディズニー=9月23日までにハガキで下記へお申込下さい。
 ●宿 舎=「ホテル浦島」をあっせんします(晩餐会場と同じホテル)。
 東京都中央区晴海(はるみ)2-5-23
 シングル ¥6,000 (60室予約済)
 ツイン ¥11,000 (20室)
 希望者はハガキに ①宿泊日 ②シングル・ツインの別 ③住所・氏名・電話番号を明記して下記へ9月20日までにお申込下さい。
 ■申 込 先=上記の申込はすべて下記へ。
 〒150 東京都渋谷区東3-24-9
 サンイーストビル2F
 ワールドセプトラベル株
 田中 正(宛) ☎(03)499-2461
 夜間は田中自宅の(0474)77-4728



本誌バックナンバー掲載記事目録

*印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛ご送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。No.83以前の古い号も若干あります。お問い合わせ下さい。

No.101 昭和63年4月25日発行 ¥900

宇宙の家族のUFO目撃の日々——坂本茂子
精神的指導者に対する警告——G.アダムスキー
円盤の窓から手を振る“異星人”——齊藤庄一
長野県に出現したUFOの大群——博田文喜
頻繁なUFO目撃と超能力体験——佐々木八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠④——ダニエル・ロス

No.100 昭和63年1月25日発行 ¥900

UFO問題とアダムスキー——久保田八郎
富士山二合目から目撃したUFO——遠藤昭則
私はこうして超能力を開発した——坂本正廣
アメリカの不思議な土地——水野和彦
UFO-宇宙からの完全な証拠③——ダニエル・ロス

No.99 昭和62年10月25日発行 ¥700

UFO-宇宙からの完全な証拠②——ダニエル・ロス
山中湖畔で空中を飛んだ自動車/——清水 南
富士山にUFOが大挙出現——清水敏恵
(写真)大分市上空のUFO——久保田八郎
アダムスキーの大地とマヤの国へ——久保田八郎

No.98 昭和62年7月20日発行 ¥700

木星の衛星イオに古代都市跡を発見/
UFO-宇宙からの完全な証拠①——ダニエル・ロス
静岡市上空にUFO頻繁に出現——遠藤昭則
太陽系惑星にまだ仲間がいる?
連夜のテレバシー送信に応じて出現した円盤——片岡 豊
万物の実体と想念の重要性——知念清邦
私は別な惑星へ行って来た/(最終回)——春川正一

No.97 昭和62年4月20日発行 ¥700

驚異の“生命の科学”と円盤大接近——伊藤達夫
八王子市でUFOを撮影——降旗和彦
別な惑星の偉大な人類と文明——G.アダムスキー
私は別な惑星へ行って来た/④——春川正一

No.96 昭和62年1月20日発行 ¥700

私のオーラ透視とテレバシー現象——清水 南
京都市上空にUFO5回出現——久保田八郎
想念放射、透視、UFO目撃——遠藤昭則
UFOと心霊は無関係——G.アダムスキー
私は別な惑星へ行って来た/③——春川正一

No.95 昭和61年10月20日発行 ¥700

茨城県千代田村のUFO——日本GAP茨城支部
アダムスキー問題に対する考察——内田格男
私のUFO目撃と不思議な体験——中嶋順子
ジャンボジェットに並行して飛んだ円盤——久保田八郎
私の別惑星訪問体験とアダムスキーの真実性——春川正一

No.94 昭和61年7月20日発行 ¥700

テレバシーで飛来した真っ黒い円盤——堀江健一
八丈富士山麓でUFOを撮影——谷口美雄
地球を救う愛の想念放射運動——山崎清美
母船の周囲には人工大気層がある——G.アダムスキー
私は別な惑星へ行って来た/②——春川正一

No.93 昭和61年4月20日発行 ¥700

月面にいた2機のUFO/
超低空に出現した大型円盤と黒い人影/——笠原弘可
私も光体を見た——伊藤達夫
多くの館——G.アダムスキー
質疑応答——G.アダムスキー
私は別な惑星へ行って来た/①——春川正一

No.92 昭和61年1月20日発行 ¥700

偉大な惑星から来た兄弟たち——野口敏治
サン・ビエトロ大寺院の異星人——久保田八郎
米トップ科学者、UFO墜落の事実を認める——ゴードン・クレイトン
質疑応答——G.アダムスキー
地球の哲学と宇宙哲学の相違(完)——松原真弓

* No.91 昭和60年10月20日発行 ¥700

円盤に乗った日本人少年——伊藤達夫
ブラジル人教授の円盤搭乗事件——久保田八郎
質疑応答——G.アダムスキー
太陽系の惑星に知的生物が存在!?
地球の哲学と宇宙哲学の相違②——松原真弓

No.90 昭和60年7月20日発行 ¥700

朝霧高原の不思議な“月”——伊藤達夫
旭川にも月擬装UFO出現——石川晴道
尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船
ムーンゲート第14章(完)——ウィリアム・L・ブライアン
アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法——久保田八郎

* No.89 昭和60年4月20日発行 ¥700

八ヶ岳に出現した円盤——秋山京子
富士山麓にUFO頻出——高梨和明
金星文字解読研究——遠藤昭則
ノアの箱舟とアブラハム——久保田八郎
アステロイド帯と月のクレーター——ウィリアム・L・ブライアン

* No.88 昭和60年1月20日発行 ¥700

驚異の高松市円盤降下事件/
人工衛星による写真と地球上の異様な発見物——伊藤達夫
米政府はUFO問題の真相を公開せよ——ウィリアム・L・ブライアン
太田市上空に頻出するUFO——ダニエル・ロス
不思議な予知夢の実現——久保寺信一
テレバシー開発基礎トレーニング——内藤雄雄
久保田八郎

No.87 昭和59年10月20日発行 ¥700

月と地球は空洞のコアをもつ天体か——ウィリアム・L・ブライアン
宇宙から来る訪問者たちは地球人を指導しようとする——ジェニー・アベ
絶対に真実であったアダムスキーの体験——遠藤昭則
丸窓の並んだ母船が出現/
二十一世紀の地球——後藤澄子
異星人イエスの足跡を訪ねて——松原真弓
久保田八郎

No.86 昭和59年7月20日発行 ¥700

月には濃密な大気と強い引力がある——ウィリアム・L・ブライアン
超低空で接近したアダムスキー型円盤/
山腹に着陸した巨大な円盤!?
アダムスキー型円盤、超低空で出現/
テレバシーと透視②——清水 南
久保田八郎

* No.85 昭和59年4月20日発行 ¥700

宇宙飛行士の月面の演技!?
沖縄のUFO事件——ウィリアム・L・ブライアン
テレバシー送信と奇跡的治癒——新里義雄
ある不思議な一夜——鈴木謙次郎
テレバシーと透視——十菱 誠
久保田八郎

* No.84 昭和59年1月20日発行 ¥700

月の引力は1/6ではない/
私のUFO目撃とGAP活動——ウィリアム・L・ブライアン
スペース・プラザーズは注目している——石川公夫
UFO問題とサイレンス・グループ——伊藤達夫
奇跡を起こす驚異のイメージ法——イブ・ラウルント
久保田八郎

■4月まで売り切れであった号で某所より出てきたものが若干あります。■

大宇宙の子、集合!

(予告)昭和63年度地方支部大会(その2)

第10回 福岡支部大会	
日時	10月23日(第4日曜日) 午後1:00→5:00
会場と交通	「チサンホテル博多」2Fホール ☎092-411-3211 福岡市博多区博多駅前2-8-11 ※博多駅より博多口(北)へ出て正面、徒歩約6分。
会費	¥2,000(希望者のみ全員記念写真代¥800を別納。カラーグランドキャビネ判。送料共)
プログラム	司会 吉岡裕人 1:00 支部代表挨拶 喜多正宜 1:10 会員研究発表 西本有水子 1:40 講演「アダムスキー哲学と超能力開発」日本GAP会長・久保田八郎先生 3:00 休憩・全員記念撮影 3:30 全員自己紹介、質疑応答 5:00 閉会 ※九州男児の強固な団結のもとに堅実な前進をする福岡支部がまたも先生を迎えて6回目のセミナーを開催します。心あたたまる歓迎をしますので多数ご来場下さい。
夕食会	大会終了後、6:00より希望者による夕食会を同じホテルの別室で開催します。 会費¥5,000
宿舎	「チサンホテル博多」をお世話します。 シングル ¥5,500(税込) ツイン ¥9,900()
申込	大会、夕食会、宿舎、観光の申込はハガキに記して10月22日までに下記へお出し下さい。電話でも結構です。 〒814福岡市城南区金山団地40-204 喜多正宜 ☎092-863-5438
観光	大会翌日は希望者で福岡市内観光。朝10:00ホテル前出発。午後4:00博多駅前解散。 費用¥3,000程度(昼食代共)
備考	大会会場は前回と同じ場所です。会場ではGAPのESPカード、テレホンカード、シール等の即売もいたします。 ※10月の月例会は大会開催のため中止。

ていた目にはとてもまぶしく見え、少し泳いでなかったけれど、りかかかって海を眺めていると、いかにも南国だなど感じました。

ワシントン市でのアリス・ポマロイさんの歓迎会では、ポマロイさんの「その人を好きでも嫌でも愛することはできる」という話に感動しました。私も自然にこのように生きてゆけたらと思います。ポマロイさんはユーモアと愛に満ち溢れた人を私を強く抱きしめてくれたことを忘れることはないでしょう。

この旅ではいろいろなことを学び、普段はわからない自分の欠点に気づくことができました。この経験を大切にして私のこれからの旅に生かしていきたいと思っています。

最後に、この旅の間、多くのことを与えてくれた皆さん、そして素晴らしい旅を企画して下さい久保田先生、田中さんに心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ポマロイ夫人のそばにア氏がいる

東京 安藤博子

六年前の「アメリカ・メキシコ・カリブ海の旅」以来メキシコに魅せられて、もう一度行きたいと思いつけておりましたが、念願かなって昨年の旅行に参加し、素晴らしい十二日間を過ごすことができました。企画された久保田先生、田中さん、どうもありがとうございました。

最初がメキシコに思いを馳せていたのですが、今回のアメリカは過去二回の旅行よりも得るものが多く、印象深いものとなりました。

まずデザートセンターに行くバスの中で、胸の中が熱くなるような高揚感で一杯になりました。スペース・プラザがすぐそばにいます。うな気がしました。三回目のパロマー・ガーデンズだったのですが、こゝも新鮮な所でした。ア氏の書物のように——ア氏が愛した樫の木を見ていたらア氏がそこにいるように、胸が一杯になりました。

もう少しアメリカにいたいと思いつつメキシコへ行きました。メキシ

コで特に私のお気にいりはバレンケの遺跡です。そこにいるだけで心が落ち着き、このままここで過ごせたらと思ってしまうほど。湿度が高くて蒸し暑いのですが、私にはそれさえも心地よく感じています。

夜遅くニューヨークに着き、ホテルのロビーに行くと、久保田先生とポマロイ夫人が話をしていました。夫人を見てみると、あのパロマー・ガーデンズの樫の木を見て感じたのと同じように、アダムスキー氏がポマロイ夫人のそばにいます。アリーン・トントン墓地へ行った時も同じように感じて大へん感動しました。

ワシントン市は公園のような都市で美しい所でした。

今回はメキシコに行きたくて参加したのですが、旅を終えてみると、印象深い所はア氏ゆかりのものが多く、ア氏ゆかりの地は何回行っても素晴らしい所なのだ改めて感じました。ありがとうございました。

幼い娘をつれて行って、皆さんに可愛がって頂き、心から感謝しております。



▲アリス・ポマロイ女史と共につるくGAP旅行団。昭和62年8月、ニューヨークにて。(撮影=樽谷杉雄)

ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳 全8巻 B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

偉大な進化をとげた惑星の人々とコインタクトしたアダムスキーの驚くべき体験と、深遠な宇宙的思想を伝えたこの全集は、人類に宇宙的覚醒と真の生き方を示す最高の指針。UFOと宇宙哲学の研究者必読の名著です。

1 宇宙からの訪問者

ジョージ・アダムスキーのあまりにも有名な体験記。一九五二年十一月二十日に米カリフォルニア州の砂漠で金星人と会見した体験、空飛ぶ円盤は着陸した。本書の第1部とし、円盤や母船に乗り、多数の異星人と会見した記録を第2部とした驚異的な書物。本全集の中心をなす最も重要なもの。

5 テレハシー開発法

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレハシー能力の開発法を説明したもの。特に目・耳・鼻・口の四方をコントロールして、内部の意識から来るテレパシクな印象を感受する方法を詳しく解説し、他人と無言の会話をを行う技術を進べた、類書の全く存在しないガイドブック。

2 UFO問題の真相

第1巻の補遺的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特に円盤の推進理論や、聖書とUFOとの関係を述べた箇所は重要である。第2部はアダムスキーの世界旅行記。各国のGAPグループの活動と反応や、サイレンス・グループの妨害が克明に描写されている。

6 生命の科学

アダムスキーが他界する数年前に出した「The Mind」と題する十二分冊の講義を和訳して一書にまとめたもの。アダムスキーの宇宙的哲学の体系的な一大金字塔で、真実のテレパシーと心霊的な遠隔通信の相違を明確に、心霊現象への接近を警告する画期的な書。

3 UFOとアダムスキー

アダムスキーが実際に体験した母船による宇宙旅行を詳細に述べた「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本書第1部「死と空間を超えて」が、またアダムスキーが存命中に日本GAP会長・久保田八郎に送り続けたばう大な情報と書類類を取録して第2部とした。

7 アダムスキー論説集

日本GAP機関誌に掲載されたもので、単行本化されていないアダムスキーの論説や講演録等を網羅編さんしたものである。特に死去する直前の最後講演を第2部にはアダムスキー研究者として名高い久保田八郎が数度渡米してアダムスキーの高第たちとインタビューした記事を取録。アダムスキーの偉大な面が描写されている。

4 宇宙哲学

人間のセンス・マインド(内心の心)と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進化させる方法を明快に理論整然と説く。この哲学は、人間の意識・物質との関係の解明と応用とをめざす21世紀の科学の最先端をなすもので、アダムスキーの哲学関係三著作の中心となるもの。

8 質疑応答集

アダムスキーは一九五八年に質疑応答集を自費出版で頒布した。五分冊から成る小冊子で、全部で百問百答と回答を取録してある。内容は現在の混沌とした世界のUFO研究界に的確な解答と示唆を与えるものとして驚くほど新鮮である。これで本全集はア氏の重要な文献すべてを網羅した。

発行所直接注文の場合に限り、左記のように定価送料をサービスいたします。

送料をサービスいたします。郵便送料は別料金です。送料をサービスいたします。

■申込先▶文久書林 〒113 東京都文京区西方1-19-10 西方ハウス2F ☎(03)813-9561 振替/東京4-2521 [日本GAPでは取り扱いません]

英文版 UFOcontactee No.4 B5・12頁・コート紙使用 ¥400(送料¥170・3冊まで¥240)

久保田会長が心血を注いで作った英文版Uコンは世界各国のUFO研究団体間で絶賛を博しています。春川正一氏の宇宙的体験談(第2回)、アダムスキーの質疑応答集Q12よりQ31までを掲載し、昭和62年度日本GAP総会を写真入りで報じた国際的文献。英語学習にも好適。注目は振替または切手で日本GAP宛にどうぞ。

編集後記

★本号も厳選した記事と珍しいカラー写真により、UFO問題を高次元な視野でとらえたと自負します。ご精読下さい。

★「UFO目撃で驚嘆、大変化した私」は、とかく恐怖の対象にされがちなUFOが実際は、良き美しい物であることを示唆します。

★「仙台市上空に……」は「存じUFO目撃男・遠藤昭則氏の最新情報です。松村芳之氏の写真も見事に物体をとらえています。

★「富士山周辺……」は東京月例会常連の一人、長沼宏志氏の執念と忍耐力の成果です。氏はその後も行っているようです。

★「ミラクルワード……」も感動の手記でして、田中氏はGAP内で有名な方です。高貴な愛の精神の実践体験に打たれます。

★久方ぶりに春川正一氏にご登場を願って、またも素晴らしい話を一同で聞きました。二十頁からの記事をお読み下さい。

★「UFO」宇宙からの完全な証拠も本号には原書から珍しい写真類を転載し、火星のペーブルがぬがされて驚くべき素顔が明るみに出ました。今年九月は火星が大接近。話は佳境に入っていきます。

★その九月にはアリス・ボマロイ女史を迎えて大講演会を開催します。詳細は四十三頁。多数ご来場下さい。申し込みは早目にどうぞ。

★UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学、宇宙科学等研究等の原稿を募集します。心霊的なものはご遠慮下さい。採用分には薄謝を呈します。

★本書は約百十名のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この奉仕活動に参加を希望される方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP機関誌・季刊 秋季号
 UFOcontactee 102号
 編集発行所 久保田八郎
 〒113 東京都江戸川区本一色1-12-1 511
 電話 03-6511-0955
 振替 東京4-359112
 昭和六十三年七月二十五日発行
 定価九〇〇円・送料二〇〇円
 ※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会 費	携 行 品 ・ 行 事
東京 本部	毎月第2土曜日 午後1:30→6:00 ※8月のみは第4土曜日の27日に開催し、会場も皇居北の丸公園内科学技術館6F大会議室に変更。 ☎03-212-8471	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。JR「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいすぐ。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-651-0958	会場費 ¥500 セミナー 受 講 料 ¥1000 計 ¥1500	1:30→2:10 会員による体験講演。 2:15→3:30 久保田会長による「宇宙哲学」「アダムスキー論説集」講義。 テレバシー練習、近況報告、自己紹介、質疑応答。
大阪 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車「吹田駅」下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会。
新潟 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	長岡市今朝白1丁目「けさじろ荘」 ☎0258-33-7400。長岡駅東口より徒歩5分。無料駐車場あり。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会。
福岡 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※10月は大会のため月例会は中止。	福岡市天神町5丁目1-23「福岡市民会館」3F 国際会議室 連絡先=喜多正直 ☎092-863-5438	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習。
名古屋 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国直 ☎0586-45-6468	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・テレバシー練習・座談会。
仙台 支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20 ※8月のみ第3日曜日の21日に東7番町の仙台市農協会館2F小会議室に変更。 ☎022-297-5311	仙台市1番町4丁目141(イオン)ビル内5Fエールパーク仙台セミナー室 ☎022-268-8300。仙台駅よりバスで県庁市役所前下車、三越デパート隣。 連絡先=笠原弘司 ☎022-295-0725	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会。
山形 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	山形市小白川町「社会福祉センター」 ☎0236-42-5181。山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会。
札幌 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-822-8260	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会。
静岡 支部	毎月第1日曜日 午前10:30→5:00 ※午前中は「生命の科学」の研究会。テキスト持参。	静岡市黒金町「静岡労働会館」5階会議室。 ☎0542-21-6280。静岡駅北口より徒歩5分。 連絡先=野口敏治 ☎0542-86-7729	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表。
旭川 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市6条通4丁目「勤労者福祉会館」2F小会議室。 ☎0166-26-1304。 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・質疑応答・テレバシー練習。
群馬 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	群馬県太田市「社会教育総合センター」3F。 連絡先=久保寺信一 店: ☎0276-25-5958 自宅: ☎0276-45-3544	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。座談会。
青森 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163。 連絡先=田村嘉彦 ☎0177-38-0416	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表等。
沖縄 支部	毎月第4土曜日 午後6:00→10:00	那覇市寄富1-2-1「那覇市民会館」1F A会議室。 ☎0988-55-5081。与儀公園の隣。 連絡先=新里義雄 ☎0988-54-1623	¥1000 (積立金共)	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・想観察とテレバシーの研究報告・自己紹介・座談会等。
秋田 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会。
神奈川 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	川崎市川崎区富士見2-5-2「川崎市立労働会館」4階4号室。☎044-222-4416。JR京浜急行「川崎駅」下車。市バス・ふ頭線・労働会館前。 連絡先=清水 正 ☎0488-66-7048	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・座談会等。
茨城 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※9月の月例会は東京総会出席のため中止。10月は9-10の移動月例会に入室。申込は☎0298-52-3573石井まで。	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集會室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。
長野 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車・徒歩5分。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0605(呼・田中)	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」と「宇宙からの訪問者」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会。
栃木 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市(市役所裏)「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車、徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。
長崎 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	長崎市魚の町5番1号「長崎市民会館」 ☎0958-25-1400。公会堂電停前。 連絡先=元木和雄 ☎0958-22-5521	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。
鎌倉会	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※9月は移動月例会。	鹿児島市与次郎2丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=鶴田清剛 ☎09932-5-4398	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。

A あなとも超能力者に「なれる」/
テレバシー能力開発用ESPカード

テレバシー、透視力開発用のESPカードはアメリカのデューク大学で科学的に開発されたゼナーカードが主体になっています。色カードは目を閉じたまま各カードの上に手をかざして色の発する波動を感じながら色を言いあてる練習に使用するものです。堅牢なプラスチック製。



50枚1セットケース入り 使用説明書付き
 ¥4,800 送料¥350(2~5個¥700)



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャピネ判・カラー写真) [上半身写真もあり、定価¥600]
 ②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判・カラー写真) 上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。

①¥600 送料¥120 } 一括注文の場合送料¥120
 ②¥300 送料¥60 }

C 大いなる信念と勇気を与えるGAP能力開発テープ

毎月行なわれている日本GAP東京本部月例研究会のなかから、日本GAP会長・久保田八郎先生が宇宙的フィーリングをもってアダムスキーの名著を解説した講義などが収められたテープ。ドライブ中や、通勤・通学電車内で、あるいは就寝前に聞いたりすれば絶大な信念と勇気がわき起こります。5月分より在庫。☐ドルビー録音・ドルビー編集。

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ①

内容=「宇宙哲学」、「アダムスキー論説集」解説講義/近況報告/質疑応答(一部)

テープ1本(120分) ¥1300 送料¥200

*このテープは日本GAPでは取り扱いません

◆申込先◆ 〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202 松村芝之 ☎03-653-9387 振替・東京0-162644

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ②

内容=「宇宙哲学」、「アダムスキー論説集」解説講義/テレバシー実践講義/テレバシー練習(テキスト付)/近況報告/質疑応答(全部)

テープ2本(90分×2本) ¥1900 送料¥240

会員募集

日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団/多数の会員と共に宇宙の人間を目指そう/入会案内書をハガキで日本GAPへ申し込もう!

—日本GAP—

D GAPテレホンカード

第1回のテレホンカードは好評裡に品切れになりました。第2回目は金星の田船を黄金色であしらった優美でシンプルなデザインです。少数につき早目にご注文を。



1枚¥1500 送料10枚まで¥60

E 会員バッジ

ジョージ・アダムスキーが金星人から与えられた唯一のバッジと形、色全く同様に複製した径18mmの丸い優美なバッジです。薄青色地に金色のシンボルマークが浮彫りされており、縁も金色です。表面には透明樹脂がかけてありますからキズがつかず、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏側が心棒ネジどめ式、女性用は裏側が安全ピン式です。ぜひお求め下さい。ご注文のさいは男性用・女性用の別を明記して下さい。(無断複製を禁じます)



実物大

1個¥2000 送料4個まで¥120



新作! **GAPシール**

シールを製作しました。WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識と共に)の文字がシンボルマークを取り囲む優雅なデザイン。径6cm、5cm、4cm、3cm、2cmの5枚1セット。青と赤の2種類あります。自動車の窓、運転台、カバン、書籍・ノートの表紙、その他の持ち物に貼っておけばいつも宇宙的フィーリングに満ちて気分さわやか。良き想念が良き物事を招きよせます。表面光沢。防水加工。裏面のり付。ご注文の際は、青、赤の区別をお忘れなく。

1セット¥900 送料5セットまで¥60

◎を除く商品の
 申込先・申込方法

住所・氏名・電話番号・商品名・種類・色・個数等を明記の上右記へ郵便振替または現金書留でお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP
 振替/東京4-35912 ☎03-651-0958

サブリミナルテープを無料で差し上げます!!

サブリミナルテープをBGM音楽として聴くだけで

あなたの人生が変わる!

「記憶力・集中力強化」「女性にもてる魅力的な性格」「性エネルギーの強化」「恋愛・仕事の成功」最高の頭脳等々を全く努力なしに現実のものにしてくれる奇跡のテープ「サブリミナルテープ」がアメリカからやってきました。

発売を記念して先着500名の方に試聴用テープを無料で差し上げます。今すぐおハガキ・お電話でお申込み下さい。



先着500名様限り
 1987年10月10日
 1987年10月10日
 1987年10月10日
 1987年10月10日
 1987年10月10日

集中力強化
 記憶力強化
 恋愛成功
 仕事成功
 自信アップ

「朝日放送」「文化放送」「TBSラジオ」等でも紹介

あのハルバーン博士が
 あなたのために制作!!
 「魅力的な性格」「潜在能力開発」「理想的恋愛の実現」「仕事・勉強の能力向上」「最高の頭脳……これらを努力なしに現実のものにしたい」これはどんな人でも多かれ少なかれ持っている共通の願望でしょう。ところがこの夢をいとも簡単に実現してしまうテープがアメリカでは知らない人はいないほど有名な心理学博士スティーヴン・ハルバーン氏の開発したサブリミナルテープです。博士の手にあるサブリミナルテープは、米国で昨年一年間だけで五十数万本という驚異的なベストセラーを続け、その確かな効果が表証されています。

「BGMとして聴くだけで効果が!!」
 このサブリミナルテープ、耳に聴こえるのは、うっとりするような美しいメロディーの心がゆったりとくつろいでくる静かな音楽だけです。日本の曲でいえば、喜多郎の音楽にイメージが

- ◆数多くの目的別テープを販売中◆
- 現在の左のテープをはじめとして、「能力開発」「恋愛成功」「ビジネス能力向上」「魅力的性格づくり」「遠慮・学習能力向上」等々をテーマにしたシリーズを販売いたしております。
 - 大脳の活性化を促す
 - 心身の緊張をとる
 - 女性を魅了する
 - 集中力の強化
 - お金を引きつける
 - 個性的魅力を出す
 - 自信をつける
 - 勉強の習慣をつける
 - 学習効率を上げる
 - 遠慮能力をつける
 - 禁煙の実行
 - ストレスコントロール
 - 積極的思考の習慣づけ
 - コミュニケーション能力の強化
 - 減量の実現
 - 性エネルギーの強化
 - スポーツ・運動の習慣づけ
 - さわやかな毎日を送る
 - 他人を無条件でひきつける

● スティーヴン・ハルバーン博士のプロフィール ●
 音楽・音・言葉の潜在意識への作用の研究で世界的にその名を知られる心理学博士。学者であると同時に、理想音楽の神様としても米国はもとろンヨロバ各国にその名が知られ、世界的なファンを数多く持っている。博士の音楽は鑑賞用の音楽としても高く評価されているが、博士の長年の研究のうえに、テープに凝縮した「音楽の薬」としての効能も医学・心理学・教育関係者の間で高い評価を受けている。いろいろな分野で博士の音楽を取り入れてきている。カイザー・マリアンアント病院をはじめ全米の一流の医療機関では、博士の音楽を薬品の代わりとして患者に与え、素晴らしい効果を上げている。

先着500名の方に試聴用テープを無料進呈中!!

■ サブリミナルテープは、アメリカでも「ウォールストリートジャーナル」「タイム」「オムニ」等に記事として取り上げられ話題になっています。

■ 当社のサブリミナルテープは、雑誌・新聞等で大きく取り上げられたのをはじめ、文化放送「やる気まんまん」、TBSラジオ「日本全国8時です」等でも「アメリカからやってきた驚くべきテープ」として大々的に紹介されました。

■ 試聴用テープをご希望の方は、「無料サンプルテープ1希望」と明記の上、ハガキ・電話でお申込み下さい。

試聴用サンプルテープと詳しい案内書を無料でお送りします。(サンプルテープの返品義務や商品購入の義務は全くありませんので安心して申込み下さい。)

● 今回お届けする「無料サンプルテープ1」はS・ハルバーン博士の自らの作曲になる、7つの波動レベルからなる心と体そして頭脳を最高のくつろぎの状態に導く音楽に、耳に聴こえない言葉を同調させたアメリカで最も人気のあるテープのひとつです。

● 当社では「恋愛成功」「ビジネス成功」「魅力的性格づくり」「潜在能力の開発」等々の数多のシリーズを販売

〒107 東京都港区南青山1-26-4
 アメリカンライブラリー社 UFO(株) 係
 電話 東京03(479)5864 (受付時間 8時~PM24時 日・祭日も受付中)

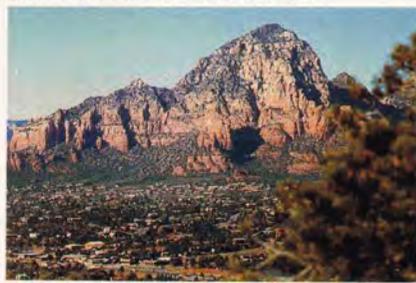
●「セドナ・リサーチ・プロジェクト」参加者募集中●

この不思議なエネルギーで

あなたには何が起ころるか？



▲アリゾナ州セドナのエネルギースポットのある岩山



▲セドナの町の遠景

男女の別、年齢層等によってバラつきはあるが、以上のような心理的変化・肉体的変化を報告した人が90%を超えた。又、次のような神秘的体験を報告した人

- 「氣」が非常に満ちあふれてくる
- 自分自身に対する自信のようなものが出てくる
- 意識が高まり気分が高揚してくる
- 他人へのやさしさ、人類愛のような次元の高い愛の感情が自然に出てくる
- 深い瞑想状態に非常に入りやすくなる
- 呼吸が自然に深くなる
- 体がホカホカ暖か心地よくなる
- 夜よく眠れるようになる
- 歯痛や頭痛が早くなる
- 肩こりがなくなる
- 腰痛や頭痛が早くなる
- 集中力が増す
- 創造的意欲、芸術的感性が磨かれる
- 直観力が非常に強くなる

セドナ・エネルギー・ストーンにふれた 150名のアメリカ人の体験データの部



まもなく申込を
締め切らせていただきますので
お申込みはお早目に!

セドナ・エネルギー・ストーンの小片とエネルギーを調整する金箔がカプセル内に入っています。ヘッド部分はセドナを聖山と仰ぐ有名なホビ・インディアン像の陶像（銀製）専用チェーン・専用ケース付

今、アメリカのアリゾナ州の観光地グランド・キャニオンに近い、セドナという小さな町が不思議なエネルギースポットとして熱い注目を浴びています。4次元の不思議なエネルギーを放出しているそのセドナのエネルギースポットの地下深くから、超能力者の協力によって掘り出された「エネルギー・ストーン」——これを部屋に置いたり、身につけたアメリカの人々が種々の心理的変化や超常現象を体験しています。

セドナの不思議なエネルギーを研究しているアメリカのR・Aと協力して、日本ニューエイジセンターでは、ペンダント化したセドナのエネルギー・ストーンを多くの人に身につけてもらい、その体験報告を統計的に分析して、この不思議なエネルギーの性質を探る「セドナ・リサーチ・プロジェクト」を企画し、参加者を募集しています。参加の「案内」をご覧の上、積極的にこのエキサイティングなプロジェクトにご参加下さい。

超能力者の透視による情報

も多かった。

- 顔や手足から金粉が吹き出した
- 固体離脱を初めて体験した
- 正夢や予知夢をたびたび見るようになった
- 自分の前世と思われる記憶ビジョンが潜在意識の奥深くから湧き上がってきた
- オラが見えるようになった
- ヒーリング（病気治療）能力が身についた
- サイキックな体験をしばしばするようになった
- 目が見えない「実体」からインスピレーションやアドバイスを受けるようになった

何名かの超能力者の透視によると

- 通常の電磁気とは次元の違う「電磁氣的エネルギー」が渦巻き状に出ている
- 石の表面に幾何学的な模様が見え、状態に並んで見える
- 金色やエメラルドグリーンの美しいオーラが多量に出ている
- この石のエネルギーは、人間の意識を目覚めさせたり、マインドパワーや肉体的活力を高めたりする非常にレベルの高いバイブレーションを持っている

「セドナ・リサーチ・プロジェクト」 参加のご案内

「電氣的エネルギー（男性的エネルギー）の強いアメリカとは対称的な磁氣的エネルギー（女性的エネルギー）が非常に強い日本列島の土地に長く住む日本人には、この不思議なエネルギーがどのように作用するか？」を調査するため、セドナ・リサーチ・プロジェクトが企画されました。

現在、日本全国から参加者を募集しています。応募資格は16才以上の男女で、一定期間ペンダントを着用し心理的変化・肉体的変化を体験報告として提出していただく。感受性豊かな方であればごなたでも応募できます。

参加者にはペンダント代金、5,000円の支払い（ペンダント到着後7日以内に同封の払込用紙にて送金）と体験報告提出義務づけられ、又「セドナ・エネルギー・ストーン情報」と「今回のプロジェクトの結果報告」を無料で受け取れる特典があります。（ペンダント到着後7日以内にペンダントを返品すれば参加はキャンセルできます。）

◆申込み方法

住所氏名・年齢・生年月日・電話番号・

◆セドナ地区は環境保護地域のため、今回お届けするエネルギー・ストーンは特別採掘許可を受けて掘り出され極少量の限られたものです。日本に送られてきた分がなくなり次第、申込を締め切らせていただきます。（申込多数の場合は先着順となります。）（今後セドナ・エネルギー・ストーンが大量に市販されることは物理的に有り得ません。）

〒101 東京都港区赤坂9-6-27
日本ニューエイジセンターUFOフーズ
電話 東京 03(479)6576
受付時間AM10:00~PM20:00